

熊本まちなみ展

熊本市では展覧会やシンポジウムが開催されるので、「くまもとアートポリス'92」というのは、それだけのイベントで、専門家向きであるという誤解を生じないようにする必要がありました。そのような前提のもとで、専門部会の皆さんと練り上げた目的は次のようなものでした。

- ①「くまもとアートポリス」をあらゆる年代の皆様に知っていただくこと
- ②くまもとアートポリス'92の雰囲気準備期間を含めて盛り上げること

- ③アートポリス構想の目的や、ものを創ることをアピールすること
 - ④できるだけ多くの方々に直接参加していただくこと
 - ⑤賛否両論で激しいアートポリスへの本音の意見を、公開の場で言える機会をつくること
- そこで決まった熊本まちなみ展のテーマは「自分で創りたい」でした。このような目的やテーマを基に検討した結果、次の事業を実施いたしました。

イベント	日程	会場
ファミリー・ワークショップ	8/2~9	熊本市生活環境保全林お祭り広場
施工者シンポジウム	10/3	熊本市青年会館大ホール
住宅ワークショップ	10/4	県営住宅保田窪第一団地中庭
設備シンポジウム	10/21	県立劇場大会議室
構造シンポジウム	10/24	県立劇場大会議室
アートポリス体験オリエンテーリング	11/1~8	11月の全イベント会場
ウインドー・ギャラリー	11/1~8	熊本市上通り商店街
遊合空間・ジョイントアート展	11/1~8	パルコ・パーキング・イベントホール
アートポリス新旧まちなみ展	11/1~8	熊本上通郵便局プラザJ
創作生け花展+児童絵画コンクール作品展	11/1~8	熊本北警察署ロビー
ナイト・イルミネーション	11/3~8	県立美術館分館
協賛イベント		
TOKYO URBANART COMPETITION 1992 優秀作家展	11/9~15	パルコ・ルナホール
	11/9~12	熊本市下通り商店街
	11/13~15	熊本市上通り商店街

“遊合空間”ジョイントアート展



熊本まちなみ展のメイン会場である本会場は、アートポリス展覧会の第2会場として位置づけ、市民の方々や専門家の方々のも楽しんでいただけるよう様々な分野の展示や音楽を渾然と催しました。

それらを融合し、会場全体があたかも一つの作品となるよう質の高い展示空間を創出するために、アーティストの方々に空間構成と作品制作をお願いしました。

◆期 間：平成4年11月1日～11月8日 10：00～19：00

◆会 場：パルコ・パーキング・イベントホール

◆入場者：約1800人

◆制作者、協力スタッフ：

空間ディレクション 岩田恒介、古澤伸一郎、前田信明

作品出品 井川惺亮、内野博夫

ゲート制作 坂崎隆一

協 力 永井 明(音響デザイン)

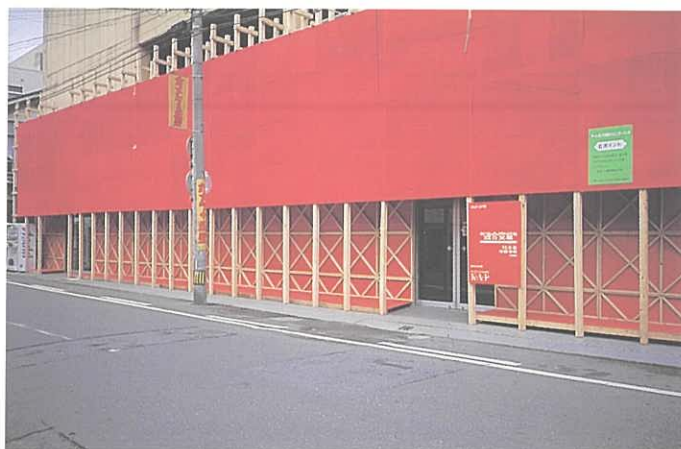
宮原良高(音響制作)

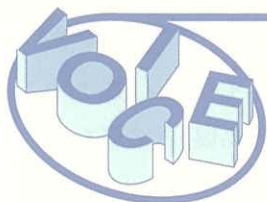
大塚晶子(ファイバー・ワーク)

荒瀬周一(制作)

熊本信愛女学院高等学校美術部(制作協力)

熊本信愛女学院高等学校3年美術受講生
(制作協力)





数年前、仲間の忘年会に緒方理一郎さんが顔を出されて「設計中の市営団地に複数の彫刻を置きたいが造らないか…」という話をされた。これが僕とアートポリスとの最初の出会いだったように思う。翌年亡くなられた緒方さんは、最後の仕事としてどんなプランを持っておられたのかと、完成した新地団地Bの写真パネルを見ながら考えた。「ジョイントアート」展では「美術と建築の融合」をテーマにしたが、それは緒方さんがアートポリスで実現させようとしていたことではないかと思う。

会場は、楽しみながらアートポリスや建築に関心を持ってもらうことを心がけたが、建築家と美術家の仕事の接点を模索した空間になりえただろうか。僕にとって、今回の取り組みを通して熊本の多くの建築家の人たちと知り合いになったのは大きな収穫であり、豊かな「美術と建築の融合空間」の実現に向って、これから熊本で新しいページが拓かれていくことを切に願う。

岩田恒介

(くまもとアートポリス'92実行委員会まちなみ部会)

世界の椅子展 “アートと出会う椅子たち”

建築とアートの中間的な存在であり、建築にあまり関心のない方でもすんなり受け入れることができる“椅子”。会場内の催しでは展示品が客席となることも考慮し、世界の椅子の名品72点を会場全体にくつろいで座れるよう展示。“遊合空間”に一般の方々が入り易くなるような、また、楽しめるような企画。



熊本アートポリスマちなみ部会の実行委員として一年間参加させていただきました。遊合空間(ジョイント・アート展)も最初はスムーズに行くかと思いましたが会場構成も中々まとまらず、議論が沸騰しました。ジャンルの違った作品展示のむずかしさを知らされました。なつかしい思いでの一つです。一方多分野の人達が参画されたことが、既成概念にとらわれない、新鮮さが表現されたことも収穫でした。複数の芸術家による空間造形「ジョイント・アート展」「世界の椅子展」「市民による建築の提案展」「匠の

技展」デザインコンペティション「都市に浮かぶベンチの応募作品展」と多彩な展示内容でした。

世界の椅子展を担当いたしました。県・市民の皆様に見て、触れて、座っていたことで、当初の目的をはたせた満足感で一杯です。建物も、芸術も、家具も人間が使いこなしてはじめて、いかされます。熊本アートポリスも第一期を終了しました。アートポリスが郷土に根付き一人歩きできるよう切望いたします。

七谷亜紀彦

(くまもとアートポリス'92 実行委員会まちなみ部会)

匠の技展“技の心”



アートポリスの様々な建物に生かされている熊本の技術を広く紹介することで、その技術を将来に伝え引き継いでほしいという願いをこめての企画。

- ◆出品者：鬼瓦 藤本勝巳
 鋳絵 松川 進
 ” 中島末人
 金工 木村鐘靖
 木工事 吉田耕三、鈴川 弘、田中明敏、
 中田征治、松本静喜、松尾亮二



熊本まちなみ展オープニング トーク&トーク

- ◆日 時：平成4年11月1日 13:00~14:15
 ◆テーマ：芸術と建築空間は融合できるのか
 ◆出演者：岩田恒介、坂田一幸、七谷亜紀彦、新納至門、
 古澤伸一郎、前田信明、山田 穰



コンサート・古楽アンサンブル

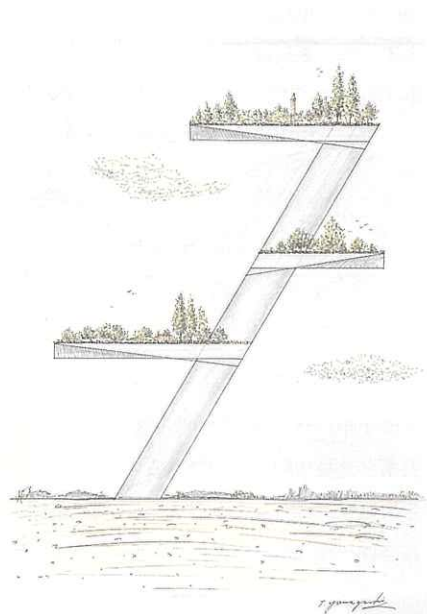
- ◆日 時：平成4年11月7日 18:30~19:30
 ◆演 奏：グループ「葦」(12曲)

熊本まちなみ展エンディング トーク&トーク

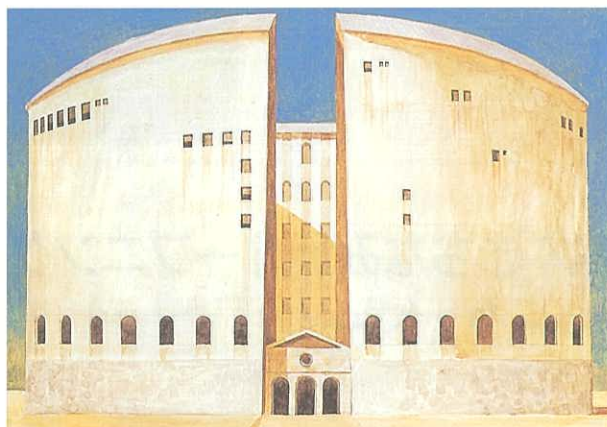
- ◆日 時：平成4年11月8日 16:00~17:00
 ◆テーマ：市民からまちづくりへのメッセージ
 ◆出演者：井上正敏、坂田一幸、砂川真澄、友村年孝、
 吉沢直美、山田 穰

市民による建築の提案展 “非建築家による建築プラン展”

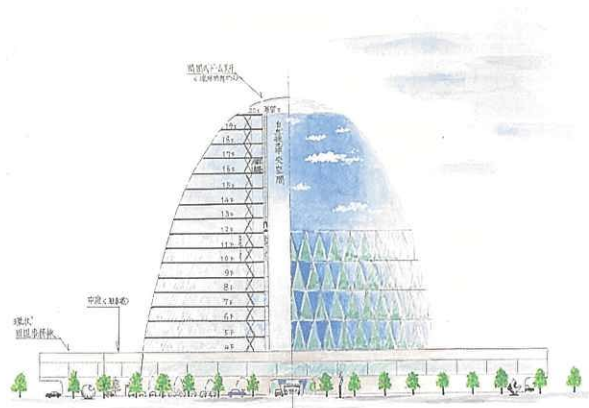
画家、歌人、音楽家、デザイナー、会社員、教師、主婦等、様々な立場の方々に、まちづくり、環境デザイン、建築デザイン等への提案をA3用紙に自由に表現してもらい、額装して展示。一般の方々の「くまもとアートポリス」に対する関心を高めるとともに、その提案が新しい刺激を与えてくれることを期待した企画。出品48点。



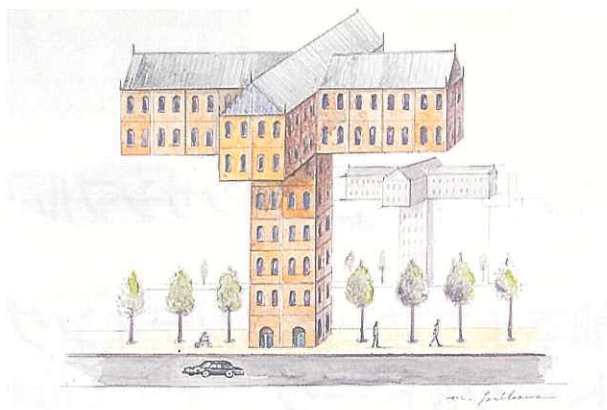
山口輝也「空中庭園」



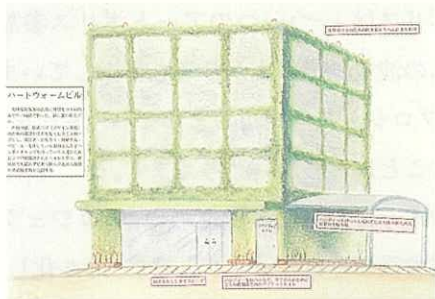
東 弘治「刑務所のためのプラン」



宮崎昭吾「卵型ドーム式ビル」



芹川光行「連帯（この1棟を1Unitとして連結してゆく）」



友村年孝「ハートウォームビル」



野口みさを「マンダラ的な新・新しき村」



谷脇敏二「21世紀の都市創り」



話題になっていた『ウルトラマン研究序説』を読了し、『バルセロナ建築物語』という本を読み始めていた時にかかってきた電話から、今回の仕事が始まった。その前から、くまもとアートポリスという歴史に残るべきプロジェクトが、一期でまぼろしにならないようにと思っていたので「準備会」から最後までお付き合いすることになり、これまで縁がなかった分野で活躍されている方々との出会いと共同作業の喜びを味わうことになった。僕の直接の担当だった「市民による建築

の提案展」は、目標とした約50点の多様な作品を集めるのに、苦勞した。結局最後には、昔からの仲間や知人の方々の力を借りることになり、困った時の“友”の有難さを改めて認識した。そして今回さらに、赤いスタッフ・ジャンパーを持った、頼りになるたくさんの“友”ができたのが、何よりも嬉しい。みなさん、ありがとう。そして、これからもどうぞよろしく。

井上正敏

(くまもとアートポリス92実行委員会まちなみ部会)

アートポリス新旧まちなみ展



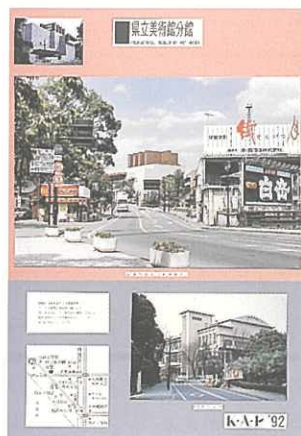
くまもとアートポリスは、一つ一つのアートポリス参加プロジェクトからの波及効果の広がりをも目指しています。そのため参加プロジェクト周辺のまちなみの変化を、定点観測して行くことは意義深いと考えます。そこで、その変化を分かりやすくご覧いただくために、プロジェクトができる前と完成後の写真やコメント等をパネル化し、一般市民が数多く訪れる郵便局に展示しました。展示17点。

◆期 間：平成4年11月1日～11月8日 9：00～19：00

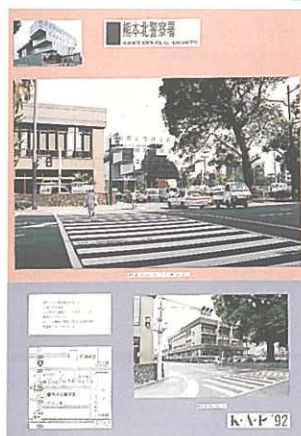
◆会 場：熊本上通郵便局プラザU

◆入場者：約700人

1



2



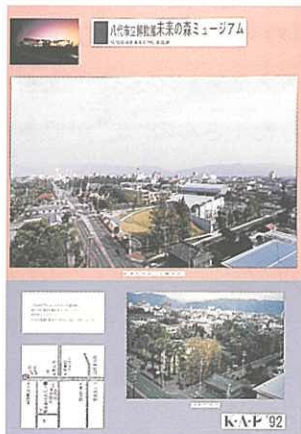
1 県立美術館分館

厩橋から坂を登ると図書館があった。今、その建物が美術館分館として、落ち着きをもった、現代的な建物に変身した。熊本城内に至るアプローチの一つとして、目印的存在になっている。

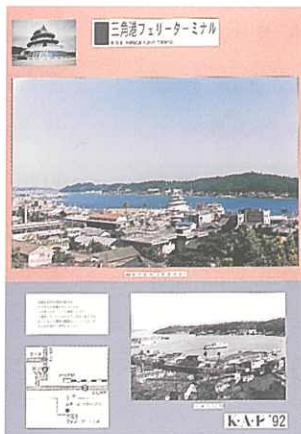
2 熊本北警察署

樹木は今も昔も変わらないが、空間の雰囲気はこの建物の出現によってモダンに一変。斬新なデザインも、ちょっと横から見ると周囲の風景を映し町並みに溶け込んでいる。

3



4



3 八代市立博物館 未来の森ミュージアム

八代の城下町という重厚な意識の中に、軽やかな建物を挿入することにより歴史都市「八代」を、市民の意識に顕在化させることに一役かっている。

4 三角港フェリーターミナル

桟橋と倉庫の港町の風景はあまりにも普通すぎてつまらない。この港はピラミッドの出現によって三角港になったといえ言い過ぎであろうか。屹立するこの建物は螺旋のスロープによってその鋭さを和らげているようだ。

5 県営保田窪第一団地

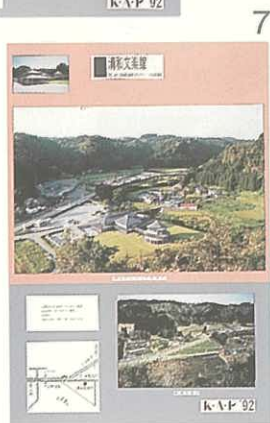
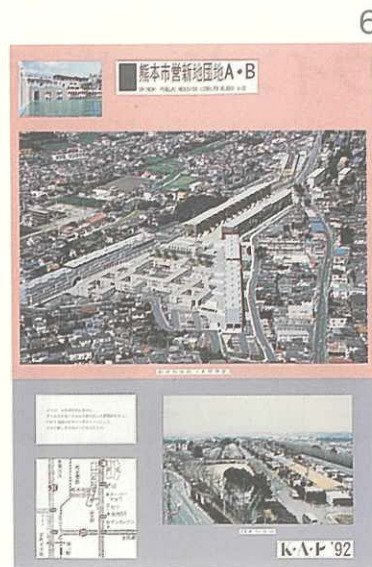
中庭形式の集合住宅である。外部に対して排他的になりがちな配置を、軽やかなテント状の屋根を持ついくつかの棟がやわらげていて、周囲の戸建住宅とも調和している。

6 熊本市営新地団地A、B

スプロールの状況の住宅地に、1つの方向性とリズムを創り出した価値は大きい。やがて地域の核やシンボルゾーンとして、人々に親しまれるようになるだろう。

7 清和文楽館

山間の平地に静かにたたずむ文楽館。左右対称に作られたこの建築は、物静かに周囲の山々に対して溶け込んでいる。



アートポリスの建物は、その地域のまち並や風景にとってどのような影響を与えたのか。その建物や建造物が出現する以前と現在をまち並の中で比較してみようというのが今回の企画であった。

中には「まち並」という観点ではとらえにくい物もあったが、比較することにより単体を観るのとはまた異なった視点が生まれたようである。

私達のパネルのコメントは別として、展示を見た人々それぞれが様々な印象を持ったものと思う。その印象がやがて市

民のアートポリス論、建築論を形成していくものと期待している。

また、この企画は定点観測という意図も持っており1992年のまち並と、アートポリス'96やさらに未来の時点とを比較する予定である。このことで時間とともに変化していくまち並の中でのアートポリスの建物の役割も見えてくるのではないかと思っている。

豊永信博

(くまもとアートポリス'92実行委員会まちなみ部会)

ウィンドーギャラリー



熊本まちなみ展のみならず「くまもとアートポリス'92」全体の雰囲気盛り上げ、また、熊本まちなみ展各会場への誘導を図るために、上通り商店街にバナー(50本)を下げ、地図を書いたモニュメント(KAP ツリー、2基)を設置し、23の店舗に参加プロジェクトのパネルやポスターパネルを展示しました。

◆期 間：平成4年11月1日～11月8日

(バナーは10月中旬～11月30日)

◆会 場：熊本市上通り商店街



アートポリス体験 オリエンテーリング



家族連れや一般の通行者に気軽に、楽しく熊本まちなみ展の各会場を回ってもらうために企画。オリエンテーリングマップを片手に各チェックポイントを、クイズに答えながら回り、ゴールすると、もれなく参加賞を、全問正解者には抽選で景品をプレゼントしました。また、オリエンテーリングマップの裏面は「くまもとアートポリス'92」のイベント紹介となっているので、参加者だけでなく多くの方へ「くまもとアートポリス'92」をPRすることができました。

◆期 間：平成4年11月1日～8日

◆参加者：308人

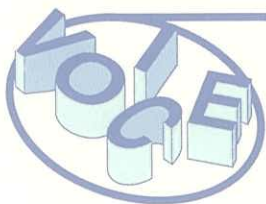
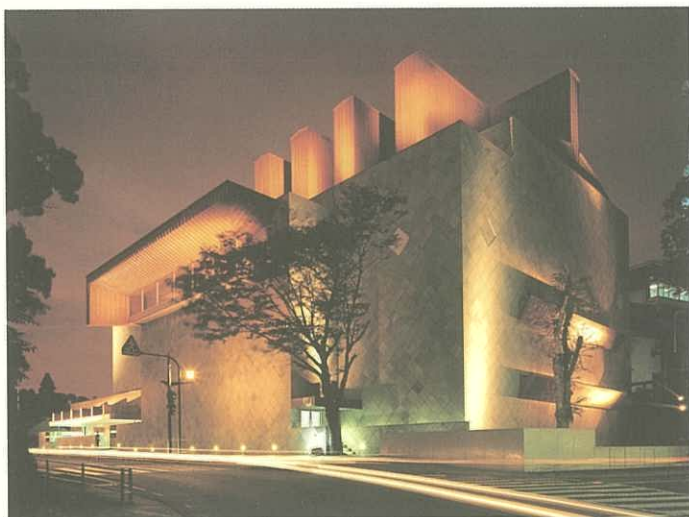
◆チェックポイント：県立美術館分館、上通り商店街のKAPツリー、熊本上通郵便局プラザU、熊本北警察署ロビー、パルコ・パーキング・イベントホール(ゴール)

ナイト・イルミネーション



アートポリス展覧会のオープンをアピールし、夜間景観を演出するために通常はライトアップされない県立美術館分館を、アートポリス展覧会開催の前日から国内外からの見学者が最も多い都市デザインサミットの期間を挟む日程でライトアップしました。

◆期 間：平成4年11月3日～8日 17：00～21：00



平成4年11月3日から8日までの、6日間ではありましたが、熊本城武者返しの石垣の傍らに、^{よろい}黄金色の兜に石の鎧をまとった武将（県立美術館分館）が現われました。

夕暮れ時ともなると肌寒く、緊張感漂うなかに、突如浮かびあがった姿は、多くの人達の五感になんらかのメッセージを送っていた様に思います。石貼りの歩道を歩き、眺めていると、どこか異国の地にでも来た様な、オリエンタルムード

を感じました。また、熊本城とのコントラストも、時の流れを越えた不思議な空間を造り出していました。

しかし、今ではその姿を見ることはできません。陽の光の下の威風堂堂たる姿は見れても、闇夜の中に照らしだされた姿は見れません。

私達人間同様、時間と共に変化していく様子を、昼夜を問わず見れることを夢んでいます。

主海政俊

（くまもとアートポリス92実行委員会まちなみ部会）

創作生け花展



多くの方々にアートポリス参加プロジェクトである熊本北署を訪れていただくために、また、無機的な空間を和らげるために草月会熊本県支部の協力を得て実施しました。また、児童絵画コンクール作品も同時に展示しました。

◆期 間：平成4年11月1日～11月8日

◆会 場：熊本北警察署ロビー

◆出展者：草月会熊本県支部 内田歌抄
斗光南雪
西山莉花

児童絵画コンクール “ぼくの・わたしのアートポリス”



県内全小学校に募集要項を配り、アートポリス参加プロジェクトの絵を描いてもらうことで、「くまもとアートポリス」の目的と建物を知ってもらうことを目的に実施したコンクールです。作品は創作生け花展と一緒に展示。

◆応募総数：376点

◆入 賞：最優秀賞／6点
優 秀 賞／15点
入 選／64点

ファミリーワークショップ “気ままに遊ぼう立田山工作広場”



「くまもとアートポリス'92」を多くの皆さんに知っていただき前景気を盛り上げ、また、創ることの喜びを体感してもらうために、家族・友達連れで参加しやすい夏休みの2週目の日曜日に立田山の広場で催したワークショップ。緑豊かな山の中の公園で、家族などのグループが参加し、主催者が用意した材料を使って、思い思いに何かを作る喜びを体験していただきました。参加者にはもちろん参加賞とインスタント写真をプレゼント。

◆期 間：平成4年8月2日～8月9日(2日が主な工作日)

◆会 場：立田山生活環境保全林 お祭り広場

◆参加者：約350人



「くまもとアートポリス'92」まちなみ展に熊本北警察署にお花をいけることになりました。

日頃あまり縁のないところでしたが、堅いイメージは全くなく、明るい広々としたロビー、モダンな椅子、大理石の床、何一つ見ても完成された美しさ、計算された形と色、異質なものは受け入れない、というような、ある意味の冷たさを感じました。このような場にどう調和させるか悩みました。ああでもない、こうでもないという試行錯誤の中で到達したのは、逆らっても駄目だという思いでした。

それなら可愛い花で、ということになり、材料集め、小割の着色、組立てと忙しい日がつづきました。作品「花宇宙」が出来あがったときは、私達三人何ものにもかえられない充実感を味わうことができました。

係の方や北署の方々の御協力を頂いて、会期中たのしくお花の手入れをすることができました。いい場を与えて下さいました実行委員の方々に心からお礼を申し上げます。

内田歌抄、斗光南雲、西山莉花

(草月会熊本県支部)

シンポジウム

これまで、アートポリスに対する様々な賛否両論が出されていますが、何れもマスコミを通じてのものであり、一方的なものでした。そこで、公の場で様々な立場の人が本音で議論し、批判は真摯に受け止め積極的に改善することで、更にアートポリスを推進するために、3つのテーマでシンポジウムを行いました。

施工者シンポジウム

アートポリスの作り手大集合

様々な面で議論の多いアートポリス構想について、施工者の立場から率直に良い点、問題点を洗い出し、今後のアートポリスや熊本の建築活動の発展に繋げるため、直接アートポリス建造物の建設に携わった担当者の、生の意見を交わしたシンポジウム。

- ◆日 時：10月3日(土) 13:00～16:00
- ◆会 場：熊本市総合体育館青年会館ホール
- ◆座談会：司会 大住和子(槇書房)
- パネラー 千原政晴(株岩永組)
- 永井安一(たしろ住設工業株)
- 羽山真澄(岩下建設株)
- 吉田耕三(旭木材工業株)
- 松本康裕(熊本県建築課)
- サポーター 桂 英昭(熊本大学建築学科)
- ◆参加者：250人
- ◆展 示：施工図、施工写真

設備シンポジウム

快適な職・住環境の創造をめざして

環境デザインと技術の接点について論じるとともに、設備の問題点や環境管理技術としての設備の役割を、様々な立場の方々と交えて討議することで、使いやすい、住みやすい建物設計の在り方を探るために実施したシンポジウム。

- ◆日 時：10月21日(水) 13:30～16:40
- ◆場 所：県立劇場大会議室
- ◆講 演
- 演 題：デザインを解放する環境技術
- 講 師：彦坂満洲男(株郷設計研究所)
- ◆座談会：コーディネーター 石原 修(熊本大学建築学科)
- パネラー 松浦啓子(県立松橋西養護学校)
- 井上清明(安全ビル装備株)
- 岩崎 裕(不二電気工業株)
- 藤本正一(株上田商会)
- 松本安徳(有松本設備設計事務所)
- 村上隆光(株弦設備設計事務所)
- アドバイザー 彦坂満洲男(前掲)
- ◆参加者：350人
- ◆展 示：設備機器等の写真パネル、模型



構造シンポジウム

機能を超えた構造のゆくえ

構造技術の高度化と多様化が進む中で、今後の構造設計の進むべき方向を探るため、また、熊本という地方都市において、アートポリスプロジェクトが構造設計の現状に対しどんな影響を与えたかも検証するために行ったシンポジウム。

◆日時：10月24日(土) 13:00~16:50

◆会場：県立劇場大会議室

◆講演

主催：(社)日本建築学会九州支部(講演のみ)

演題：ニューモダニズムの構造デザイン

講師：佐々木睦朗(佐々木睦朗構造計画研究所)

◆座談会：コーディネーター 三井宜介(熊本大学建築学科)

パネラー 坂本英俊(坂本英俊建築構造事務所)

広永 諭(川崎設計事務所)

アドバイザー 佐々木睦朗(前 掲)

◆参加者：250人

◆展示：構造計算書、構造図、施工図



最初は、「職人シンポジウム」として、アートポリスの作り手からの問題提起ということと同時に職人さんをいかにまもれるかということだったのだが、話し合いを重ねていくうちに、直接の現場あるいは部分としてとらえたのでは問題点がみえてこないということに気づき、施工に関わるすべてのセクションからの問題提起とした。発注官庁との絡み等の問題を乗り越えて快く壇上で発言して下さったパネラーの皆さんには本当に感謝している。また、ややもすると、造り上げた誇りだけが喧伝され、ボルテージが下がってしまうところを、しっかり支保工として支え続けて下さった熊本大学の桂先生に感謝している。さらに素人の立場で、冷汗をかきながら司会をして下さった大住さん。ありがとうございました。

このような、過激なシンポジウムと一緒に企画し、考えてくれた県、あるいは市のアートポリス担当の皆さん。単発に終らせず、続けていくことで熊本から発信しましょう。

後藤道雄

(くまもとアートポリス'92実行委員会まちなみ部会)

住宅ワークショップ “私たちのアートポリス住宅”



くまもとアートポリスの中でも取り分け議論の多い住宅団地が、住民からどう評価されているかを検証し、また、今後のアートポリス構想における住宅団地の方向性を探るために、保田窪第一団地を舞台にワークショップ、イベントや設計者を交えた討論会を行いました。

◆日 時：平成4年10月4日(土) 10:00~18:00

◆場 所：県営住宅保田窪第一団地 中庭

◆参加者：団地住民、一般参加者合わせて約300人

◆イベント：中庭づくり(砂場、ベンチ、植樹)、お住まい拝見、住戸見学、バザー、子供会の踊り、中庭討論会、コンサート、屋台、団子汁会

◆中庭討論会出席者：延藤安弘(熊本大学教授)、山本理顕(本団地設計者)、野田モト、松崎日出輝、橋川弘(以上3人、団地居住者)

◆協 力：県営住宅保田窪第一団地自治会



最もマスコミで話題となった団地でこのイベントを行った。しかし、技術的に解決できる問題よりも本当の問題は団地内のコミュニティがうまく機能せず、あの豊かな中庭があまり利用されていないことであった。このつきあいの密度の希薄さと片寄り単なる形態のみの原因ではないと思われたのである。その一端はつきあいのグループがもどり入居者と新規入居者に分かれていることからわかるのである。とにかく最初の歯車を回さないと、この団地が本来もっ

ている良さが出てこないと思われた。またイベントの目玉の中庭討論会では建物に対する辛辣な意見が出なかったのは残念であったが、この団地の象徴である中庭についての討論会を行ったのは他の集合住宅を考えるうえでも有意義であったと思う。

アートポリスによる集合住宅も、始まったばかりで、これからであると思われる。とにかく継続されることを願っている。

入江雅昭

(くまもとアートポリス'92実行委員会まちなみ部会)

出版物



ポスター



パンフレット



リーフレット



熊本まちなみ展

熊本まちなみ展は8月から10月までのプレイベントを含め4ヶ月に及ぶ実施期間と3ヶ月の準備段階があり、中心となったスタッフは30名余。実施段階では数倍の方々の協力をいただいた。20近いメニューがあり、プロジェクトチーム編成にして、各チームの判断で進行することが求められた。月一回の全体会はそのメニューの相互調整と熊本まちなみ展のコンセプトづくりが主議題となり、企画の詳細と平行し、変則的な運営であった。「実施可能なこと」と「したいこと」の間で揺れながら予算、時間、そして外的要因という現実的なことで企画内容が決められていった。

8月から10月までの2つのワークショップと3つのシンポジウムは当初の計画通りに実施できたと思う。「住宅ワークショップ」と「施工者シンポジウム」は、生活者の声とその活力、陽の当る「デザインや設計」とは異なる職能の方々の生の声からアートポリスの意義を確認でき、有意義な企画であった。

11月のメイン会場となったジョイントアート展(遊合空間)は、当初造形作家による内外でのインスタレーションとして企画された。しかし様々な事情により議論が重ねられた結果「世界

の椅子展・匠の技展・コンペ展・市民による建築の提案展・音楽会・トーク&トーク」と合体し一つの会場で融合させ、空間ディレクションの役割を造形作家の方々と、その作品とともに創出していただき「遊合空間」として実施されることとなった。造形作家による機能とアートとの融合は勇氣ある試みであり、単なる展示会、作品展でなく「新鮮な遊合空間の出現」と評価できるものになった。

北署での児童絵画展と創作生け花展はアートポリス作品内でイベントを行いたいという願いが警察署という枠の中で実現させた現実的結果である。うるおいのある公共空間を演出してくださった草月流の皆様に感謝したい。

上通郵便局での新旧まちなみ展は、アートポリスの作品を街レベルで定点観測を行った企画であり、今回は建設される前と完成後の街なみを比較することで構成されている。この企画の価値は今後も継続的に定点観測することにより評価される。アートポリス'96に向けての布石といえる。

上通商店街でのウィンドウギャラリーは、当初美術館分館から北署に至るゾーンを想定して構成されたものの、結果としてゲートの領域に集

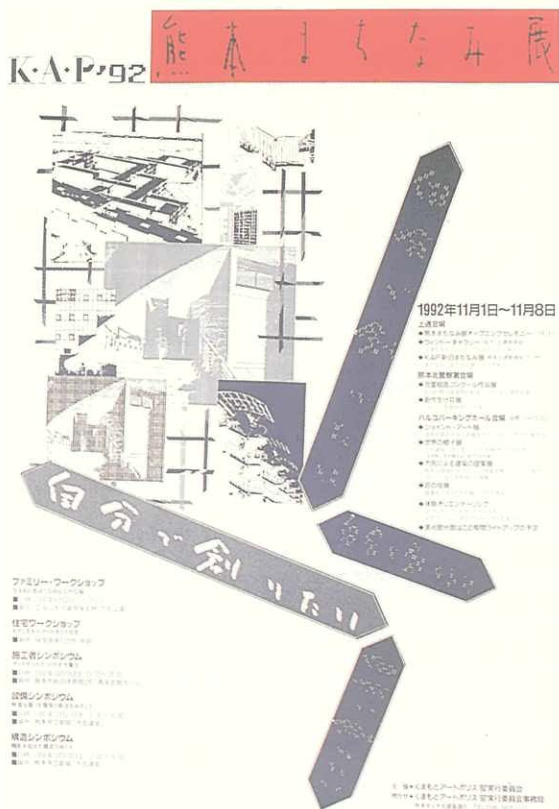
約された。しかし、オリエンテーリングの実施が当初の構想からの縮少を補完し多くの市民に参加していただいた。地元商店街との協力体制づくりは早期に行われるべきであったと反省している。

美術館分館でのライティングは大変に好評で、
 今後は設計段階から計画されるべきと思う。短
 期間での撤去に伴う寂しさは、その夜景が素晴
 らしい故のものである。

総論的にふりかえると熊本市という都市型市民社会の中での「まちなみ展」は既存手法では限界があり、地域という土着的要素より、共有する都市機能の中での新しい認識による手法が求められると考える。

山田 穰

(くまもとアートポリス'92実行委員会まちなみ部会熊本小委員長)



八代まちなみ展

「くまもとアートポリス'92八代まちなみ展」は、八代市立博物館 未来の森ミュージアムを核として、自分達のまちの将来像や夢を、自分達の手で表現することを目的としました。

八代市民による「手作りのアートポリス」—それが八代まちなみ展の合言葉です。生活に根ざした総合文化活動である「まちづくり」運動には、他からの新鮮な刺激が必要なことはもちろんですが、自分達のまちにはどんな人達がいて、どんな創造的な活動をしているのか、それらの文化活動を総合すればどこまでできるのか—を知ることも大切です。見るだけの文化活動から、参加する文化創造活動＝まちづくり運動への発想の転換、これが八代まちなみ展の目指したものでした。時期は、他の2都市が11月に開催されるのに対し、八代は8月の開催。これは、11月は八代の祭「妙見祭」があるからです。そこで八代展は、くまもとアートポリスの全行事における前夜祭、プレ・イベントとしての役割を担いました。11月に向けて、県民の意識を盛り上げることも重要な役割です。

また、8月の開催ということもあって、全国の夏期休暇中の学生や社会人の人達に、くまもとアートポリスの見学と八代まちなみ展への参加をツ

アーという形で呼びかけました。八代市立博物館はアートポリスの建築群を見学するうえで欠かせないキー・ポイントになっており、11月のメイン・イベントに参加できない人達に、アートポリス見学の絶好の機会としたかったからです。「八代まちなみ展」では市民の手作りのまちづくり、市民の芸術活動を中心に据え、次の4つの催しを企画しました。

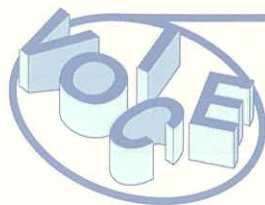
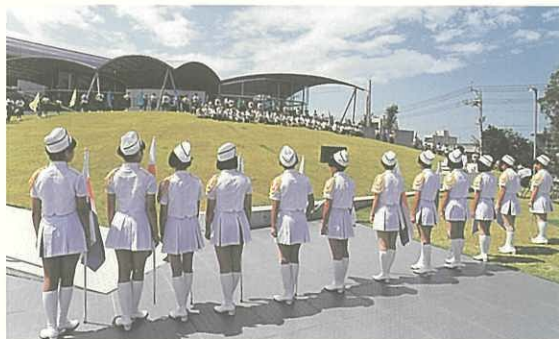
- ① 8月17～23日に市内の主要な商店街と博物館、ギャラリー・エイト（伊東豊雄設計）で都市回廊を形成し、そこに住む人達のまちづくりの夢や将来像、まちの文化を表現した「都市ギャラリー回廊展」
- ② 22日に日本建築学会九州支部歴史意匠委員会との共催で行ったシンポジウム「八代城と博物館からのまちづくり」
- ③ 同日午後、市内の本町緑地での“緑inコンサート”と市立博物館の丘を活用した“八商太鼓”という2つの「ミニコンサート」
- ④ 同日夜に市民が手作りでくまもとアートポリス'92の前夜祭を祝う「アートポリス祭」

この回廊展とシンポジウム、アートポリス祭の3本柱とミニコンサートで、市民の総力を結集した「手作りのアートポリス」を目指しました。

オープニング



八代市立博物館 未来の森ミュージアムの緑の丘を舞台に開会式を行いました。その後、都市ギャラリー回廊展の会場ともなる商店街においてテープカットをし、横断幕を掲げたボーイスカウトの皆さんを先頭に音楽隊による華やかなパレードを行いました。



日奈久の現況は悪いところばかりが目立ったが、少し改良すると必ずいい町になると確信した。壊して道を広くしたり、新しい建物を建てなくとも、良い要素を持っている町は必ず良くなるものである。

今村正則ほか(八代工専)

(市中パレードでは)最初、何をするのか知らなかったが、歩き始めてすぐにわかった。アーケードの人達の視線が僕に向けられ、とても恥ずかしくなり、みんなと足が合わずばらばらになってしまいました。

森本昌樹(ボーイスカウト 中2)

都市ギャラリー回廊展



建築関係者のみならず一般市民も企画の段階から積極的に参加してもらうことにより、自分たちの住むところを見つめ直し、八代の街の将来あるべき姿を考える契機となった展覧会です。また、その将来像を写真や絵や模型などで表現し展示することにより、より広く市民一人ひとりにまちづくりへの関心を持っていただきました。

◆期 間：平成4年8月17日(月)～23日(日) 11:00～18:00

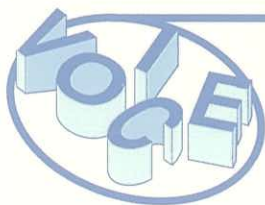
◆場 所：八代市立博物館

本町1～4丁目、二之町、宮之町、通町

展示内容又はテーマ	会 場	主催団体及び関係団体等
アートポリス展 (11日～23日)	八代市立博物館	くまもとアートポリス'92実行委員会、八代市立博物館未来の森ミュージアム
全国の商店街の写真	本町アーケード内	本町1丁目振興組合
未来のアーケード構想 駅前再開発	旧ベスト電気店舗 内	本町2丁目振興組合、八代工業高校、八代高専、八代第一高校、八代高校
まちなみ今昔展 設計監理協会会員作品展	本町アーケード内	本町3丁目振興組合、本町4丁目振興組合、 八代建築設計監理協会
サンシャワー通りの未来	二之町第一駐車場	二之町振興会、八代工業高校
笠鉾再発見	宮之町妙見神社	宮之町妙見会
アートイン通町 伊東豊雄展	通町商店街 ギャラリー8	ミュージアムストリート運営委員会、ススム・サカグチ 八代通町商店街振興組合、伊東豊雄建築設計事務所
山頭火と遊ぶ 日奈久再開発	寿屋	山頭火句碑建立期成会 八代東高校、八代南高校、八代高専
まちなみ・建物、写生・ 写真コンクール作品展	八代サティ	くまもとアートポリス'92八代まちなみ展実行委員会
春風展	八代市立図書館	春風絵画グループ

以上の展示に加え、回廊全体に八代美術協会員の作品が展示されたほか、建築技能士組合、九州電力、建具組合、板金組合、朝日防火板工業所、塗装組合、其田商店の各団体などから出展。

これからどうする 八代のまちシンポジウム ー八代城と博物館 からのまちづくりー



今度のシンポジウムを含む一連の事業が、市民あげての大仕事になり大成功に終わった。これこそ建築の持つ力と言わず何であろうか。テレビ同様「元気の出る建築」もある。八代はいま自信を取り戻しつつある。

伊藤重剛(熊本大学講師)

大変厳しい盛夏の日でしたが、八代市民も含めて多数の参加者があり、パワー溢れるシンポジウムでした。八代市民の中には、真剣に町づくりを考えるひとが、多数いる事実を確信しました。

岡本和子(国際ソロプチミスト八代)

隣接する、歴史的な「八代城跡」とくまもとアートポリス参加プロジェクトである「八代市立博物館」。この二つの建造物の関わりをもとに、これからの八代のまちづくりについてみんなで考えるシンポジウム。



◆主 催：(社)日本建築学会九州支部歴史意匠委員会

くまもとアートポリス'92八代まちなみ展実行委員会

◆日 時：平成4年8月22日(土) 13:30

◆場 所：ホワイトパレス出雲(八代市)

◆プログラム：

開幕挨拶 (社)日本建築学会九州支部 歴史意匠委員長
前川道郎

講演(13:40)「21世紀八代のまちづくり」

八代市長 沖田嘉典

基調講演(14:00)「歴史的建築と新しいまちづくり」

神奈川大学教授 西 和夫

パネルディスカッション(15:00)

テーマ 「八代城と博物館からのまちづくり」

パネラー 伊東豊雄(伊東豊雄建築設計事務所所長)
北野 隆(熊本大学教授)
橋本和久(八代いしん青年隊隊長)
寺本絹子(主婦)

アドバイザー 西 和夫(前掲)

コーディネーター 両角光男(熊本大学教授)

閉 会(17:00)

◆参加者：約450人

ミニコンサート

八代の街におけるシンボリックな空間で、その多様な活用法の可能性を実践して試みるとともに、市民により親しまれる街の空間となることを目指したコンサート。



◆プログラム：

◇八商太鼓演奏

日 時：平成4年8月22日(土) 16：30～

場 所：八代市立博物館未来の森ミュージアム前広場

出演者：八代第一高校

◇緑inコンサート

日 時：平成4年8月22日(土) 16：30～

場 所：本町緑地、NTT会議室

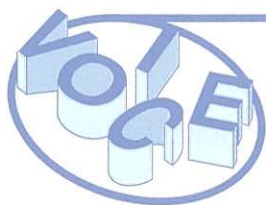
出演者：Yatushiro City Orchestra ストリングアンサンブル

指揮 松下修也(東京芸大講師、作陽音大名誉教授)

八代ギターアンサンブル

働く婦人の家ギタークラブ

演奏途中から雨が降り始め、緑inコンサートは、場所を本町緑地向かいのNTTの会議室に移動。



野外でコンサートを催すことは私達の夢だった。昨年アウトドアコンサートを企画し、市内を歩き回ったのですが、騒々しく断念しました。今回の本町緑地のコンサートは、良い雰囲気のできたことに意義を感じている。

竹原俊次(八代ギターアンサンブル)

八代駅前開発の模型をランランとした目で見てるのは小学校低学年の男の子だった。略。「君が大きくなったとき、八代は素晴らしい駅と駅前になってるよ」「本当！スバラシイ」。子供は飛びだし、父母を連れてきた。

藤井 守(九州電力)

まつり アートポリス祭



「くまもとアートポリス'92」における夏場の一大イベント「八代まちなみ展」の最後を飾る「祭」であり、八代のもつエネルギーと可能性を発揮する場として、また、11月の本番開幕を控えた前夜祭としての意味合いを込めて開催しました。

◆日時：平成4年8月22日(土) 18:00～

◆場所：八代市総合体育館

◆プログラム：

18:00 開会宣言 八代まちなみ展実行委員会副会長

県土木部次長 石島和光

歓迎挨拶 八代まちなみ展実行委員会会長

八代市長 沖田嘉典

祝辞挨拶 くまもとアートポリスアドバイザー

堀内清治

18:20 アトラクション, 1

合唱「球磨川」

合唱組曲「球磨川」を歌う会

ブラスバンド演奏

合同音楽隊(中・高・一般)

ジャズ体操

八代ジャズ体操クラブ

19:00 「建築家、自作を語る」

伊東豊雄 妹島和世

桂 英昭 新納至門

19:40 アトラクション, 2

亀蛇「乱舞」

亀蛇保存会(出町)

伴奏 八商太鼓

八代第一高校

太鼓演奏

日奈久温泉六郎太鼓保存会

20:00 交流会 「アートポリス建築家を囲んで」

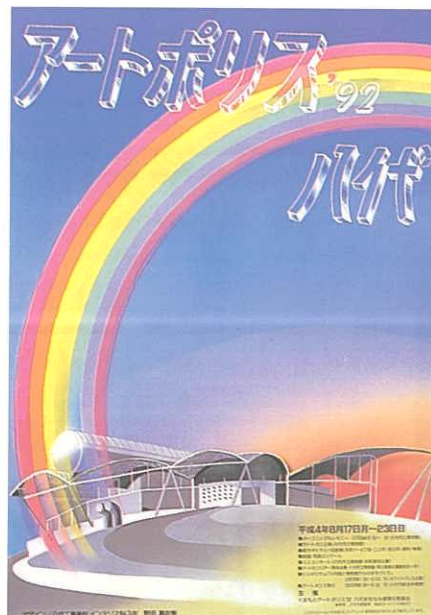
21:00 終了

◆参加者：約1,400人

◆同時開催：スライド映写、パネル展(小アリーナ)

物産展、ビデオ放映(一階ホール)

模擬店 (二階屋外広場)



まちづくりは、町並みを美しくすると共に、人々が健康で心豊かに生きていくことが守られなければなりません。森や河川を大切に、ゴミを減らす努力など、行政と市民が共に考えていく第一歩であればと願っています。

長尾テイ子(ハ代の環境を考える会)

(アートポリス祭で)リーダーたちもかきごおり屋さんをしていました。タダでこおりをくれました。ラッキーと思いました。いろんな集まりの人達がカレーや焼きとりを売っていました。すごくおもしろかったです。

綿島睦実(ガールスカウト(小4))

出町には彦一とんち話の「彦一」の過去帳が光徳寺に残っている。妙見祭に奉納する「亀蛇」も全国から問い合わせがある。古い町には現代にない良さがあり、21世紀の若者のために、今のうちに掘り起こしたい。

岡本武志(出町亀蛇保存会)

一人ひとりが心を寄せ合い、お互いを思いやり、知恵を出し合い努力し、連帯感がまちなみ展を盛り上げ成功に導いたと思う。一つになる気持ちこそが明日への新しい展望を開く原動力になることを知る。

沖川田鶴子(ハ代市地域婦人会)



八代まちなみ展

八代まちなみ展には、行政や各種建築団体はもとより文化団体、学校関係、商店街、商工団体、婦人団体、市民団体など75団体が横断的に参加した。ボランティアで参加した人や、それぞれの会場に訪れた人を合計すると、参加者総数はおよそ延べ1万人にも達するだろう。参加者の多さと参加団体の多彩さ、年代層の幅の広さが「八代まちなみ展」の第一の特徴だ。「八代を、自分達のまちを全国に向けて表現しよう」という市民の熱意があった。

真夏の暑い日、市立博物館の緑の丘にボーイスカウトやガールスカウトの小・中学生達が青や黄色、橙などカラフルな旗をひらめかせ、ブラスバンドが高らかにファンファーレを鳴り響かせたオープニングセレモニーは、実に鮮烈で、印象深い出来事だった。市立博物館の丘は同建物の重要な要素だが、このような催しの舞台としても、大変に魅力的であることを証明した。

都市ギャラリー回廊展では、それまで協力したことのない様々な人々の出会いがあった。町の人達のまちづくり案作成に、地元の専業設計事務所の任意団体である八代建築設計監理協会の人達が協力した。八代工専の土木建築科の学生達は、町の再開発プランをまとめるために町の

人達から話を聞いた。ある町では美術協会の人達が商店内部で作品展示を行い、工業高校の生徒が大きな看板に町の未来図を描いた。業種を越え、年代を越えた市民相互のネットワークづくりが回廊展のもうひとつの成果でもあった。シンポジウムでは、市民を代表して地元の主婦がパネリストとなり、市立博物館の設計者の伊東豊雄氏に「なぜ、あんなデザインを」と素直に尋ねた。それに対し伊東氏が「瓦屋根の載せるのではない方法で、環境との新しい関係を築きたかった」と応じた。こうした対話こそが、建築と市民との「新しい関係」を築く礎となる。

アートポリス祭で示した市民の「エネルギー」と「和」は圧倒的な迫力だった。大編成のブラスバンド、そして組曲「球磨川」を歌う大合唱、それに続く様々な催し。いずれも自分達のまちを、文化を表現し、全国から八代にきた人達を歓迎したいという気持ちに溢れていた。

「八代まちなみ展」の最大の成果は、自分達の町をより良くしようという「エネルギー」と「和」の存在を、市民が自分達の肌で知ったことだったのでなかろうか。

高瀬隆三郎

(くまもとアートポリス'92実行委員会まちなみ部会)

小国まちなみ展

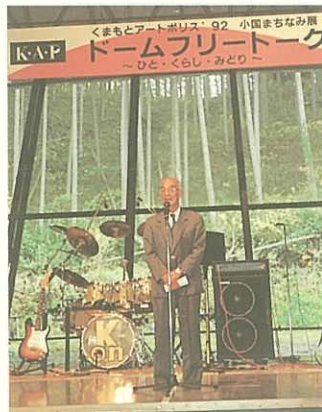
「くまもとアートポリス'92小国まちなみ展」は、国際建築展が開かれるいわゆるアートポリス月間である11月の9日～15日に開催しました。「小国まちなみ展」は他のまちなみ展と比較した場合、規模においては、より小さなものとなっていますが、それは単に小国の町の規模が八代や熊本とくらべて小さなものであるからという訳ではなく、会期中に「建築デザイン会議」という戦後生まれの若手建築家達のシンポジウムが3日間開催されたこと、更に「くまもとアートポリス」構想の主旨と同様の取り組みをこの地では一連の木造建築物の建設とその運営において、先取りするかたちでここ数年展開してきたという実績に対して、アートポリス構想のスローガンを声高に唱えるよりも、これまでに培われてきた「まちづくり」における様々な創意工夫に伴って得られた問題点について検証を加えてみようという、あらかじめ形づくられているひとつの「流れ」を尊重しつつ、この企画をより実りの多いものとするを最初に意図したからです。さて、企画されたそれぞれの催しを順に見ていくと、まず「ゆうステーション」での「アートポリス展」には、アートポリス構想への参加プロジェ

クトのうち35作品を写真パネルによって紹介しました。

「キオスクのデザインコンペ」は、先の「アートポリス展」並びに後に触れる「ドームフリートーク」が、建築デザインの成果を紹介したり、その結果を受けて今後どのように展望を得ていくのかといった、それぞれ「過去」と「未来」という時間を相手にしているのに対して、キオスク（野菜の無人販売所）のデザインを広く全国から募り、この期間中に実際に制作し町の辻々にその用に供するように設置しようという、まさに、このまちなみ展の「現在」をそっくり形にしようという意欲的な試みでした。

最後は「小国まちなみ展」のメインイベントとなった「ドリームフリートーク」です。11月14日（土）の夕方から会期最終日の15日（日）未明にかけて行ったシンポジウムは、この「小国まちなみ展」の締め括りのイベントでもありました。会場となった小国ドームにはこの季節、夜の冷え込みのなか長時間の討論に耐えられるようにとの配慮から、長さ100メートルの渦巻きを描く「世界一のこたつ」を設けました。

ドリーム・フリー ～人・くらし・みどり～



木造建築群によるユニークなまちづくりを進める小国町において、デザインをテーマに、様々な角度から徹底的に語り合うために開催しました。

この日のために製作した世界一のこたつを囲み、地元バンドによる演奏などを交えながらの、フリートークでした。

◆日時：平成4年11月14日(土) 16:00～

◆会場：小国ドーム(小国町民体育館)

◆第一ラウンド：

テーマ：「デザイン」～小国の木造建築群がもたらしたもの～

コーディネーター：新納至門(アートポリス参加建築家)

パネラー 新井清一(アートポリス参加建築家)

井道行(産山村産業振興課長)

浦田伸一(つなぎ物産ギャラリー所長)

江藤訓重(木魂館館長)

北山恒(アートポリス参加建築家)

宮崎暢俊(小国町長)

槍水盛春(小国町森林組合)

特別パネラー 杉本洋文(東京都 建築家)

◆第二ラウンド：

テーマ：「人・くらし・みどり」～人々が選びとる地域とは～

コーディネーター：浜田輝樹(熊本青年会議所)

パネラー 穴見春代(小国町：農業)

綱田 誠(富合町：デザイナー)

橋本俊典(南小国町：農林業)

浜崎正充(小国町：飲食店経営)

宮崎哲夫(小国町：農林業)

森川義彦(福岡市：構造家)

ルチ・ナイトニ(熊本市：留学生)

渡辺善孝(小国町：木工所経営)

◆アトラクション：グループ「葦」

杖立湯神太鼓

おぐにK-ON

◆参加者：約300人

アートポリス展



八代、熊本、両まちなみ展での展示に続き、一人でも多くの方にアートポリスの参加プロジェクトを見てもらうために開催しました。

また、「くまもとアートポリス'92」に因んで募集したデザインコンペティション「田園に佇むキオスク」について、応募のあったうち案の一部を展示発表したほか、入選案を実際に製作し、無人販売所のデザインについて新たな提案を行いました。

アートポリスプロジェクトパネル展示

◆期 間：平成4年11月9日(月)～15日(日) 8:30～18:00

◆場 所：小国町交通センター<ゆうステーション>

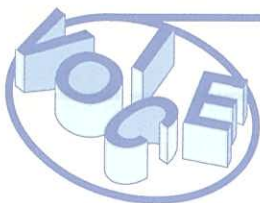
◆内 容：アートポリスの参加プロジェクトの写真パネル 35点を展示。

デザインコンペ「キオスク」作品展示

◆期 間：平成4年11月9日(月)～14日(土) 8:30～17:00

◆場 所：小国町商工会館及びその周辺

◆内 容：商工会館の2階ロビーに、特製の展示台を置き、入選案を含む22点をパネル展示。また入選案3点については実際に製作し、ゆうステーション寄りの屋外に展示。



世界一のこたつと称した巨大な渦巻き状のものが、ドームとの不思議なコントラストを形作っていたなかで開催されたドームフリートーク。私はそこで第1ラウンド「小国の木造群がもたらしたもの」というシンポジウムに参加させていただいたが、そこでは話し得なかった波及について述べたい。

このシンポジウムを含むほとんどの食事を木魂館料理グループ～ピッコロクッチーナが担当した。延べ300人の食事を約10人の女性で準備したわけだが、実

はこのことが重要なことである。農山村において、全国的なコンベンションを開催しようにも、その地域にこういった「もてなし」できる能力がなければあるいは生まれてなければ不可能である。情報の担い手としての人の誘致が図れないことが都市と農村の大きな力の差とも言える。

小国では建築物が大きな風穴を空け、人々に対し未来への大きな力を知らず知らずの内に与えているのである。

江藤訓重(木魂館館長)



裏方としては、とにかく会場設営が心配でした。小国の晩秋の夜。コタツだけで暖がとれるのだろうか？みんな、深夜まで参加してくれるのだろうか？夕食の量は十分か？アルコールの量は？…ともかく会が動きだせば、後は百戦錬磨のパネラーの皆さん方であるので、何とかなるだろうと考えてました。

今回は、第2ラウンドで、小国の皆さんや小国にかかわりあいのある人にたくさんご登壇いただきました。皆さん個人的で、独自のライフスタイルを持った、魅力的な人達ばかりです。小国町の進める「悠木の里づくり」では、「暮らしぶり」を重視し、「人々が選びとる」地域を目指していますが、パネラーの皆さんの話は、地域で活動することの意味をいろいろと示唆してくれたと思います。ただ町内の参加者が思ったより少なく、残念でした。…広報不足？反省！

何はともあれ、参加者の皆さん、スタッフの皆さん、おつかれ様でした。

清高泰広

(くまもとアートポリス'92実行委員会まちなみ部会)

「ガチャ、ガチャ」という音に目が覚めると寝呆け眼に一面の木造トラスが映った。ここは昨夕から翌午前二時まで行われたフリートークの会場、小国ドームであり、後片付けが始まっていた。意識も虚ろなまま、共に加勢し一時間程で終わった。残ったスタッフの面々が共に笑顔での「お疲れ様でした」。小国まちなみ展を無事に終えることができた。

春夏秋を通じ壁にぶつかりながらの企画会議、八代まちなみ展が盛大に終えた頃、焦りながらもまだ企画会議、本番直面での慌ただしい準備活動、そして昨晚のドームフリートーク風景が頭の中に浮かびながら帰路をたどった。関わった人達の顔、小国町のパワー、自分への反省、アートポリスとは？等を思い浮かべながらも「やっと終ってホッとした」という本音が外の陽気と共に全身を優しく包み込んでいた。

「くまもとアートポリス」は終わったが同時に'96へ向けてスタートしたわけである。再び何らかの形で関わりたいし、そういう自分であり得たいものだ。

田中之博

(くまもとアートポリス'92実行委員会まちなみ部会)



小国まちなみ展

「小国まちなみ展」の成果はドームフリートークの成功に尽きるといっても過言ではない。それは、その地に住む者が自ら地域について多くのひと々と議論するという、その地域の将来の在り方を展望するに最も根本的なスタイルをとりえたいという点に評価されるべきものがあるということである。以下はその内容をかいつまんだものである。

第一ラウンドは「デザイン」という大きなテーマの中でも建築というジャンルに的を絞ったものとなった。今回のアートポリス構想に参加し、初めてその地域のランドマークとなるような建築を作った、津奈木、産山、両町村における様々な波紋と、そこから見えてきた問題点を糸口として議論を展開していった。総じてこれら小規模の町村にあって、新しい建築は過疎化に悩む地域への格好のカンフル剤として、特別の期待をこめて迎え入れられたように思われるが、小国町の例のように事業の継続性と、地元住民の草の根的な取り組みが欠かせぬ点については、改めて認識させられたことでもあった。

第二ラウンドは参加者もこたつで食事をとりながらといった中、テーマも「人・くらし・みどり」

と、くつろいだところからのスタートとなった。このラウンドでは小国という具体的な地域で営まれる生活の中に、とかくネガティブなイメージを持たれる規模の小さな地域に共通の問題を忌憚なく語るとともに、発想の転換による自分たちの住む地域の豊かな可能性について、それこそ会場の雰囲気ともども肩の力をぬいた伸びやかな意見が相次いで出されることとなった。日付も変わろうかというあたりまで第二ラウンドが続いた後、会場に残っていた150名ほどの中から引き続きオールナイトフリートークのテーマに現在、小国で計画が進められているアートポリス参加プロジェクトである「杖立橋」を取り上げたいということになり、設計者である新井清一氏を中心に熱心な議論が未明まで続けられた。以上が「小国まちなみ展」のメインイベントであるドームフリートークの概略である。そこで得られた成果は、魅力あるまちづくりにとって建築は大きな影響力を及ぼすことになるのだが、そこでは「器」以上に地域に根ざしたその建築を生かす活動も不可欠であるということ。このことは公共性を帯びる施設のハードウェアとソフトウェアの問題として頻繁に取り上げられ、

それほど新鮮味のある指摘とは言いがたい。しかし、まちづくりが数年単位の時間をかけて行われざるを得ない以上、その時々地域の状況、時代性をつぶさに取り込みながら進むことは、そこに作り出される施設をよりの確にその地域に根づかせることになる。さらに多くの人々との対話はまちづくりの基盤作りとして欠くことのできぬものであることはいうまでもない。そうしたきっかけになり得たことは大きな収穫であったといえる。

新納至門

(くまもとアートポリス92実行委員会まちなみ部会小国小委員長)

くまもとアートポリス'92

世界一のこたつで語る

小国まちなみ展

デザイン・人・暮らし・みどり

1992年 11月14日 土 午後4時

◆ドームフリーワーク◆

会場＝小国ドーム (入場無料)

PART I デザイン
PART II 人・暮らし・みどり
PART III エンドレスフリーワーク

◆アートポリス展◆

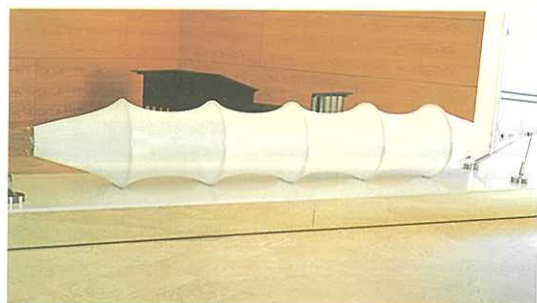
小国ドームへの入場は無料
くまもとアートポリス アビエクトの1/2表示

会期＝11月9日→15日 午前9時～午後5時

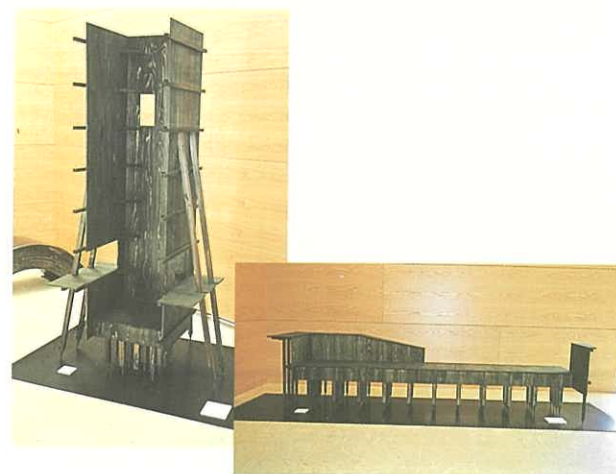
会場＝ゆづろステーション・小国町農工会館ほか
(入場無料)

主催＝くまもとアートポリス実行委員会
PHONE 096-333-1111(内線221)
熊本県上水産部管内

デザイン・コンペティション



岡本明子 案
製作：亜紀工芸有限会社



中尾 寛 案
製作：亜紀工芸有限会社
※入選案は6点シリーズ、
うち2点を製作



松島弘幸 案
製作：エー・ピー・シー開発株式会社東京支社
製作協力：石井和絃建築研究所

くもとアートポリスを全国、そして世界にアピールし、かつ理解を深めてもらうために、アートポリスのキャッチフレーズである“都市にデザインを 田園にアイデアを”をテーマに「ベンチ」と「キオスク(無人販売所)」のコンペを行いました。また、入賞作品を実際に製作し、アートポリス展覧会やまちなみ展会場に展示することにより、環境やデザインに対する意識の向上を図りました。

◆日 程：平成4年8月31日締め切り

◆結 果：

◇第1部門 課題「都市に浮かぶベンチ」

応募数：241点

審 査：日程／9月10日 会場／磯崎アトリエ

審査員／磯崎 新

賞：入選(3点)、賞金各50万円

中尾 寛(NAKAO SERIZAWA ARCHITECTS)、

岡本明子(㈱DC)、松島弘幸(フリー)

実 作：3点とも製作

◇第2部門 課題「田園に佇むキオスク」

応募数：109点

審 査：日程／9月11日(審査方法決定)、9月12日(本審査)

会場／YKK AP 本社会議室

審査員／建築デザイン会議実行委員会メンバー

(浅石 優、大島哲蔵、大野秀敏、奥平与人、北村修一、George 国広、妹島和世、新納至門、浜田邦裕、古谷誠章、渡辺 誠)

賞：優秀賞(5点)

賞 金

*塚本由晴、貝島桃代(東京工業大学)

[大野、北村、浜田、古谷、渡辺]65万円

*Gin Johannes(Architectural Association of London)

[浅石、奥平、新納]40万円

*佐々木竜郎(㈱デザイン スタジオ)

[妹島]15万円

吉永健一(東京工業大学坂本研究室)

[国広]15万円

Taeg Yoshinobu Nishimoto(Taeg Nishimoto+ALLIED ARCHITECTS)

[大島]15万円

※[]内は、「リコメンド」方式による推薦者を示す

実 作：上位3点(*印)を製作

◆作品展示会場

◇第1部門

1. 入選作品及びその実作

日 時：11月4日～11月30日

会 場：県立美術館分館

2. 入選作品(写)

日 時：11月1日～11月8日

会 場：パルコ・パーキング・イベントホール

◇第2部門

1. 優秀賞作品

日 時：11月4日～11月30日

会 場：県立美術館分館

11月4日～8日は1次審査に残った作品も展示

2. 優秀賞作品(写)及び1次審査に残った作品の展示

日 時：11月9日～11月14日

会 場：小国町商工会館

3. 優秀賞作品のうち3点の実作

日 時：11月1日～11月30日

会 場：小国町ゆうステーション前のプロムナード



塚本、貝島 案
製作：小国町森林組合



Gin Johannes 案
製作：木村鐘靖(ひめどメタルワークス)



佐々木龍郎 案
製作：小国町森林組合



まちなみ展

くもとアートポリス'92が終わって報道・雑誌関係者の方々から、必ずといってよいほど同じ質問を受ける。「なぜ、熊本なのか。」である。「都市デザインサミットの開催は他の自治体でも可能であっても、今回のようなまちなみ展は熊本でしか無理なのではないでしょうか。」と答えることにしている。

まちなみ展の初期コンセプトと企画は、3年ぐらい前に提案した。県の北・中央・南ということで、小国町、熊本市、八代市を単純に選択した。企画の表面的内容は実際に行われたものと余りかわらないが、予算は今回のまちなみ展の十倍にちかい規模であった。今になって思うと、予算の規模が大きかったために企画会社運営的な催し企画であった気がする。つまり、お金によって誰かが動き、それなりの成果が得られるだろう、自分たちは適当に参加すればよい程度のものであった。

この企画が一変したのは平成3年の後期である。国際建築展を一年後に控えて、まちなみ展のワーキンググループが結成された。アートポリスを必ずしも肯定していない人、建築に関係ない人を含む十人程度のボランティアグループが、県

立美術館分館の仮設の現場事務所に夜な夜な集まって、議論を交わした。グループは少しずつ人数を増やしながら、何故、誰のためにまちなみ展をするのかという議論に時間を費やした。

平成4年になってから、三つの会場の担当者や企画ごとの責任者が決定して、また状況が変化した。竹野ビルに打ち合わせ場所も変わり、グループのメンバーも膨らみ、具体的な作業にはいった。予算と期間に悩まされながら打ち合わせが続き、気がついたら八月のイベントがはじまっていた。ここからの詳細はこの報告書の他の紙面に譲ることにして、なぜ上記のような状態でこの町並み展が成功したか客観的に整理しておくことにする。

- ①アートポリスとは何かという疑問を取り合えず自分達の身近な問題に引き寄せることからはじめようという考えが共通認識として変わらなかったこと。産官学そして住民それぞれ立場が違ってそれらは同じであった。
- ②八代の企画が、驚異的なボランティアの手で大成功をおさめたこと。これが不安であった全体の運営に弾みをつけたこと。
- ③県・市町村の行政職員の担当者の献身的な活

動がボランティアの人々の心を動かしたこと。
タテではなく、ヨコのつながりを保つことは
大変である。

④今まで熊本で十年来おこなわれてきたまちづくりなどの活動で築かれた様々なノウハウや精神が色々な面で役にたったこと。

⑤建築関係以外のジャンルの人々の大きな協力があったこと。

冒頭で述べたように、このようなまちなみ展は熊本以外ではなかなか大変であろうという意見はここからくるのである。アートポリス構想の主旨に、点としての建物が線・面に広がっていくという表現があるが、熊本の近年の継続的なまちづくりの成果の一つがこのまちなみ展であり、このような土壌があるからこそ熊本でアートポリスが成り立っているのではないか。第二期以降のアートポリスは、まちなみ展がおこなわれた背景の部分を大切にしていかなければならないのではないかと考えている。

桂 英昭 (くまもとアートポリス'92実行委員会まちなみ部会長)

関連事業

くまもとアートポリス'92は「くまもとアートポリス」の主旨、精神を一人でも多くの方々に理解していただくことを最大の目的とした建築展です。実行委員会が主催して行う見学会、展覧会、シンポジウムはその目的を持って行ったものですが、これらは全県的なあるいは広域的な催しであるため、関係者あるいは関心のある人が主な対象とならざるを得ない面を有していました。くまもとアートポリスを文化運動として、より多くの人に理解していただくためには、地域に密着した参加しやすい催しを行うことが、有効かつ直接的な方法と考えられます。そこで、熊本市、八代市、小国町でのまちなみ展を地元と協力して催した訳ですが、草の根的催しを県下各地で行う必要があることから、関連事業として、アートポリス参加プロジェクトを核とした、あるいはアートポリスをテーマとした住民参加型の催しと、建築関係団体・デザイン関係団体による一般県民へのアピールを目的とした催しの開催を関係団体等に働きかけることとしました。何れともあれ、一人でも多くの人に優れた建物や景観に触れてもらい、その素晴らしさと重要性

を感じてもらうことと、アートポリス参加プロジェクトへ来てもらうことが目的でした。

また、建築関係・デザイン関係の団体には建築・景観・デザインが一体の関連したものであり、連携しているものであって、人々の生活に必要でかつ重要なものであることを様々な方法でアピールしてもらうことをお願いしました。

関連事業は、関係する市町村、団体の方々のご協力を得ることによって、実行委員会が直接実施するよりもより効果的に事業を展開することができるとの判断から行ったものであり、そのために、実施団体に対し実行委員会から助成金を交付することとしました。助成金の額は、事業費の2分の1以内でかつ50万円以内を限度とし、また事業の実施時期についてはできるだけ11月の期間中に実施することとしましたが、早いものは8月に実施されました。

1992年1月より、関係市町村、団体に企画の検討を依頼した結果、2町と11の団体において実施されました。

事業概要

「くまもとアートポリス」の趣旨をより広く県民の方々に理解していただくために、当実行委員会が直接開催する催しだけではなく、諸団体が開催する「くまもとアートポリス'92」関連の催しも「関連事業」として位置づけ、広報等支援を実施しました。

この関連事業として、8月から11月まで、県内各地で、次の11の事業が開催されました。

参加者：約 43,300 人

湯の香まつり

■主 催：湯浦活性化協議会

湯浦温泉街の活性化を模索し、地域住民が一体となった誇れるふるさとづくりを目指して、温泉街のシンボリック存在であるアートポリス参加作品「湯の香橋」を核とした祭を開催し、手作りイカダレースやゆかたファッションショーなど多彩な催しを実施。

◆日 時：平成4年8月1日(土)～2日(日)

◆場 所：湯の香橋とその周辺(芦北町)

◆参加者：約5,500人



玉名天望館見学会・講演会

■主 催：(社)熊本県建築士会玉名支部

アートポリス参加作品「玉名天望館」を広く紹介し、多くの方に親しんでもらうために、まちづくり・まちおこしの一環として開催。「玉名天望館」の見学会のほか、設計者高崎正治氏を迎えて講演会などを開催。

◆日 時：平成4年9月26日(土) 13:30～15:30

◆場 所：玉名市文化センター、玉名天望館(玉名市)

◆参加者：約250人



くまもと木造建築研究集会

■主 催：くまもと県産材振興会

木造建築の新しいあり方を探り、木造建築の伝統的な継手・仕口を最先端の工学技術で再検証するために開催。

◆日 時：平成4年9月29日(火) 13:00～17:00

◆場 所：熊本市流通情報会館(熊本市)

◆参加者：約130人



徹底街論

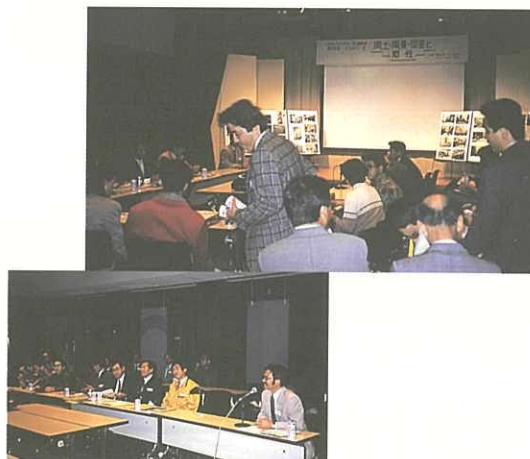
■主 催：熊本まちづくり協議会

風土・風景・街並の中で建築物の持つ意味やデザインの持つ力などを通して、アートポリス参加作品を始めとした建築物などと町並景観との関係やこれからの街並のデザインについて話し合う討論会を開催。

◆日 時：平成4年11月2日(月) 18:00～21:30

◆場 所：上通り同仁堂4階スタジオライフ(熊本市)

◆参加者：約200人



建築団体会員作品展

■主 催：(社)熊本県建築士事務所協会

(社)新日本建築家協会九州支部熊本建築家の会

(社)熊本県建設業協会建築部会

アートポリスの広報と県建築界の発展に寄与するため、地元の3つの建築関係団体の会員作品118点を商店街アーケードに展示。

◆日 時：平成4年11月6日(金)～9日(月)

◆場 所：下通り新天街(熊本市)



九州インテリアデザイン in くまもとアートポリス

■主 催：(社)日本インテリアデザイナー協会九州事業支部

九州インテリアデザイン in くまもとアートポリ
ス 実行委員会

環境デザインに対する関心を高め、インテリアデザインを通した生活環境の向上を図るため、会員作品展のほか見学会やセミナーなどを開催。

◆日 時：平成4年11月10日(火)～23日(月)

◆場 所：県立美術館別館ほか(熊本市)

◆参加者：約1,300人



海外まちづくりスライド発表会

■主 催：(社)熊本県建築士会

海外に行った熊本県建築士会の会員が、スライドをとおして、海外の建築や住宅事情さらにまちづくりなどを紹介。

◆日 時：平成4年11月10日(火)、17日(火) 14:30～18:00

◆場 所：県立美術館分館(熊本市)

◆参加者：約200人



北山孝二郎講演会

■主 催：津奈木町

アートポリス参加プロジェクト「つなぎ物産ギャラリー」の地域に果たす役割について、設計者北山孝二郎氏を迎えて講演会を開催したほか、桂文楽さんの落語などを上演。

◆日 時：平成4年11月13日(金) 18:00～19:30

◆場 所：つなぎ文化センター、つなぎ物産ギャラリー(津奈木町)

◆参加者：約300人



木の構造シンポジウム

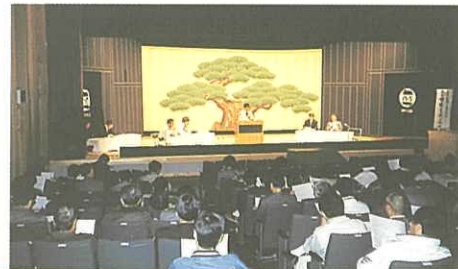
■主 催：清和文楽の里協会

木造建築の技術進歩と革新に寄与するため、アートポリス参加プロジェクトである「清和文楽館」の画期的な建築方法、デザイン等を紹介するとともに、清和文楽館の構造設計を担当した浜宇津正氏を迎えての講演、パネルディスカッションを開催。

◆日 時：平成4年11月16日(月) 10:30~15:30

◆場 所：清和文楽館(清和村)

◆参加者：約100人



景観フォーラム in 人吉

■主 催：景観フォーラム in 人吉実行委員会

アートポリスの参加プロジェクト及びその成果などをおして、歴史と景観の相関性をテーマとした討論を行うため、景観ウォッチング及びフォーラムを開催。

◆日 時：平成4年11月20日(金) 12:30~16:30

◆場 所：人吉カルチャーパレス(人吉市)

◆参加者：約350人



漫画家の絵画展、'92国際(漫画・食)文化フェスティバル

■主 催：湯前町

アートポリス参加プロジェクトである「湯前まんが美術館・公民館」の落成式を記念して、本施設を広く内外に周知するために、中央で活躍中の漫画家の絵画展等を開催。

◆日 時：平成4年11月1日(日)~平成5年1月6日(水)

◆場 所：湯前まんが美術館・公民館(湯前町)

◆参加者：約35,000人



K・A・P

第3章

アートポリスとまちづくり

アートポリスとまちづくり

アートポリスに参加した建造物が姿を現してくると、その地域にさまざまな反響を呼び起こしました。今まで見たこともないような斬新な建造物が多いだけに、それを受け入れる地域住民のとまどいも大きいものがあります。その建造物をめぐって、賛成派と反対派で建造物論争が巻き起こりました。とまどいを感じながらも人々は、建造物とは何か、自分達のまちや文化をどう育んで行ったらいいのか、を真剣に考え始めています。

アートポリスの建造物は、自分達の地域のまちづくりを再び見直してみよう、あるいはその建造物とまちづくりをつなげていこうという動きを県内各地に巻き起こしました。その動きは「環境デザインに対する関心を高め、都市文化並びに建造物文化の向上を図る」というアートポリスの目的を見事なほどに体現しています。

県内各地に散らばった「点」が輝き始めています。「点」を「線」から「面」へ、まちづくりへと広げて

いく主役は、もちろんその地域の人々です。彼らの積極的な活動がアートポリスの建造物の力を引き出し、地域に輝きをもたらし始めています。ここに登場する八代市、産山村、清和村、津奈木町の4市町村はその代表的な事例です。それぞれに地域の課題を抱えながら、アートポリスの建造物を核として、独自の展開を見せています。こうした輝きが県内各地に広がり、熊本の新たな「文化」を創造し、世界に向け文化情報を発信していくことこそが、アートポリスが目標とするところなのです。

●完成プロジェクト分布図



県立装飾古墳館



八代市立博物館 未来の森ミュージアム

三角港フェリーターミナル

松島町合津終末処理場管理棟

教会の見える
チャペルの鐘展望公園



つなぎ物産ギャラリー



花の温泉館



清和文楽館

●熊本市

- 熊本北警察署
- 県立美術館分館
- 熊本市花畑パークトイレ
- 白川橋景観整備
- 再春館レディースレジデンス
- 県営竜蛇平団地
- 熊本市営託麻団地
- 県営保田窪第一団地
- 県営帯山A団地
- 熊本市上江津湖畔トイレ
- 熊本市営新地団地A
- 熊本市営新地団地B

まちなみ展でまちづくりが身近に ————— 八代市

井 本 恵 英 八代市・建築課建築係長

八代市立博物館がどのようにまちづくりに関わっているかを紹介したい。

建物は、ご存知のとおり伊東豊雄氏の設計で、大変モダンでファッショナブル。全国から大勢がこの建物を見学に来るし、高い評価も受けている。博物館は展示品が財産だが、建物自体も立派な展示品ではないかと考えている。

伊東氏とまちの触れ合いも出来てきた。博物館の近くに通町という町があるが、伊東氏の設計でその町に「ギャラリー 8」という施設が完成した。これは通町の商店街の皆さんの熱意を受けて同氏が手掛けたもの。非常に小さな施設だが、商店街の皆さんがユニークな展示をしたり、ミニコンサートを開いたり、いろいろな活動に利用している。

博物館が地域の大きな文化の核施設だとすると、ギャラリー 8 は、地域の特色に応じたユニークな活動を支援する小さな文化の核と言えるのではないと思う。私達も、そういうふうな文化活動が活発に行われることに喜びを感じている。「くまもとアートポリス'92」の前夜祭として、8月に八代まちなみ展を展開した。これは都市ギャラリー回廊展、シンポジウム、アートポリス祭を

三本柱とする一大イベントだった。

八代まちなみ展では「市民の手作りのまちづくりをアートポリスで表そう」と、75という非常に多くの団体が力を結集した。年齢も業種も多岐にわたる市民の各界各層が一生懸命に取り組んだ。

その効果はどうだったかという、市民の皆さんに建築家は建物をつくるだけでなく、まちづくりをやるのだということを知ってもらえた。また、八代高専の学生達が3つの町の再開発計画を一生懸命に考え、模型まで製作してくれた。自分達のまちはどのような形がいいのか、どういうふうにした方がいいのかを、町の人達の話聞き、計画案を練った。そしてそれにより、市民の皆さんが、自分達のまちは今後どのようにしたらいいのか、どのようにしたら魅力的なまちになるのかと考えるようになった。

まちなみ展を機会に、まちづくりに対する意識が高まり、皆で一緒に考えようという雰囲気が出来てきた。まちづくりを非常に身近に引き寄せてくれたイベントだったと思う。

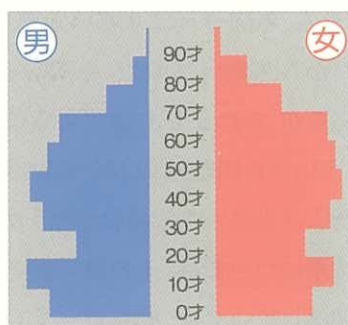
さらに、有名な建築家の方々の話を聞くことができたことも、大きな収穫だった。地方にいたら

なかなか著名な皆さんの話を身近に聞く機会はないが、今回は「くまもとアートポリス'92」という大きなイベントを通してそれが可能となった。それも大きな財産であり、大変感謝している。文化的な核となるような施設を一つから二つ、三つと増やしていこうと、八代市では伊東豊雄氏に消防署、保寿寮(老人福祉施設)の設計等も依頼している。消防署では、今までにない新たな

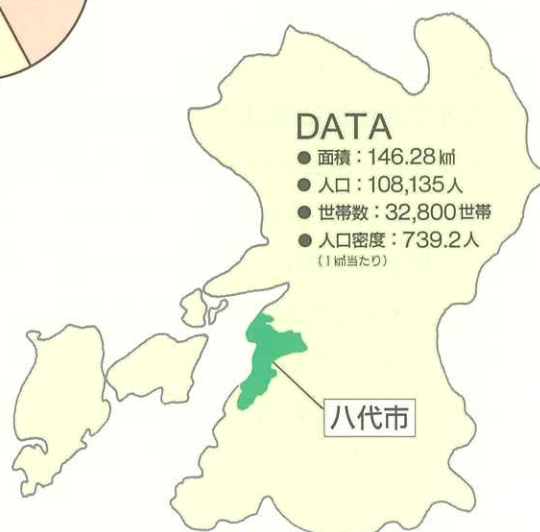
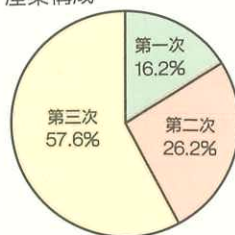
提案がなされている。高齢化社会に欠かせない保寿寮でも、どのような提案がなされるか大変期待しているところだ。

八代市としては、当地独自の新たな提案を全国に向けて発信していきたいと張り切っている。

八代の今後に期待していただきたい。



産業構成



夢のある建築が村に未来を——産山村

井 道 行 産山村・産業振興課長

「花の温泉館」は温泉館、レストラン、物産館が一体となったコミュニティセンター計画である。建物をガラスハウスで—という発想は私どもではなく、設計を担当したワークショップの北山恒氏らによる企画だ。

私は、非常に面白い企画だと思った。ガラスハウスだと、内部に直接花や木が植えられる、芝生の場所も造れる。非常に面白いのではないかと考えた。

それで設計を依頼し、実際に1期工事の建物が出来たら、住民の皆さんの評判が非常に悪い。農家の人達にとって、ガラスハウスは日々の労働の場であり、憩いの場ではないという感じかも知れない。

村の上層部からも、村の有力者が「ガラスハウスは駄目だ、3年で潰れる」と電話で言っていると伝えられた。そういう住民の声がしばらくしたら議会に伝わり、議員の方々に議会で怒られた。今、ちょうど2期工事を発注したところだが、議会に「2期工事は木造に代えろ」と言われている。しかし、私は非常に気に入っている。まず明るく開放感に溢れている。設計者とは今、ガラスハウスのレストランの中にレモンとかライムの木

を植えようと話しているところだ。食事に添えるレモンも、木から採りたてのものをすぐに出せる。ライムの香りの中で食事ができる。中に水を流すことだってできる。木造建築では考えられないようなことが、ガラスハウスの中では可能になる。そこには、いろんな可能性があると感じている。議会の方からは怒られながら計画を進めている。

しかし、問題点もある。ガラスハウスは確かに夏はたまらなく暑い。これは何とかしなくてはいけない。それから、冬はやっぱり寒いと思う。全面がガラスだから、掃除も大変だ。そういった問題は確かにあるが、それよりも夢のある建物の方が良い。そういった問題は何もないが夢もないという建物よりも良いのではなかろうか。

この施設の将来については、その良い面を今後どのように伸ばしていくか、現在持っている良い特徴をこれからどうやって伸ばしていくかを一生懸命に考えていけば大丈夫ではないかと思っている。

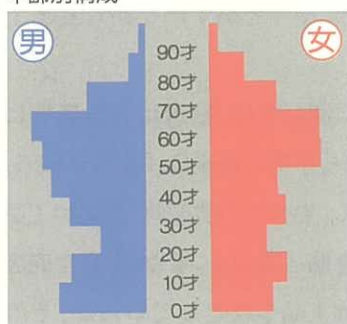
建物が出来て一番願うことは、若い女性に来て欲しいということだ。そのために一生懸命に努力したい。

というのも、産山村は小国町の隣にあり、私も友達
 が他から来ると、以前は、小国に連れて行って
 いた。そして、小国はなかなか頑張っている、我々
 も負けられないように頑張りたいと言っていた。
 今はもう、小国はもう見なくていいですから、私
 達の村を見てくださいと言って、野原やヒゴタ
 イ公園や池山水源に連れて行く。村の青年も最

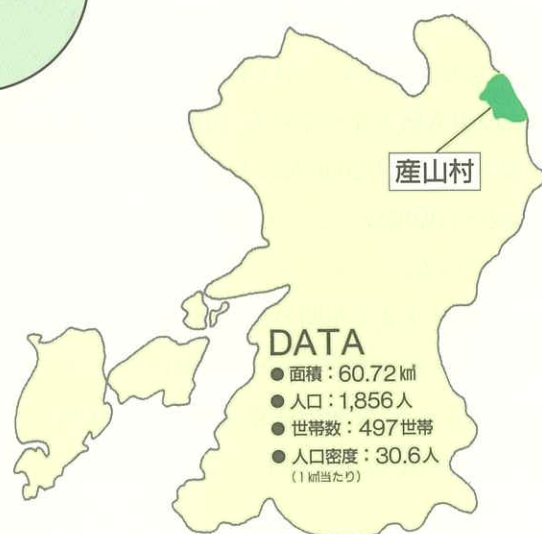
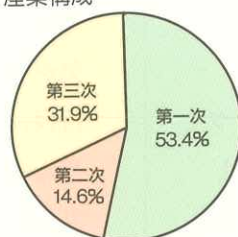
近は、お見合いをしてデートするとき、盛んに村
 の中を連れて回っている様子だ。

それは非常にうれしいことだ。若い女性にモチ
 ーブル村をつくりたい。そのためにデザインもあり、
 アイディアもある、と最近思っている。

年齢別構成



産業構成



文楽館の成功が村おこしに波及——清和村

兼 瀬 哲 治 清和村・清和文楽呂支配人

私達は、アートポリスに参加して本当に良かったと考えている。文楽館を建設するに当たってまず考えたことは、文楽の館という文化の器だから、建物そのものも文化であって欲しいということであった。建築文化の代表的なものになると同時に、建物そのものの魅力が人を引きつけるものであって欲しい。建築家の石井和紘氏には、上記のような気持ちを込めて、本格木造の建築、周辺環境との調和など4点を依頼した。現実の建物は、私達の願いを見事にまとめあげ、表現したものとなった。私達の願いは、すべて今の文楽館に当てはまっている。

これからの文楽館の役割は、文楽の伝承と村づくりにつながっていく。まず、文楽の伝承に関しては、3月に建物が完成して以来8ヵ月で既に入場者数が3万人弱となっている。公演回数は138回で、観客数は1万2000人にも達している。清和村の地理的環境からしても、本当に凄い反響だと思っている。

というのは、昨年まで年間の公演回数は6~7回だった。ところが、40回も一つの外題(げだい)をやることになると、文楽の保存会の方々の技術はもとより、知識、認識が向上してくる。すべて

がレベルアップにつながってくる。

観劇には観覧料を要する。お金をいただく以上、公演を楽しんでもらうにはどうしたらいいのか。非日常的な空間で、非日常的な経験をしていただくわけだから、それが楽しいものでなければならない。

その中で、保存会員は脂汗を流して頑張る。失敗したら一晩中眠れなくなる。そんな状況の中で、みんな頑張っている。頑張るうちに、経済的なサイクルも出来てきた。自力で地域の文化を残していく道筋が、やっとかすかながら見えてきた気がする。

「村おこし」に関しては、私達は有機農業に取り組んでいるが、今年の新米は、「文楽米」として売り出していく。すべての農産物、農産加工品に文楽のシールを貼っていく。また、小さな売店で土産物や農産加工品を販売しているが、その売り上げも相当なものとなり、文楽弁当も3000人程に食べてもらった。地域への波及効果も徐々に出てきたと思う。

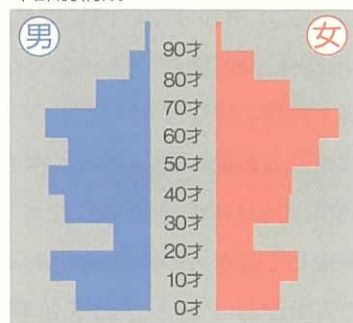
周囲からの反響も大きい。清和村出身者が、記事が出ていたと北海道新聞をわざわざ送ってきてくれた。テレビを見て、涙が出たとの声も聞いた。

旅先で差し入れられた新聞にアートポリスが載っていた、文楽館が紹介されていたと、その新聞を持ち帰ってきた人もいる。東京から全国的に情報が発信されているようだ。

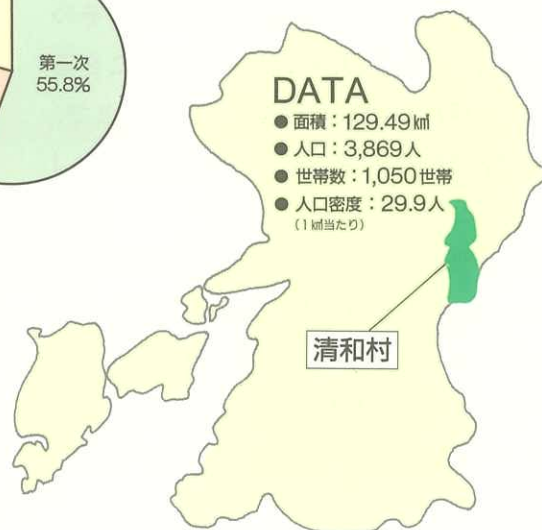
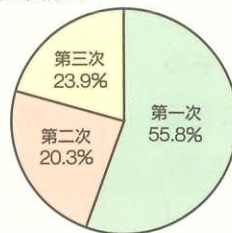
県内でもいろいろな反響がある。「文楽の黒子を脱げば農婦にてあとは田圃の稲刈りに行く」という短歌が熊日短歌会の賞を受けた。これは橋本しずえさんの作だが、こういうのを見ると、村人も保存会の人達も、非常に勇気を持って文楽に取り組んでゆけるのではないかと思う。建設に当たっても、また、運営面でも、国、県ある

いはそれぞれの立場の方々にとっても、今までの歩みは格闘だった。まさに、格闘してここまでやってきたという気がする。建設工事を担当した方々は、建物の1/3の模型を作って研究し、工事にのぞまれた。大工さんは、墨だしをするのに1週間眠れなかったというエピソードもある。そのような格闘をしてできた建物だということを肝に銘じて、今後の運営に当たっていきいたいと考えている。

年齢別構成



産業構成



都会的な建築が若者達を魅了する——津奈木町

浦 田 伸 ー 津奈木町・つなぎ物産ギャラリー「グリーンゲート」所長

自然は田舎に行けば行くほどたくさんあるが、憩いの空間は逆に少なくなる。それが私達を取り巻く環境の現状ではないかと思う。津奈木ではそのことを考慮して、緑と彫刻のある津奈木町に都会的でシャレた「つなぎ物産ギャラリー」を建設した。これまで町では、町の活性化を図るためにいろんなイベントを展開してきたが、若者の間から生活に密着した第一次産業に関連したものをとの声が出て、都会へ町の特産品を発信するための物産館に着手した。

町には目立った観光施設がない。それなら、施設でPR効果を高めようという気持ちで、アートポリスに参加した。設計は、東京の建築家・北山孝二郎氏。建物は、国道3号線に面している。その国道を挟んで左右に大きな楠がある。ここを通らなければ町の中心に行けないということで、左右の楠を緑の門に見たて、「グリーンゲート」と名付けた。

建物は2階建だが、屋根に大きなグリーンの屋根がついている。そのために、外から見ると3階建に見え、小さな施設だが、大きく見える感じになっている。建物の前方にスロープがついているが、これも当初、非常に問題となった。玄関に

このような壁があると、お客さんが入ってきづらいのではないかという話もあった。しかし、色々なイベントに前面が使えることが最近ようやく分かってきた。

敷地の左側は、眼鏡橋公園になっている。木の囲いだけのパーゴラのついた遊びの空間になっている。これも一つの壁になっている。狭い敷地を門型の木の囲いの列で遮ることにより、その内側の空間では家族が弁当でも広げて楽しむことができる。その近くには、中央部に彫刻を置いた池が設けてある。

建物の全体の長さは33mで、かなり横長な施設になっている。1階部分の店内には農産物や林産物、お酒関係、海産物コーナーなどがある。2階には郷土料理の店などが入っている。この店の椅子は座るとお尻が痛いという声も出たが、最近、都会的でかわいいと評判になっている。

敷地に隣接して昔からの眼鏡橋がある。これがかなりの人気があって、わざわざ見学に訪れる方も数多い。眼鏡橋が架かっているのが津奈木川で、1年後には親水公園となる。5年間、鯉の放流を続けており、この付近は鯉と子供達が戯れられる場所となるだろう。

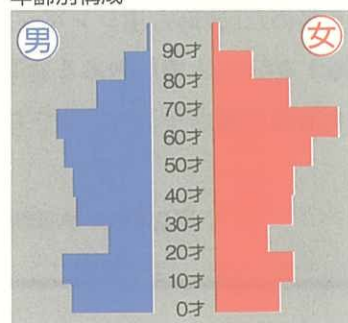
また、この川に隣接して、今年温泉が出たところに温泉センターを建設する予定になっている。国道を挟んだ反対側には、音楽ホールと歴史資料館が建っており、この付近一帯が文化的なゾーンを形成している。

「くまもとアートポリス'92」に関連して「ミニ花博」というイベントを行った。国道から丸見えではなく、中で憩える空間が出来たと、かなり好評を博した。

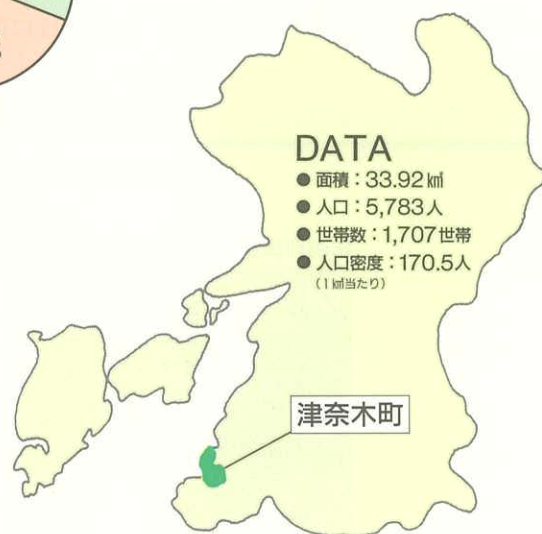
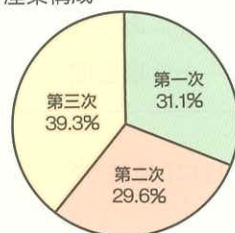
この施設そのものが若者から始まった取組みだが、このような都会的な建物が出来ると、自然と若い人達が寄ってくる。その若者が、お客さんを見て次の計画を生み出す。そういうことが非常に大きなメリットになっている。

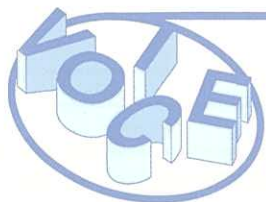
今後はそうした小さなイベントも含めて、この施設はまちづくりの中で大活躍するものと期待している。

年齢別構成



産業構成





平成4年4月に鹿央町に県立装飾古墳館が開館しました。この館は、全国唯一の装飾古墳に関する博物館として建設されたものですが、安藤忠雄氏の設計による前方後円墳をモデルとしたユニークな建物は、現代から古代に至る園路(古墳館に通じる道)と相まって、考古学に興味を持つ人のみならず建築関係者の注目を浴び、多数の来館者を集めております(平成5年2月現在7万人)。

また、同館のある岩原地区は、国指定文化財である双子塚(直径107mの前方後円墳)をはじめ、大小7基の古墳が立ち並んでいるほか、この4月には中を見ることが出来る古墳として、植木町にあった横山古墳の移設も完了し、一大古墳公園となります。

町としては、昨年8月14日に「夏祭 炎

の祭典」と題して、400本余りの松明を灯した荘厳な雰囲気の中で、九州各県から選抜した和太鼓の競演を開催し、数千人の観客を集めました。

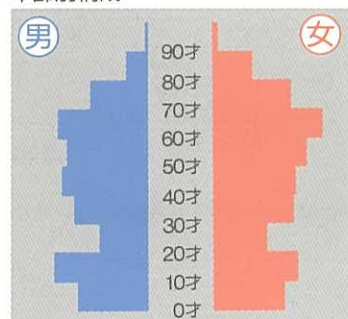
今年は祭に加え、8月には近くの鹿本郡市の物産を集めた「鹿央町物産館」を開館する予定としており、古代の米である赤米、古代ハスなどの特産物を利用したレストランや新鮮な果物・野菜の直売、伝統工芸館にも出品した木工品、すぐ近くの龍山窯で焼かれた手作りの陶器など魅力ある品物を揃える予定です。

さらには、県民文化祭の主要事業の一つとして11月3日には全国の著名な考古学者を集めた「装飾古墳シンポジウム」を開催するなど、古墳館のある岩原地区を観光開発の拠点として位置づけています。

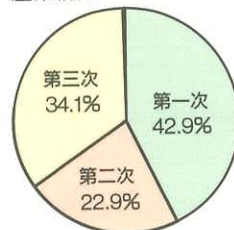
小原忠隆(鹿央町企画観光課長)

鹿央町

年齢別構成



産業構成



DATA

- 面積: 31.47km²
- 人口: 5,841人
- 世帯数: 1,498世帯
- 人口密度: 185.6人(1km²当たり)

K・A・P

第4章

総 括

アートポリスを採点すると

磯 崎 新 くまもとアートポリスコミッショナー／建築家

「くまもとアートポリス'92」が終了した。その開催にあたって、世界の12都市・地域の開発状況が県立美術館分館に展示され、これに関連したシンポジウム「都市デザイン・サミット」が、それぞれの都市の代表を招いて開かれた。これらは過去4年間にわたって推進されてきたアートポリス活動の第一期の成果を世界に問おうとした企画であった。

ほとんど熊本県の名前さえ聞いたことがなかったという世界各国からのシンポジウム出席者が異口同音で評価を与えたのは、「くまもとアートポリス」が、ひとつの地区やひとつの街ではなく、全県という広域にひろがる運動であることだった。ここで報告された世界の諸都市の開発状況をみると、いずれも大規模で、日本では東京湾岸や関西の沿岸、旧国鉄用地開発などでなければ実現しそうもないものばかりであったが、それらは特定の地区を集中的に再編する意図のものが多く、独自の施策とアイデアに溢れてはいるが、必ずしも広がりを持つとはいえない。それに比較すると、全県的に市町村がそれぞれ趣向をこらして建設する建築物を点として、そのネットワークを組みたてるというアートポリス方式

は、あまり類例がないといえるだろう。

だが、いまのところ散在する点であるから、これを街づくりと呼ぶわけにはいかない。むしろ日本の実情に即して、手のつけ得るものから始めるとすれば、離れた場所を想像的に結びつけることだろう。情報・交通の手段は点相互の連結によって成立しているのだから、メディア的な移動空間として地域をとらえるひとつの方法でもあろうと考える。

それにしても、目下のところ大部分が自治体の建設する施設であり、その間を街の景観として埋めているのは民間施設であるからには、今後、民間からのより多くの参加があってはじめてアートポリスは街づくりに結びつく。シンポジウムのなかで印象的であったのは、すぐれた成果を上げている都市では、いずれも見識をもった首長の主導によっている点で、バルセロナ、ニームなどは市長が、フランクフルト、ロッテルダムなどは市の担当者が、フランスでは文化省の長官が長期にわたって計画を推進している。熊本もその点では同様に、県知事の実行への意思表示と推進が決定的な役割をしていることは明らかで、第二期の成否もここにかかっている。

日本の現代建築家たちにとっても、「アートポリス'92」は大きな刺激を与えた。とりわけ建築の公共性についての議論が、尖鋭なデザインを試みる建築家たちにとって、大きな主題となった。それは、本来、都市に建てられる建物、多数の人々によって住まれる住居が、建設主体の公共、民間の差異を問わず、本来考慮されるべき本質的な要素であるからだ。ところが、これまでその建設条件のあまりの貧弱さのために、かなりいい加減な扱いしかされていなかった。その困難さをのりこえて、新しい提案がいくつか実現したことは、今後の都市型集合住宅の設計を勇気づけることになるだろう。

コミッショナーとして自己採点をするならば、アートポリスの最大の成果は集合住宅に新しいデザインが実現したことだと考えている。この点を除くと、他の府県で行われている公共施設の一点豪華主義とあまり変わらないものになったかもしれない。住まいにかかわる問題提起があり、賛否両論があり、そのあいだから今後よりすぐれた方向性を捜すというダイナミズムの萌(ほう)芽がここにあった。この点は海外の参加者が特に注目していた。いずこの都市も集合住宅

の型の開発に強い関心を持っているからである。私はシンポジウムで、民主主義の自由主義経済が要請する住民参加型と、社会主義の計画経済に由来する官主導型の両者が、いま見せている限界をいかに突破することを試みるべきかを問いかけてみた。それぞれの都市の代表はいずれかの選択について語ったが、バルセロナの都市文化局長としてオリンピックの計画と都市改造を成功させた建築家のオリオール・ボヒガスは、計画性をもったマスタープランは官主導で、住民参加は個別の地区の計画で、という折衷させたシステムの提案が、彼の経験を通じてもっともリアリティーがあると語った。アートポリスの今後が、さらにきめ細かい計画を通じてなされていくとすれば、私はこの意見は傾聴に値すると思えた。民間よりの参加をより可能にするためには、官による全体計画の構想がよりち密に練られねばならない。それが公共性を集合住宅や公共建築のデザインに浸透させるための正攻法でもあると思えるからだ。

これらの成果をみて、アートポリスの第一期は合格点に入っただのではないかと思う。第二期以降もぜひ頑張っていきたいものだと考えている。

(平成4年12月15日付け熊本日日新聞より)

文化資産の形成とまちづくりへの支援としてのアートポリス

堀 内 清 治 くまもとアートポリスアドバイザー／熊本工業大学教授

第一期のくまもとアートポリス事業を総括し、第二期に向けての期待と要望を述べたい。

1988年からの4年間に、熊本には内外の有能な建築家達が知能と技術を総動員し、現在望むことができる最高水準の建築が28作品も完成した。これは工事を担当した業者にとっても、高度な建設技術を磨くまたとない機会であり、設計者からは、地元の建設業の方々が真面目に研究し、誠実に仕事をしたと大変な感謝と賞賛を受けた。これらの建築は、熊本の大自然を背景に、数多くの歴史的建造物・文化資産とハーモニーを奏で、歴史の厚みを増しながら新しい生活環境に溶け込んでいくことだろう。

11月の熊本県は、デザインとまちづくりの祭典という観を呈し、約18万人もの人々が行事に参加した。これらの行事は、地元の建築関係者あるいは日頃は建築と関係のない芸術家、デザイナー、自治体職員、ボランティアの参加によって実現したものであり、これほど多方面の人々がふるさとづくり、町おこしのために一致協力した前例はないだろう。参加協力してくれた多くの人々に対し深く感謝したい。

また、参加した方々にとっても、それぞれが専門

分野を超え、内外の人々と知り合えたことは、将来の熊本のまちづくりを考えると、何よりの財産となるであろう。

後世に遺産として残すに足る文化的価値を持つ建築を、一つでも多く熊本につくることがアートポリスの目的である。古代ローマの建築家ビトルビウスは、「建築は用、強、美の理を備えていなくてはならない」と書いている。建築は美術と違い、実用目的を十分に果たさなければならない。安全のために十分な強さ、堅固さが必要である。建築は誰でも見ないわけにいかず、社会的影響力が大きいことから、建築が与える好ましい心理的、精神的な効果を美と呼ぶ。今日的には<機能、構造、デザイン>だが、建築は、始めからこの三つが一体として構想されなければならない、どれか一つだけを満足すればよいものではない。単に見せかけだけの目新しさをひけらかすことは、真のデザインではない。つまり、デザインか機能かとの問いは、ほとんど意味のないことである。

戦後、特に公共建築では、建築に対するこの伝統的な観念を忘れていた。それが建築の本来の力を失わせている。アートポリスの目的は、いわゆ

るデザイン優先ではなく、建築を本来の王道に帰すことだと信じている。

しかし、我々は優れた建築を県下に建てれば役目が終わるとは考えていない。本当に優れた建築は、必ず周囲に良い影響を及ぼす。優れた建築を核とし、その影響を線に伸ばし面に広げ、より豊かで住みよい、あるいは、多彩で生きがいの感じられるまちづくりにつなげていくことが究極の目的である。泥臭い草の根のまちづくりから、いわば成層圏に属するような芸術まで多種多様な価値を町の中に取り込めるような、新時代のふるさとづくりを支援・活性化することこそが、もう一つの目的である。

これまでの活動を第一期と呼ぶと、第二期は第一期の長所を伸ばし、短所を改善していくことになる。内外から最も高い評価を得たのはコミッショナー制度であり、第一期の成功の最大要因は、コミッショナーに磯崎新氏を選んだことであり、この制度は、アートポリスの根幹として持続すべきである。もう一つの高い評価は公営住宅を取り上げたことだが、一方、地元からはこれに最も批判が集中した。これほど評価が分かれたことは珍しく、注目に値する。

第一期は、県主導型の上からのアートポリスだった。しかし、大きな目標がまちづくりにあることから、第二期は、その主体である市民、県民も参加する多彩なアートポリスが望まれる。そのためには、クライアントを効果的に支援できるシステムが必要である。また、第一期には、基本構想が出来上がってからアートポリスに参加していたが、そのためコミッショナーが十分な機能を発揮できない場面もあった。まして、アドバイザー制度はほとんど機能しなかった。第二期では、基本構想から竣工まで全段階でアドバイスに応じられる組織を作り、アドバイザー制度を補強する必要がある。

最後に、アートポリスに対する様々な批判については、その多くが単純な誤解によるものであった。県民一人一人に説明できない以上、説明不足は避けられないが、公共のものである建築は、誤解をそのまま進行することは望ましくない。誰とでも対話のできる公開の場が必要である。第一期を経験した熊本県では、産官学と住民が協力してその場を支える準備はすでにできていると思う。

くまもとアートポリス'92の閉幕にあたって

福 島 譲 二 くまもとアートポリス'92実行委員会会長／熊本県知事

アートポリス事業の4年間の成果を広く国の内外に発表するために、11月の約1カ月間開催を
してまいりましたくまもと国際建築展「くまもとアートポリス'92」もいよいよ閉会の時となりました。

たくさんの皆様方にこの閉会の行事にご参加いただきましたことを、心からお礼申し上げたいと思います。

期間中、色々な方面に大変大きな反響を呼び、様々な議論が重ねられる等、成功裡に全日程を終了することができたと思います。これもひとえに関係者の皆様方の大きなご尽力とご支援のお陰であると、改めて感謝を申し上げます。

この度の建築展では、様々な角度からこれまでの成果を皆様方にご披露いたしました。設計者のみならず県内の施工者、設備、構造関係者の皆様をはじめとして、行政関係者や建築家等の多くの皆様方から大変貴重なご示唆をいただくことができたと思っております。期間中は、国の内外からも大変大勢の皆様方に熊本を強く印象づけることができたことも、誠に実りの多い建築展であったと思っております。

アートポリス事業は、独自の創意工夫により、世

代を越えて県民の皆様方に愛されるような優れた建物を造り、個性豊かな文化の薫り高い、魅力ある地域を創造しようという趣旨で推進してきたわけでございます。これは、長い期間継続して初めて成果が現れる大変息の長い事業でありますので、何よりも県民の皆様方お一人お一人のご理解とご協力を得ながら推進をすることが必要であると思っております。

本日のフォーラムを最後といたしましてくまもと国際建築展「くまもとアートポリス'92」の幕を閉じますが、同時にアートポリス事業の第二期への新たな出発点となることを確信するものでございます。また、関係者の皆様方と一緒に、この1カ月の成果について率直に意見の交換をしながら、よりよい形で第二期を展開してまいりたいと思っております。

最後になりましたが、このくまもと国際建築展「くまもとアートポリス'92」にご参加いただきました皆様方やご協力、ご支援をいただきまして、閉会のご挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。

(アートポリスフォーラム知事挨拶より)

RAP

参看资料

くまもとアートポリス'92 実行委員会会則

第1章 総 則

(名 称)

第1条 この団体は、くまもとアートポリス'92実行委員会（以下「本会」という。）という。

(事務所)

第2条 本会の事務所は、熊本市に置く。

(目 的)

第3条 本会は、くまもとアートポリス参加作品及び熊本の代表的な建造物並びに県内のまちづくりの成果等を国の内外に発表する、「くまもとアートポリス'92」を実施することを目的とする。

(事 業)

第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次のことを行う。

- (1) 「くまもとアートポリス'92」の総合計画に関すること。
- (2) 「くまもとアートポリス'92」の開催準備に関すること。
- (3) 「くまもとアートポリス'92」の実施運営に関すること。
- (4) その他、本会の目的達成に必要な事業に関すること。

第2章 役員等

(役員の種別及び選任)

第5条 本会は、次の役員を置く。

- | | |
|-----|------------------|
| 会 長 | 1 名 |
| 副会長 | 2 名 |
| 理 事 | 30名以内（会長、副会長を含む） |
| 監 事 | 1 名 |

- 2 会長は、熊本県知事とする。
- 3 副会長は、くまもとアートポリスコミッショナー磯崎新氏及びくまもとアートポリスアドバイザー堀内清治氏とする。
- 4 会長、副会長以外の理事及び監事は、会長が委嘱する。

5 理事及び監事は、相互に兼ねることはできない。

(役員の職務)

第6条 会長は、本会を代表し、会務を統括する。

- 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、この職務を代行する。
- 3 理事は、理事会を構成し、会務の執行を決定する。
- 4 監事は、民法第59条の規定に準じる職務を行う。

(顧 問)

第7条 本会に、顧問を置くことができる。

- 2 顧問は、会長が委嘱する。
- 3 顧問は、重要な事項について助言することができる。

(任 期)

第8条 理事、監事、顧問（以下「理事等」という。）の任期は、本会の目的を達成するまでとする。ただし、理事等が委嘱時におけるそれぞれの機関及び団体の役職を離れたときは、会長は当該理事等を解職し、解職された理事等が所属する機関及び団体から理事等を委嘱する。

- 2 会長は、前項の規定により理事等を解職又は委嘱した場合は、次の総会において報告し、同意を得なければならない。

第3章 理事会

(構 成)

第9条 理事会は、理事をもって構成する。

(権 能)

第10条 理事会は、この会則に定めるもののほか次の事項を議決する。

- (1) 事業計画の決定
- (2) 事業報告の承認
- (3) その他本会の運営に関する重要な事項

(招 集)

第11条 理事会は、会長が招集する。

(議 長)

第12条 理事会の議長は、会長がこれに当る。

(議 決)

第13条 理事会の議事は、出席理事の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

第4章 幹事会

第14条 会長が諮問する事項及び事業の具体的な運営に必要な事項を審議するために幹事会を置く。

- 2 幹事会は、代表幹事及び幹事をもって構成する。
- 3 代表幹事及び幹事は、会長が委嘱する。
- 4 幹事会は、必要の都度会長が招集する。
- 5 代表幹事は、幹事会を統括し、幹事会の議長を務める。

第5章 専門部会

第15条 本会の専門的事項について審議するため、専門部会を置くことができる。

- 2 専門部会に関し必要な事項は、会長が別に定める。

第6章 会 計

(経 費)

第16条 本会の経費は、負担金、寄附金その他の収入をもって充てる。

(会計年度)

第17条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

- 2 会計に関し必要な事項は、会長が定めるもののほか、熊本県の財務に関する諸規則の例による。

(予算及び決算)

第18条 収支予算は、理事会の議決を経て定め、収支決算は、監事の監査を経て理事会の承認を得なければならない。

第7章 事務局

第19条 本会の事務を処理するため、事務局を置く。

- 2 事務局に関し必要な事項は、会長が別に定める。

第8章 雑 則

(解 散)

第20条 本会は、その目的が達成されたときに解散する。

(委 任)

第21条 この会則に定めのあるもののほか、実行委員会の運営に関し必要な事項は会長が別に定める。

附則

この会則は、平成3年12月19日から施行する。

くまもとアートポリス'92推進体制

後援団体

建設省
自治省
(財)日本建築学会
(財)土木学会
(財)日本建築士会連合会
(財)日本建築士事務所協会連合会
(財)新日本建築家協会
(財)全国建設業協会
(財)日本建築センター

参加・協賛団体

㈱岩田屋伊勢丹
九州産業交通㈱グループ
九州旅客鉄道㈱熊本支社
熊本県管工事業組合連合会
熊本県外壁補修工事業協同組合
熊本県景観整備施設業協会
熊本県建材懇話会
熊本県建材商組合連合会
(財)熊本県建設業協会
(財)熊本県建設業協会建築部会
(財)熊本県建築士会
(財)熊本県建築士事務所協会
熊本県商工会議所連合会
熊本県設備設計事務所協会
(財)熊本県造園建設業協会
熊本県タイル組合
熊本県宅地建物取引業協会
協同組合熊本県鉄構工業会
熊本県塗装業協同組合
熊本県電気工事業工業組合
熊本県生コンクリート工業組合
熊本県防水改修業協同組合
熊本県防水工事業協会
(財)熊本県木材協会連合会
熊本県労働金庫
㈱熊本ファミリー銀行
西部ガス㈱熊本事業本部
JTB熊本支店
㈱鶴屋百貨店
㈱ニュースカイホテル
㈱肥後銀行 (50音順)

くまもとアートポリス'92実行委員会

顧問 熊本県議会議長、熊本県市長会会長、熊本県町村会会長
熊本県市議会議長会会長、熊本県町村議会議長会会長
会長 熊本県知事
副会長 くまもとアートポリスコミッショナー、くまもとアートポリスアドバイザー
理事 熊本県議会建設委員会委員長、熊本市長、熊本県文化協会会長、(財)熊本県建築士会会長、(財)熊本県建設業協会会長、(財)熊本県建築士事務所協会会長、(財)新日本建築家協会九州支部熊本建築家の会代表、(財)日本建築学会九州支部熊本支所長、(財)土木学会西部支部「土木の日」熊本実行委員会委員長、熊本まちづくり協議会代表、(財)熊本県観光連盟専務理事、(財)日本青年会議所熊本ブロック協議会会長、熊本県地域婦人会連絡協議会代表、熊本日日新聞社代表取締役社長、NHK熊本放送局長、熊本放送代表取締役社長、テレビ熊本代表取締役社長、熊本県民テレビ代表取締役社長、熊本朝日放送代表取締役社長、エフエム中九州代表取締役社長、熊本県総務部長、熊本県土木部長
監事 熊本県出納長

幹事会

代表幹事 熊本県土木部次長

幹事 実行委員会の理事（熊本県議会建設委員会委員長を除く）の所属する機関又は団体から推薦された者

専門部会

見学会部会、シンポジウム部会、展示部会、まちなみ部会、関連事業部会、広報記録部会

くまもとアートポリス 庁内推進連絡会議

広報課、国際課、地方課、政策企画課、文化企画室、地域振興課、社会援護課、衛生総務課、環境総務課、商工政策課、観光振興課、農政課、林政課、監理課、用地対策課、土木技術検査管理室、景観整備課、道路建設課、道路維持課、河川課、港湾課、都市計画課、下水道課、建築課、住宅課、砂防課、熊本港建設課、企業局経営課、警察本部総務課、教育委員会総務福利課、文化課

くまもとアートポリス'92 実行委員会事務局

建築課・住宅課

くまもとアートポリス'92実行委員会

(平成4年11月現在)

職	所 属 名 及 び 職 名	氏 名 ()は前任者
顧 問	熊本県議会議長 熊本県市長会会長 熊本県町村会会長 熊本県市議会議長会会長 熊本県町村議会議長会会長	古 閑 三 博 (平 川 和 人) 田 尻 靖 幹 草 西 信 義 嶋 田 幾 雄 杉 本 三 郎
会 長	熊本県知事	福 島 讓 二
副 会 長	くまもとアートポリスコミッショナー くまもとアートポリスアドバイザー	磯 崎 新 堀 内 清 治
理 事	熊本県議会建設委員会委員長 熊本市長 熊本県文化協会会長 熊本県建築士会会長 熊本県建設業協会会長 熊本県建築士事務所協会会長 新日本建築家協会九州支部熊本建築家の会代表 日本建築学会九州支部熊本支所長 土木学会西部支部「土木の日」熊本実行委員会委員長 熊本まちづくり協議会代表 熊本県観光連盟専務理事 日本青年会議所熊本ブロック協議会会長 熊本県地域婦人会連絡協議会代表 熊本日日新聞社代表取締役社長 NHK熊本放送局長 熊本放送代表取締役社長 テレビ熊本代表取締役社長 熊本県民テレビ代表取締役社長 熊本朝日放送代表取締役社長 エフエム中九州代表取締役社長 熊本県総務部長 熊本県土木部長	小早川宗一郎 (山 本 靖) 田 尻 靖 幹 三 浦 洋 一 右 田 健 児 岩 永 研 一 (増永宏吉郎) 佐 藤 可 伊 藤 琢 二 三 井 宜 之 中 島 重 旗 山 田 穰 竹 田 勉 北 時 正 彦 田 中 文 子 永 野 光 哉 石 田 裕 之 (片 山 健 二) 小 堀 富 夫 河 津 龍 介 田 川 融 (竹 下 一 記) 林 田 正 恒 長 谷 川 孝 道 青 木 豊 渡 戸 健 介 (杉 浦 健 次)
監 事	熊本県出納長	木 村 剛 勝

くまもとアートポリス'92実行委員会幹事会

(平成4年11月現在)

職	所 属 名 及 び 職 名	氏 名 ()は前任者
代 表 幹 事	熊本県土木部次長	石 島 和 光
幹 事	熊本市物産展開催事務局参事 熊本県文化協会常務理事 熊本県建築士会副会長 熊本県建設業協会建築部会長 熊本県建築士事務所協会副会長 新日本建築家協会九州支部熊本建築家の会代表 日本建築学会九州支部熊本支所幹事 土木学会西部支部「土木の日」熊本実行委員会幹事長 熊本まちづくり協議会代表 熊本県観光連盟専務理事 日本青年会議所熊本ブロック協議会運営専務 熊本県地域婦人会連絡協議会生活協同組合事務局長 熊本日日新聞社事業局長 NHK熊本放送局放送センター放送部長 熊本放送業務推進局長 テレビ熊本報道制作局長 熊本県民テレビ取締役報道制作局長 熊本朝日放送技術局長 エフエム中九州常務取締役 熊本県総務部広報課長 熊本県土木部監理課長	横 田 満 堀 一 夫 吉 武 博 宮 崎 龍 造 田 中 重 雄 上 田 詔 峻 矢 野 隆 大 津 政 康 山 田 穰 竹 田 勉 江 崎 孝 前 田 ヒ サ 坂 口 勝 彦 重 松 仁 (八 田 昂) 田 代 哲 也 (岡 崎 幹 雄) 坂 田 浩 紀 幸 田 秀 穂 小 山 照 映 岩 井 宏 一 郎 西 武 宜 (泉 田 辰 二 郎) 澁 谷 仁 一 (塩 山 隆)

くまもとアートポリス'92実行委員会専門部会

部会名	職	氏 名	所 属
見学会部会	部会長	上田憲二郎	上田憲二郎建築事務所
	副部会長	竹内義雄	竹内工務店
展示部会	部会長 副部会長	中村太昭	県建築課
		政本安司	県建築課
		松岡岩夫	熊本県観光連盟
		近田一夫	近田建設
		深水俊博	県建築課
シンポジウム部会	部会長 副部会長	重松隆	県建築課
		岩永真	マコト建設
		千原政晴	岩永組
まちなみ部会	部会長 副部会長	水上文芸	県建築課
		桂英昭	熊本大学工学部建築学科
熊本小委員会	委員長	後藤道雄	中九州建設
		山田穰	九州東海大学工学部建築学科
		猪塚光典	九州ナショナル設備機器 熊本支店
		井上正敏	熊本工業高等学校インテリア科
		入江雅昭	I G A 建築計画
		岩田恒介	インパクト環境美術研究所
		上野裕典	熊本市建築指導課
		大住和子	横書房
		柏木正文	熊本市建築課
		加納義之	県建築課
		木村昌明	木村昌明建築計画事務所
		坂崎隆一	
		坂田一幸	風設計室
		坂本公子	友枝雄策デザイン事務所
		佐藤匠	大晃建設
		清水照親	県住宅課
		瀬崎正博	裕建築事務所
		高瀬隆三郎	エリアネット
		瀧澤龍一	西釜建設
		鶴田幸三	熊本市住宅建設課
		主海政俊	大和設計
		豊永信博	熊本市都市計画課
		中川次男	中川電設
		七谷亜紀彦	亜紀工芸
		濱田康成	熊本市建築指導課
		牧野富一	熊本市都市整備総合対策室
		松尾伯方	伯建築事務所

部会名	職	氏 名	所 属
八代小委員会	委員長	村上隆光	弦設備設計事務所
		村上義友	県建築課
		山崎勇	長神設備
		横山俊祐	熊本大学工学部建築学科
		吉川誠一	県建築課
		渡辺敬之	建吉組
		永田隆一	八代市市街地開発課
		下野健一	下野建築設計事務所
		高瀬隆三郎	エリアネット
		三浦好	桜樹会・古川建築事務所
小国小委員会	委員長	新納至門	新納設計
		穴見泰蔵	小国町建設課
		清高泰広	小国町企画班
関連事業部会	部会長 副部会長	田中之博	田中建築設計事務所
		馬場邦男	馬場実花園
		中川久	中川建築設計事務所
		富重博介	富重建設
		井手秀逸	県住宅課
		浦田武史	県建築課
		酒井博幸	さかいデザイン設計室
		古川裕久	桜樹会・古川建築事務所
		部家浩一	しろはと保育園
		堀之内裕士	堀之内工務店
広報記録部会	部会長 副部会長	牧野裕三	S D A 建築設計事務所
		中川誠之	中川誠之建築設計事務所
		荒木一正	建築事務所 I S S E Y
		園田和美	蔵鍵
		田辺肇	県建築課
		新名敏司	N T T 一級建築士事務所

専門部会員の推薦団体(順不同。()内は人数)

熊本市(6)、八代市(1)、小国町(2)、(㊦)熊本県建築士会(13)、
(㊦)熊本県建設業協会(5)、(㊦)熊本県建築士事務所協会(7)、(㊦)
新日本建築家協会九州支部熊本建築家の会(2)、熊本まちづく
り協議会(1)、(㊦)熊本県観光連盟(1)、(㊦)日本青年会議所熊本
ブロック協議会(1)、熊本県設備設計事務所協会(1)、熊本県
電気工事業工業組合(1)、熊本県管工事業組合連合会(1)、(㊦)
日本インテリアデザイナー協会九州事業支部(1)、会長推薦(24)

くまもとアートポリス'92八代まちなみ展実行委員会

職	氏 名	所 属
会 長	沖 田 嘉 典	八代市長
副会長	石 島 和 光	くまもとアートポリス'92 実行委員会事務局長
事務局長	上 田 史 朗	八代市建設部長
実行委員	有 馬 保	八代市建築課
	飯 田 哲	萩原共栄会
	出 水 晃	八代山頭火句碑建立期成会
	泉 徳 雄	八代市建築課
	今 村 一 成	八代市建築課
	井 本 恵 英	八代市建築課
	上 野 美 磨	八代市企画調整課
	大 岡 豊	本町二丁目商店街振興組合
	太田黒元雄	八代建築設計監理協会
	緒 方 大 介	八代市建築課
	岡 本 和 子	国際ソロプチミスト八代
	沖川田鶴子	八代市地域婦人会連絡協議会
	萱 島 義 邦	熊本県八代教育事務所
	川 口 健 治	八代市建築課
	木 田 哲 次	本町四丁目商店街振興組合
	黒 瀬 重 幸	八代工業高等専門学校
	小 橋 孝 男	八代市建築課
	小 林 慶 助	八代建築設計監理協会
	坂 口 秀 二	熊本県八代土木事務所
	桜 井 正	本町二丁目商店街振興組合
	猿 渡 慶 一	熊本県八代事務所
	澤 田 修	八代建築設計監理協会
	澤 田 宗 順	八代市立博物館未来の森ミュージアム
	下 野 健 一	(社)熊本県建築士会八代支部
	鋤馬把祥二	(社)八代青年会議所
	杉 本 久	八代建築設計監理協会
	杉 本 学	宮之町妙見会
	高瀬隆三郎	エリアネット
	高 野 利 行	八代市建築課
	竹 永 淳 一	(社)八代青年会議所
	竹 原 俊 次	八代ギター・アンサンブル
	竹 見 直 俊	八代市建築課
	谷 川 弘 一	日奈久商栄会
	谷 脇 信 博	八代市市街地開発課
	鶴 山 崇	八代市建設部

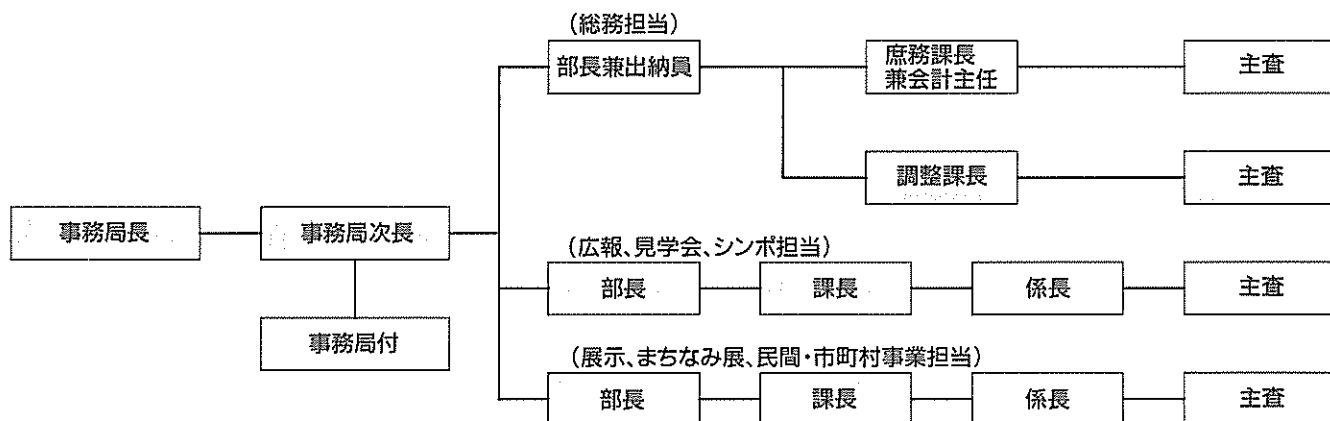
職	氏 名	所 属
実行委員	鶴 山 征 夫	八代建設業協同組合
	長尾テイ子	八代の環境を考える会
	永 田 隆 一	八代市市街地開発課
	長 藤 範 夫	八代建築設計監理協会
	永 山 努	八代市建築課
	西 尾 静 子	八代市建築課
	西 村 勅	八代市建築課
	野々口繁明	八代市商政観光課
	野々口純一	八代市建設部
	橋 本 和 久	本町二丁目商店街振興組合
	羽多野俊光	八代市建築課
	原 田 聡 明	八代市文化課
	早 水 親 廣	八代建築設計監理協会
	福 永 知 規	八代市土木課
	船 蔵 満 彦	八代市都市計画課
	古 川 保	(社)熊本県建築士会八代支部
	堀 口 晃	通町商店街振興組合
	本 田 洋 一	八代建築設計監理協会
	前 垣 信 三	八代建築設計監理協会
	前 田 泉	ボーイスカウト八代3団
	松 島 裕 治	(社)熊本県建設協会八代支部
	松舟たか子	熊本支部ガールスカウト八代22団
	松 本 淳 一	本町一丁目商店街振興組合
	丸山久美子	八代美術協会
	三 浦 好	(株)桜樹会・古川建築事務所
	三 渕 周	八代市料理連合協議会
	宮 端 晋 也	八代市建築課
	本 村 徹 郎	八代工業高校
	山 浦 滋 男	本町三丁目商店街振興組合
	山 川 昭 三	二之町振興会
	山 川 敏 光	通町商店街振興組合
	山 下 澄 雄	八代市建築課
	山 下 益 雄	八代美術協会
	和久田数臣	(社)熊本県建築士会八代支部

くまもとアートポリス'92企画検討会

くまもとアートポリス'92の開催にあたり、その催事内容等について広く意見を聞くために設置した。

氏 名	所 属 団 体	所 属
石丸 捷一	KD21、日本写真家協会	(株)アド・エース
桂 英昭		熊本大学工学部建築学科
姜 信子	フリーライター	
笹原 弘	(社)熊本県建設業協会	(株)建吉組
友枝雄策	KD21、日本グラフィックデザイナー協会	(株)友枝雄策デザイン事務所
中川 久	(社)熊本県建築士事務所協会	(株)中川建築設計事務所
永田 求	(社)熊本青年会議所	(株)片岡
丹伊田 穰	(社)新日本建築家協会	ロゴス設計同人
西島 衛治	熊本まちづくり協議会	熊本工業大学建築学科
富士川一裕	熊本まちづくり協議会	(株)高木・富士川計画事務所
松野 陽子	(社)熊本県建築士会	N T T九州支社九州建築センター
八木 龍平	(社)熊本県建築士事務所協会	大和設計(株)
山田 穰	熊本まちづくり協議会	九州東海大学工学部建築学科
渡辺 敬之	(社)熊本県建築士会	(株)建吉組
八束はじめ	コミッション事務局	ユーピーエム主宰
鈴木 明	"	建築・都市ワークショップ主宰
吉松 秀樹	"	アーキプロ設計事務所主宰

平成4年度くまもとアートポリス'92 実行委員会事務局組織図



くまもとアートポリス'92選定既存建造物選定委員会

職	氏 名	所 属 名 及 び 職 名
委 員 長 委 員	堀 内 清 治 三 浦 洋 一 右 田 健 児 三 井 宜 之 佐 藤 可 吉 武 龍 輝 増 永 宏 吉 郎 山 田 穰 水 上 ム ス 高 橋 航 一 桐 敷 真 次 郎 渡 辺 定 夫 木 島 安 史 磯 崎 新	熊本工業大学教授 熊本県文化協会会長 ㈱熊本県建築士会会長 ㈱日本建築学会九州支部熊本支所長 ㈱熊本県建築士事務所協会会長 ㈱新日本建築家協会九州支部熊本建築家の会代表 ㈱熊本県建設業協会会長 熊本まちづくり協議会代表 熊本県地域婦人会連絡協議会会長 第一工房代表 東京家政学院大学教授 東京大学教授 千葉大学教授 くまもとアートポリスコミッショナー
特 別 委 員		
ワーキンググループ	桂 英 昭 熊本大学北野研究室 熊本工業大学福原研究室 八代高専黒瀬研究室	

くまもとアートポリス'92 関連事業助成金交付要項

(趣旨)

第1条 くまもとアートポリス'92実行委員会会長(以下「会長」という。)は、くまもと国際建築展「くまもとアートポリス'92」の振興を図るため、関係市町村及び民間団体(以下「助成事業者」という。)に対し、予算の範囲内において助成金を交付するものとし、その交付については、この要項に定めるところによる。

(助成対象経費及び助成率)

第2条 助成金の交付の対象経費及びこれに対する助成率は、次のとおりとする。

助成対象経費	助 成 率
「くまもとアートポリス」の趣旨に賛同するものが実施する「くまもとアートポリス'92」関連事業に要する経費	2分の1以内(ただし、助成金の額が50万円を超える場合は、50万円を限度とする。)

(助成金の交付申請)

第3条 助成金の交付の申請をしようとする者は、別に定める日までに、別記第1号様式により、助成金交付申請書を会長に提出しなければならない。

(助成金の交付の決定)

第4条 会長は、助成金の交付の申請があったときは、当該申請に係る書類等の審査及び必要に応じて行う現地調査等により助成事業の目的及び内容が適当であるかどうか等を調査し、当該申請に係る助成金を交付すべきものと認めたときは、速やかに助成金の交付の決定をするものとする。

(決定の通知)

第5条 会長は、助成金の交付を決定したときは、速やかにその決定の内容を助成金交付決定通知書（別記第2号様式）により、助成金の交付の申請をした者に通知するものとする。

(実績報告)

第6条 助成事業者は、助成金の対象となった平成4年度くまもとアートポリス・92関連事業（以下「助成事業」という。）が完了したときは、実績報告書（別記第3号様式）により会長に報告するものとする。

(助成金の額の確定)

第7条 会長は、前条の報告を受けた場合には、助成事業の成

果が助成金の交付の決定の内容に適合するものであるかどうかを調査し、適合すると認めたときは、交付すべき助成金の額を確定し、助成金交付確定通知書（別記第4号様式）により当該助成事業者に通知するものとする。

(助成金の請求)

第8条 助成事業者は、助成金の請求をしようとするときは、別記第5号様式の請求書を会長に提出しなければならない。
2 助成金の交付を概算払又は前払金により受けようとするときは、別記第6号様式の請求書を会長に提出しなければならない。

(雑則)

第9条 この要項に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

附則

この要項は、平成4年6月3日から施行し、平成4年6月3日から適用する。

誘致会議一覧

名 称	開 催 期 間	参 加 人 員
H O P E計画全国シンポジウム	10月29日、30日	700
建築家100人展	11月10日～19日	1826
建築デザイン会議	11月12日～14日	300
九州ブロック営繕担当者職員研修会	11月17日～20日	39
第326回全日本建設技術協会研修会	11月18日～20日	1158
全国開発審査会会長会議	11月19日、20日	270
新日本建築家協会九州支部大会	11月19日、20日	180
九州地区公立学校建築技術協議会	11月24日、25日	60
九州ブロック建築行政担当者会議	11月26日、27日	60

くまもとアートポリス'92印刷物一覧

タイトル	目的・種類	規 格	部数
くまもとアートポリス'92 総合記録	くまもとアートポリス'92 の概要記録誌	A 4 変形判 一部 4 色刷り	5,000
都市デザインサミット	国際シンポジウムの 記録誌	A 4 変形判	3,000
アートポリスフォーラム	フォーラムの記録誌	A 4 変形判	3,000
デザイン コンペティション	デザインコンペティション 応募作品集	A 4 変形判	1,000
熊本まちなみ展	熊本まちなみ展の記録誌	A 4 変形判	1,000
八代まちなみ展	八代まちなみ展の記録誌	A 4 変形判	900
小国まちなみ展	小国まちなみ展の記録誌	A 4 変形判	700
くまもとアートポリス'92 パンフレット	各イベント紹介 パンフレット	A 4 判 和文	10,000
		A 4 判 英文 4 色刷り	1,000
くまもとアートポリス'92 ポスター①	イベント紹介ポスター	A 1 判 4 色刷り	1,000
くまもとアートポリス'92 ポスター②、③	イベント紹介ポスター	A 1 判 3 種類	各1,000
		B 3 判 1 種類 4 色刷り	2,000
くまもとアートポリス'92 ビデオ	建造物・設計者 紹介テープ	VHS 60分	500
		VHS 15分	6
		Uマチック	6
くまもとアートポリス'92 チラシ	夏の各イベント紹介チラシ	A 4 判 4 色刷り	20,000

タイトル	目的・種類	規 格	部数
くまもとアートポリス'92 リーフレット	秋の各イベント 紹介リーフレット	A 4 判 4 色刷り	20,000
アートポリス展覧会	展示内容紹介リーフレット	A 4 判 3 つ折 4 色刷り	30,000
アートポリス'92 八代	イベント P R ポスター	B 2 判 4 色刷り	1,000
八代まちなみ展マップ	全体の催し案内チラシ	B 4 判 3 色刷り	3,000
アートポリス'92 八代 八代まちなみ展	イベント P R パンフレット	B 5 判 4 色刷り	5,000
これからどうする八代 のまちシンポジウム	イベント P R チラシ	B 4 判	1,500
くまもとアートポリス 夏休み見学ツアー	イベント P R リーフレット	B 5 判	1,000
アート・イン・通町	イベント P R ポスター	B 2 判 4 色刷り	1,000
まちなみ・建物、写生・ 写真コンクール	作品募集 P R リーフレット	B 4 判	100
熊本まちなみ展 自分で創りたい	イベント P R ポスター	A 2 判 2 色刷り	1,000
熊本まちなみ展 建築はドラマチックなのだ	イベント P R ポスター	A 2 判 2 色刷り	1,000
気ままに遊ぼう 立田山工作広場	イベント P R チラシ	B 5 判	10,000

タイトル	目的・種類	規 格	部数
児童絵画コンクール ぼくのわたしのアートポリス	作品募集PRリーフレット	B4判	12,000
デザインコンペティション 応募要綱	実施PRリーフレット	B5判	1,000
「市民による建築の提案展」作品募集	作品募集リーフレット	B5判	100
「私たちのアートポリス住宅」	イベント参加PRチラシ	A4判	2,000
施工者シンポジウム 「アートポリスのつくり手大募集」	イベント参加PRチラシ	B5判	2,500
施工者シンポジウム 「アートポリスのつくり手大募集」	当日配布用プログラム	B5判	500
設備シンポジウム 「快適な職・住環境の創造をめざして」	イベント参加PRチラシ	A4判	5,000
設備シンポジウム 「快適な職・住環境の創造をめざして」	当日配布用プログラム	A5判	500
構造シンポジウム 「機能を超えた構造のゆくえ」	イベント参加PRチラシ	B5判	2,500
構造シンポジウム 「機能を超えた構造のゆくえ」	当日配布用プログラム	B5判	500

タイトル	目的・種類	規 格	部数
“遊合空間”ジョイントアート展	期間中配布用パンフレット	B5判	4,000
アートポリス体験 オリエンテーリングマップ	イベント案内チラシ・マップ	A3判3つ折り 両面4色刷り	30,000
小国まちなみ展 世界のこたつで語ろう	イベントPRポスター	B2判 2色刷り	300
小国まちなみ展 ドームフリートーク	イベントPRリーフレット	B5判 2色刷り	500
ガイドブック	建造物解説書	B6判 一部4色刷り	10,000
ガイドマップ	建造物案内地図	A2判長半切 5つ折り4色刷り	50,000
都市デザインサミット プログラム	会議日程案内パンフレット	A4判蛇腹折り 2色刷り	3,000
都市デザインサミット 会場案内図	イベント会場案内チラシ	A4判 2色刷り	4,000
アートポリスフォーラム 会議プログラム	会議日程案内チラシ	A4判 2色刷り	1,000
アートポリス ポストカード	PR用絵葉書	はがき 4色刷り	5,500
アートポリスシンポジウム 公式記録用ビデオ	公式記録用ビデオ	VHS 60分 3種類	50

くまもとアートポリス'92実行委員会平成3年度収支決算書

収入の部

単位 円

科 目	決算額	備 考
熊本県負担金	9,000,000	
寄 付 金 等	5,200,000	民間団体等
雑 収 入	277	預金利子
計	14,200,277	

支出の部

単位 円

科 目	決算額	備 考
事 業 費	6,200,600	ポスター作成、展示パネル作成等
会 議 費	218,421	会場費等
事務局開設費	851,243	室借上料、光熱費、事務用品リース料等
事務局運営費	149,762	旅費、需要費等
計	7,420,026	

収入額－支出額＝14,200,277－7,420,026＝6,780,251
(平成4年度へ繰越)

くまもとアートポリス'92実行委員会平成4年度収支決算書

収入の部

単位 円

科 目	決算額	備 考
1 負担金	146,467,000	熊本県 熊本市 八代市 小国町
2 協賛金等	32,450,000	民間団体等
3 前年度繰越金	6,780,251	
4 諸収入	15,321,323	国際シンポジウム参加費 展覧会入場料 出版物販売 その他
計	201,018,574	

支出の部

単位 円

科 目	決算額	備 考
1 事業費	183,920,534	
(1) 式典費	2,211,863	アートポリスフォーラム開催費等
(2) 見学会費	7,805,393	ガイドブック、ガイドマップ等 制作、バス借上費等
(3) 国際シンポジウム開催費	47,648,543	講師旅費、報酬費 同時通訳設備器材リース 会場借り上げ関係 プログラム、報告書作成等
(4) アートポリス展覧会費	51,863,775	展示品等関係費 会場設営、撤去費等
(5) まちなみ展費	45,986,194	熊本まちなみ展 八代まちなみ展 小国まちなみ展
(6) 市町村事業運営費	1,000,000	湯前町・津奈木町
(7) 民間団体等事業運営費	4,335,148	湯涌活性化協議会 清和文楽の里協会他9団体
(8) 広報記録費	23,069,618	ポスター、パンフレット、 リーフレット、記録誌制作等
2 実行委員会運営費	6,312,205	会場使用料、旅費、報酬費等
3 事務局費	10,785,835	事務局管理費、運営費
計	201,018,574	

後援 参加・協賛団体 協力

後援

建設省・自治省・(株)日本建築学会
 (株)土木学会・(株)日本建築士会連合会
 (株)日本建築士事務所協会連合会
 (株)新日本建築家協会
 (株)全国建設業協会・(株)日本建築センター

参加・協賛団体

(株)岩田屋伊勢丹
 九州産業交通(株)グループ
 九州旅客鉄道(株)熊本支社
 熊本県管工事業組合連合会
 熊本県外壁補修工事業協同組合
 熊本県景観整備施設業協会
 熊本県建材懇話会
 熊本県建材商組合連合会
 (株)熊本県建設業協会
 (株)熊本県建設業協会建築部会
 (株)熊本県建築士会
 (株)熊本県建築士事務所協会
 熊本県商工会議所連合会
 熊本県設備設計事務所協会
 (株)熊本県造園建設業協会
 熊本県タイル組合
 熊本県宅地建物取引業協会
 協同組合熊本県鉄構工業会
 熊本県塗装業協同組合
 熊本県電気工事業工業組合
 熊本県生コンクリート工業組合
 熊本県防水改修業協同組合
 熊本県防水工事業協会
 (株)熊本県木材協会連合会
 熊本県労働金庫
 (株)熊本ファミリー銀行
 西部ガス(株)熊本事業本部
 JTB熊本支店
 (株)鶴屋百貨店
 (株)ニュースカイホテル
 (株)肥後銀行

協力

アルケミズ(女性建築士の会)
 おぐにK-O-N
 小国ドーム
 小国町商工会
 小国町森林組合
 上通商栄会
 上通商栄会青年会
 竜蛇保存会
 (株)熊本県建設業協会八代支部
 (株)熊本県建築士会八代支部
 熊本支部ゲールスカウト八代2期
 熊本信愛女学院高等学校3年美術受講生
 熊本信愛女子高等学校美術部
 熊本大学石原研究室
 熊本大学建築研究室
 熊本大学建築研究室
 熊本大学三井研究室
 グループ「茶」
 熊宮住宅保田第1期地自治会
 建築デザイン会議実行委員会
 国際ソロフナミスト八代
 国立八代高専
 松浜軒
 草月会熊本県支部
 杖立湯神太鼓
 通町商店街振興組合
 二之町振興会
 (株)日本建築学会九州支部
 (株)日本建築学会九州支部熊本支所
 森原町共栄会
 働く婦人の家ギタークラブ
 ヒッコロクチャーナ
 日奈久温泉六郎太鼓保存会
 日奈久観光協会
 日奈久商栄会
 日奈久ちくわ組合
 ホーイスカウト八代3団
 本町1丁目商店街振興組合
 本町2丁目商店街振興組合
 本町3丁目商店街振興組合
 本町4丁目商店街振興組合
 宮之町妙見会
 ミュージックタウン
 八代いしん青年隊
 八代管工事組合
 八代ギターアンサンブル
 八代郡鏡中学校
 八代経済同友会
 八代建設業協同組合
 八代建築技能士組合
 八代建築設計監理協会
 八代広域行政事務組合消防音楽隊
 八代工業高校
 八代高校
 八代山頭火句碑建立期成会
 八代市交通指導員会
 八代市消費拡大推進連絡協議会
 八代市地域婦人会連絡協議会
 八代シティーオーケストラ
 トリングアンサンブル
 八代市プロバングス協同組合
 八代ジャズ体操クラブ
 八代商工会議所
 八代百百合高校
 八代市立博物館未来の森ミュージアム
 八代市料理連合協議会
 (株)八代青年会議所
 八代第一高校
 八代第一中学校
 八代第四中学校
 八代建具組合
 八代地区建築組合
 八代地区生コンクリート協同組合
 八代の環境を考える会(河童共和国・環境フォーラム八代・球磨川さなほり会・グリーンコープ八代・コープ熊本・やつしろう子供劇場)
 八代坂金組合
 八代東高校
 八代美術協会
 八代物産振興協会
 八代文化協議会
 八代南高校
 八代野鳥愛好会
 朝日防火板工業所
 泉洋眼鏡
 エー・ビー・シー開発株式会社
 NTT熊本南部支店
 大谷楽器
 太森ビル
 小国町ゆうステーション
 学生服タケモト
 葉舖司
 植本木材(株)
 KEY&DESIGN ASSOCIATES
 九州電力熊本八代営業所
 (株)九電工八代営業所
 銀装
 熊本上通郵便局
 熊本日日新聞社(株)
 熊本バルコ店
 熊本ファミリー銀行上通支店
 K-PORT
 甲玉堂
 寿屋八代店
 サンリブ八代店
 ジュエリーオオハシ
 ジュン桂屋
 スポーツのハヤカワ
 積水ハウス(株)熊本南営業所
 其田商店
 タケモト洋装店
 藤建吉組
 近田建設(株)
 テルファイ研究所
 同仁堂
 徳永時計宝飾店
 中川電設(株)
 (株)中九州建設
 長崎書店
 ナナパッション
 南栄木材
 西野楽器店
 八工会(電)
 肥後銀行上通支店
 藤浦本店
 ホワイトハレス出雲
 マコト建設(株)
 メガネの太宝堂
 モレナ洋装店
 八代サティ
 八代ロイヤルホテル
 リザ熊本店
 Louis Dor
 YKK AP
 渡辺木工所
 綿万
 厚地宣行
 荒瀬周平
 井川晃亮
 石原信二
 市原 肇
 井上忠久
 いわさきちか
 岩田恒介
 内野博夫
 有働孝昭
 藤 フーコ
 大岩恵治
 大崎恵美
 大島 大司
 大塚 晶子
 蝶坊(熊本舞美)
 梶原幸史
 川口哲哉
 菊本光江
 北里純二
 本村鐘靖
 清原邦彦
 蔵本朝美
 坂崎隆一
 佐々木三多
 土野 精二
 柴田 恒雄
 嶋田 ちはる
 下田真一郎
 鈴川 弘
 砂川真澄
 岸川光行
 高木暢英
 高野智文
 武田光良
 田中明敏
 田中直子
 谷崎敬二
 友村年孝
 友村光利
 永井 明
 中川史野
 中島岩雄
 中島未人
 長島真紀
 中田征治
 成毛佳季
 西田美徳
 野口みさ子
 浜名理香
 森 弘治
 堀田 奎一
 藤本勝巳
 二子石義之
 古澤伸一郎
 前田信明
 松尾亮二
 松川 進
 松本 静彦
 宮崎昭吾
 宮原良高
 森田直美
 森田正孝
 山口輝也
 山下盛雄
 吉沢直美
 吉田耕三

くまもとアートポリス参加プロジェクト

(1993・3・1現在)

プロジェクト名	現況	竣工	事業主体	設 計 者	建 築	電 気	機 械	そ の 他
熊本北警察署	竣 工	9010	県警・ 会計課	篠原 一男 ＋太宏設計事務所	㈱竹中工務店＋㈱増永組 ＋㈱三津野建設	㈱熊栄電設	三祐工業㈱	(空調)九州電気工事㈱ (植栽)㈱はま青樹造園土木
県立美術館分館	竣 工	9210	教育庁・ 文化課	エリアス・トレス＋ホ セ・アントニオ・マルチ ネス・ラベニーニヤ＋大 和設計	㈱浅沼組＋坂口建設㈱	太陽電気㈱、(EV)㈱東芝	(空調)㈱上田商会＋三祐 工業㈱	
熊本市花畑パークトイレ 再存館レディース レジデンス	竣 工 竣 工	8910 9108	熊 本 市 株式会社再 春館製菓所	大塚 豊一 妹島 和世	大見建設㈱ ㈱岩永組	(㈱)野電設	㈱九州環境保全	
県営竜蛇平団地	一部竣工		県・住宅課	元倉 眞琴	㈱中満組、水上建設㈱	不二電気工業㈱、三和電 気土木工業㈱、(㈱)稲田電 気設備	日産設備工業㈱、第一機 工㈱、蘇陽施設産業㈱	(ガス)西部ガス㈱ (植栽)㈱千花園、(㈱)いづの 造園、(㈱)岩下りんどう園
熊本市管託麻団地	一部竣工		熊 本 市	坂本 一成＋長谷川 逸 子＋松永 安光	㈱サンエー建設＋杉山建 設㈱、光進建設㈱＋藤建 設㈱、酒井建設工業㈱、 ㈱木村建設＋㈱サンホー ム、㈱小田建設、㈱神園 建設、㈱富重建設	㈱竹市電興社、山陽電機工 業㈱、(㈱)松本電設社、 岡崎電気工事、(㈱)アト ネオン電飾社、滝川電気 ㈱＋(㈱)浦上電設、㈱佐電 工、㈱沖電気工事、田崎 電気工事、(㈱)福田防災工 業、(㈱)松永電設、西武工 業㈱、春日電気㈱	熊本電機設備㈱、㈱明誠 設備、ダンレイ㈱、(㈱)肥 後設備、九設設備工業 ㈱、第一機工㈱、(㈱)リュ ウ設備工業、(㈱)栄宏設備 工業、三信設備工業㈱、 ㈱西山商会、技研工業㈱	(ガス)西部ガス㈱ (植栽)㈱サングリーン、 (㈱)芝工社造園土木
県営保田窪第一団地	竣 工	9112	県・住宅課	山本 理顕	和久田建設㈱、㈱高橋建 設、㈱三津野建設、(㈱)安田 建設	㈱高浜電工社、春日電気 ㈱、白鷺電気工業㈱	㈱上田商会、熊本電気設備 ㈱ (給水)協電機工㈱	(ガス)西部ガス㈱ (植栽)㈱翠松園
県営曇山A団地 (公開コンベ)	竣 工	9203	県・住宅課	新納至門 登録 272 応募 94	㈱中満組、㈱木村建設	不二電気工業㈱、(㈱)一電業 社	公衆設備工業㈱、技研工業 ㈱、三信機工㈱	(ガス)西部ガス㈱
熊本市上江津湖畔トイレ	竣 工	8905	熊 本 市	日田 兆	(㈱)吉坂建設	中野設備	同 左	
熊本市管新地団地 A	竣 工	9107	熊 本 市	早川 邦彦	㈱増永組＋水上建設㈱＋ ㈱川上建設＋㈱小田建設 ＋(㈱)パチオ＋(㈱)ワグ工 業、九嶺建設㈱	太陽電気㈱＋(㈱)福田防災 工業＋(資)鶴電気設備工 業所、(㈱)熊本電研	たしろ住設工業㈱＋長神 設備㈱＋公衆設備工業㈱ ＋(名)平和衛生工業、(㈱)肥 後設備	(ガス)西部ガス㈱ (外構)㈱平井喜楽園
熊本市管新地団地 B	竣 工	9203	熊 本 市	緒方 理一郎	㈱多々良工務店＋㈱富重 建設＋(資)太平建設、三ツ 矢建設㈱＋(㈱)近田建設＋ ㈱作村技建工業	白鷺電気工業㈱＋(㈱)一電 業社、西日本電工㈱＋旭電 気設備㈱	㈱誠工社＋日栄工業㈱、協 電機工㈱＋(㈱)永田冷機工 業所	(ガス)西部ガス㈱ (植栽)㈱熊本造園
玉名天望館	竣 工	9209	玉 名 市	高崎 正治	岩下建設㈱	東邦電気工業㈱	(衛生)東部設備工業㈱	(さく井)千代田工業㈱
県立芸術古墳館	竣 工	9203	教育庁・ 文化課	安藤 忠雄	西松建設㈱＋(㈱)本山建設 (便所)㈱青木工務店	(EV)フジテック㈱	(空調)たしろ住設工業㈱ (浄化槽)ベスト工業㈱	(植栽)㈱三共緑地建設
草地畜産研究所畜舎	竣 工	9209	県・ 農業研究 機関整備室	トム・ヘネガン＋インガ ・ダグフィンスドッター ＋桜樹会・古川建築事 務所	㈱日勤工務店、㈱川上建 設、㈱橋本建設、藤原建 設㈱	㈱正興電気商会、不二電気 工業㈱	熊本設備㈱、杉谷企工業 ㈱	(浄化槽)ダイキ㈱、神鋼パ ンテック㈱

(1993・3・1現在)

プロジェクト名	現況	竣工	事業主体	設 計 者	建 築	電 気	機 械	そ の 他
花の温泉館	一部竣工		産 山 村	ワークショップ	㈱佐藤工務店		日産設備工業㈱	(浄化槽) ㈱ ダイキ (外構) ㈱ 佐伯造園、 ㈱ 岩下りんどう園
TOTO AQUAPIT ASO (阿蘇山上公共トイレ)	竣 工	9203	東陶機器 株式会社	木島 安史	㈱橋本建設			
清和文楽館	竣 工	9203	清 和 村	石井 和純	㈱日勤工務店	西 邦 電 気 工 事 ㈱、 ㈱ 砥 用 電 設	日産設備工業㈱	(舞台機構) 森平舞台機構
石打ダム管理所	竣 工	9102	県・河川課	青木 茂	マコト建設㈱	㈱高浜電工社	㈱興農社	(浄化槽) 三祐工業㈱
三角港フェリーターミナル	竣 工	9003	県・港湾課	葉 祥榮	㈱岩永組	㈱藤田電設	第一設備工業㈱	
松島町合津終末処理場 外構工事中 管理棟	外構工事中		松 島 町	齋藤 宏	三菱建設㈱+ ㈱吉永産業			(植栽) ㈱舩本工業
八代市立博物館 未来の森ミュージアム	竣 工	9110	八 代 市	伊東 豊雄	㈱竹中工務店+ 和久田建 設㈱+ ㈱米本工務店	白鷺電気工業㈱+ 九州電 設産業㈱	㈱中尾工務店+ ㈱三幸設 備工業	(空調) 新日本空調㈱+ (資) 平野電気設備工業所 (展示) ㈱丹青社
教会の見えるチャペル の鐘展望公園	一部竣工		河 浦 町	梅田 正徳 + スペースデザイン設 計事務所	(展望広場) 大昌建設㈱ (便所) ㈱小山建設	天草設備㈱	㈱脇上設備	(遊歩道) ㈱大宝建設、北野 建設㈱ (ポケットパーク) ㈱竹下組
湯の香橋	竣 工	9105	芦 北 町	岸 和郎	日本ビーエスコンクリート㈱	㈱平田電気工事店		
つなぎ物産ギャラリー	竣 工	9206	津奈木町	北山 孝二郎	㈱高橋建設、 ㈱坂口建設			
県立球磨工業高校 伝統建築実習棟	竣 工	9103	教育庁・ 施設課	象設計集団	㈱若井工務店	人吉電気工事㈱	㈱金剛設備工業	
湯前まんが美術館・ 公民館	竣 工	9211	湯 前 町	桂 英昭	㈱今村建設+ ㈱桑原建設			
加久藤トンネル換気所	竣 工	8908	県・ 道路建設課	小山 明 + パシフィックコンサ ルタンツ	九昭建設㈱	富士電機㈱、人吉電気工 事㈱	㈱三井三池製作所	
熊本市営新地団地 C	工 事 中		熊 本 市	富永 譲	水上建設㈱+ マコト建設㈱ + (資) 井手工務店+ ㈱中 九州建設	東邦電気工業㈱ 西鉄電設工業㈱ (E V) ㈱日立製作所	(給水) 飯塚電機工業㈱ (排水) 三祐工業㈱	(ガス) 西部ガス㈱ (植栽) ㈱野口造園
熊本市営新地団地 D	工 事 中		熊 本 市	西岡 弘	剣建設㈱、 ㈱竹内工務店 + 三幸総業㈱	㈱昭電社、 ㈱熊本電設	蘇陽施設産業㈱、 熊本電 気設備㈱+ 中九州ダイキ ン空調㈱	(ガス) 西部ガス㈱
熊本市営新地団地 E	工 事 中		熊 本 市	上田 憲二郎	㈱勝本工務店+ 南九州建 設㈱	㈱サンテック	協電機工㈱+ 西部電気工 業㈱、長神設備㈱	
県営新渡鹿団地	工 事 中		県・住宅課	小宮山 昭	清水建設㈱+ 先進建設㈱ (集会所) ㈱宇龍工務店	太陽電気㈱ (E V) フジテック㈱	㈱上田商会、 熊本大電設備 ㈱	(ガス) 西部ガス㈱ (植栽) 三陵緑化建設㈱
白川橋景観整備	竣 工	9211	県・ 道路維持課	藤江 和子	武末建設㈱			
枝立橋	設 計 中		小 国 町	新井 清一				
石打ダム資料館	工 事 中		県・河川課	入江 経一	マコト建設㈱	㈱藤田電設 (E V) 三菱電気㈱	天草設備㈱	
站の瀬大橋	設計完了		県・ 農地建設課	大野 美代子 + 中央技術コンサル タンツ				
牛深漁港連絡橋	工 事 中		県・漁港課	レンゾ・ピアノ+ 岡部 恵明+ ビーター・ライ ス+ 前田設計	若築建設㈱+ 大和建設㈱、 五洋建設㈱+ 北時建設㈱、 佐伯建設工業㈱+ 牛深建 設㈱			

(1993・3・1現在)

プロジェクト名	現況	竣工	事業主体	設 計 者	建 築	電 気	機 械	そ の 他
公園ファニチャーデザイン・同整備マニュアル	完 了		県・ 都市計画課	沖健次+東京ランドスケープ研究所				
県道橋景観整備 (基礎調査)	完 了		県・ 道路維持課	倉俣 史朗+高木富士川計画事務所				
大甲橋景観整備	設計完了		県・ 道路維持課	倉俣 史朗				
玉名市文化施設構想	構想完了		玉 名 市	豊田 文生				
光のまちづくり	構想完了		山 鹿 市	岩崎 敬+瀬口 英徳				
大津町第二庁舎・ 町民交流施設	設計完了		大 津 町	鈴木 了二				

くまもとアートポリス実施要綱

人々は基本的な生活資源を概ね手にし、物の豊かさより心の豊かさを求める時代になった。本県では、こうしたなかにあって緑あふれる豊かな自然環境の中で、どこよりも知的興奮が得られ創造的生き方の出来る地域づくりを目指し、「新しい田園文化圏の創造」を大きな目標として掲げて具体的な施策の展開を図っており、そこでは「文化」をベースにした地域の活性化を目ざしている。

その中で、環境デザインの面においても、地方の主体性と創意工夫によって後世に残る文化的資産を創造することが必要であり、その具体的実践として「くまもとアートポリス」を実施するものである。

I. 目 的

環境デザインに対する関心を高め、都市文化並びに建築文化の向上を図ると共に、世界への文化情報発信地としての「熊本」を目指すため、国際的な建築家やデザイナーの才能・アイデアを結集し、後世に残しうる文化的資産を創造していくことを目的とする。

II. 方 法

文化的資産創造のための対象プロジェクトは、建築物はもとより、都市施設などの構造物、都市再開発等の環境整備計画なども含めて県下全

域で実施することとし、県が自ら実施するものだけでなく、市町村及び民間へも広く参加を呼びかけるものとする。

対象プロジェクトの実施においては、世界の環境デザインの指標となるべく、国の内外を問わず国際的な建築家・デザイナー及び前途有為な新進気鋭の建築家等を起用するものとし、その人選に当たっては、くまもとアートポリスコミッショナーとして建築家・磯崎 新氏が推薦を行う。

III. 実施事業

「くまもとアートポリス」の推進に当たっては、国、県、市町村はもとより民間の協力を得ながら次の事業を実施する。

1. 企画・広報活動

(1)企画運営

「くまもとアートポリス」目的達成のための企画運営を行う。

- ①基本方針の確認、検討
- ②環境デザインからのまちづくりの企画、提案
- ③対象プロジェクトの企画、提案
- ④関連するまちづくり計画との連携

(2)広報普及活動

この事業への人々の関心を高め、対象プロジェクトへの積極的参

加を得るため、目的、主旨、活動状況等について広報普及活動を行うと共に海外へ向けてもPR活動を行う。

- ①報道機関等を通じての広報
- ②ポスター、パンフレット、ニュース等の発行
- ③海外向けの紹介誌の発行
- ④シンポジウム等の開催
- ⑤諸団体への協力要請

2. 対象プロジェクトの推進

文化的資産創造の具体的実践として対象プロジェクトを推進する。

(1)対象要件

対象プロジェクトは、単に環境デザインの点的な質の向上を図るだけでなく、その効果が、連なりとしての「線」、広がりとしての「面」へ発展していくことが期待出来るもので、次に掲げる事項に該当するものとする。

- ①まちなみに大きな影響を与えるもの
- ②自然環境に特に配慮が必要なもの
- ③観光、リゾート地域として一体的に整備を図る必要のあるもの
- ④住宅団地等の街区的規模での配慮が必要なもの
- ⑤その他特に配慮を要するもの

(2)基本事項

対象プロジェクトの実施に当たっては、次の事項を基本とする。

- ①設計者の選定方法及び人選については、コミッショナーが提案及び推薦する。
- ②設計料は、昭和54年建設省告示第1206号を準用する。
- ③設計期間は、適正な期間を確保する。
- ④設計監理に当たっては、コミッショナーは必要に応じ指導、助言、調整を行う。
- ⑤対象プロジェクトには、「くまもとアートポリス」の表示を行う。

3. 「くまもとアートポリス'92」の開催

「くまもとアートポリス」の4年間（昭和63年度～平成3年度）の成果を国の内外に発表し、熊本の環境デザインの国際的評価を高めると共に、本事業のより一層の推進を図るため、「くまもとアートポリス'92」を開催する。

(1)開催時期 1992年（平成4年）

(2)会場 県内全域

(3)開催内容 ①見学コースによる建築展

県内全域の対象プロジェクトを結んで見学コースを設定し、オリエンテーリング方式での実際の建物等による建築展を開催する。また、このコースには本県を代表する既存の建物等も含める。

②特設会場での建築展

本事業の推進に当たっての資料、対象プロジェクトの図面、模型等を一堂に展示し、国内外の見学者に供覧する。

③国際シンポジウム

「くまもとアートポリス」の現状と未来等について、対象プロジェクトに携わった国内外の建築家を主体にシンポジウムを開催する。

④関連するイベント

著名な建築家をリーダーとする建築設計セミナー等の関連イベントを開催する。

⑤他事業との連携

「くまもとアートポリス」の目的に沿った自主企画による各種イベント等の関連する他事業との連携を図るものとする。

⑥広報記録

「くまもとアートポリス'92」に関する和英による公式記録を作成し、国の内外へ広報する。

IV. 組 織

事業を円滑に進めるために、コミッショナーの他に、アドバイザー、コミッショナー事務局、県事務局を設けるものとし、アドバイザーは熊本大学工学部教授・堀内清治氏が担当する。

くまもとアートポリス処務要領

(趣旨)

第1条 この要領は、くまもとアートポリスの処務に関し、必要な事項を定め、円滑な推進を図るものとする。

(組織)

第2条 くまもとアートポリスを推進するため次のものを置く。

- (1) くまもとアートポリスコミッショナー(以下「コミッショナー」という。)
- (2) くまもとアートポリスアドバイザー(以下「アドバイザー」という。)

(コミッショナー)

第3条 コミッショナーは建築家 磯崎 新氏とする。

2 コミッショナーは、次に掲げる業務を行う。

- (1) くまもとアートポリスの企画に関すること
- (2) くまもとアートポリスの対象として行う事業(以下「対象プロジェクト」という。)の設計委託方式の提案及び設計者の推薦に関すること。
- (3) 対象プロジェクトの事業主及び設計者に対する調停及び裁定に関すること。

3 コミッショナーは、前項の業務を執行するため、コミッショナー事務局を置く。

(アドバイザー)

第4条 アドバイザーは、熊本工業大学工学部教授 堀内 清治氏とする。

2 アドバイザーは、くまもとアートポリスの推進に当たり、必要な指導、助言を行うものとする。

(くまもとアートポリス推進連絡会議)

第5条 庁内における協議、連絡及び調整を行うため、別表に掲げる関係各課(室)で構成するくまもとアートポリス推進連絡会議を設置する。

(事業主)

第6条 対象プロジェクトの事業主は、くまもとアートポリスの趣旨を尊重し、その実施に当たっては、次の事を行わなければならない。

- (1) 対象プロジェクトが完成するまでの間、毎月一回その進捗状況を知事へ報告すること。
- (2) 対象プロジェクトの完成後は、施設を良好な状態に保つため十分な維持管理に努めること。
- (3) 対象プロジェクトの増築等を行う場合は、コミッショナー

及び増築前の設計者の承認を得ること。

(設計者)

第7条 対象プロジェクト設計者は、くまもとアートポリスの趣旨を尊重し、誠実にその職務を履行しなければならない。

2 設計者は、設計に当たってコミッショナーと協議を行うものとする。

(施工者)

第8条 対象プロジェクトの施工者は、くまもとアートポリスの趣旨を尊重し、誠実に施工しなければならない。

(アートポリス参加の決定及び受理)

第9条 知事は、くまもとアートポリスに参加申し込みがあった場合は、コミッショナー及びアドバイザーと協議のうえ、参加を決定しこれを受理する。

(くまもとアートポリス参加の取り消し)

第10条 知事は、くまもとアートポリスへの参加が決定した場合でも、次に掲げる事項のいずれかに該当する場合は参加を取り消すことができる。

- (1) 事業主又は設計者が、対象プロジェクトへの推進に当たって、くまもとアートポリスの趣旨にふさわしくないとして、コミッショナーから指導を受けたにもかかわらず、その指導に従わなかったとき。
- (2) 事業主が、対象プロジェクトの完成後、無断でその増築等を行ったとき。
- (3) 対象プロジェクト設計者が、著しく設計(監理)委託契約に違反したとき。

2 前項の決定を行うときは、前条の規定を準用する。

(庶務)

第11条 くまもとアートポリスの庶務は、熊本県土木部建築課内のくまもとアートポリス事務局において行う。

(その他)

第12条 この要領に定めるもののほか、くまもとアートポリスの推進に関し必要な事項は、別に定める。

附則

この要領は、昭和63年6月15日から施行する。

附則

この要領は、平成4年5月25日から施行する。

くまもとアートポリス庁内推進連絡会議

部(局)名	課(室)名
総務部	広報課
	国際課
	地方課
企画開発部	政策企画課
	文化企画室
	地域振興課
福祉生活部	社会援護課
衛生部	衛生総務課
環境公害部	環境総務課
商工観光労働部	商工政策課
	観光振興課
農政部	農政課
林務水産部	林政課
土木部	監理課
	用地対策課
	土木技術検査管理室

部(局)名	課(室)名
土木部	景観整備課
	道路建設課
	道路維持課
	河川課
	港湾課
	都市計画課
	下水道課
	建築課
	住宅課
	砂防課
	熊本港建設課
企業局	経営課
警察本部	総務課
教育委員会	総務福利課
	文化課

くまもとアートポリス印刷物一覧

(平成5年3月31日現在)

印刷物名	目的・種類	規格	部数
くまもとアートポリス・ニュース	アートポリスPR小冊子 01~11号	A4判 4号より4色刷	01~11号 各5,000
くまもとアートポリス プロジェクトファイル	各プロジェクトの紹介 26種類	A4判 両面4色刷り	各5,000
くまもとアートポリス PR用パンフレット	アートポリス目的・事業の PRパンフレット	A4判 4色刷り	10,000
くまもとアートポリス 英文パンフレット	くまもとアートポリス 建造物紹介	A4判 4色刷り	500
くまもとアートポリス シンポジウム報告書1988	シンポジウム記録誌	B5判	200

印刷物名	目的・種類	規格	部数
くまもとアートポリス シンポジウム報告書1989	シンポジウム記録誌	B5判	200
くまもとアートポリス シンポジウム報告書1990	シンポジウム記録誌	B5判	200
くまもとアートポリス シンポジウム報告書1991	シンポジウム記録誌	B5判	200
くまもとアートポリス 案内ポスター	イベントPRポスター	B1判 4色刷り	1,000

くまもとアートポリス年表

	項 目	説 明
'87.10	県調査団欧州視察	ベルリン国際建築展(I B A)視察(知事、県住宅課他)
'88.3	63年度予算措置	「まちづくり展」として調査企画予算計上
'88.4	庁内担当組織発足	土木部建築課営繕一係を主に建築課、住宅課で担当
'88.4	システム検討	コミッショナー制、基本システム、ネーミング決定
'88.5	I B A 研修会開催	I B A 東京展オーガナイザー小山明氏が概要説明(県内設計事務所、県・熊本市職員)
'88.5	「くまもとアートポリス」発表	北署、三角フェリーターミナルを同時発表
'88.7	「アートポリス推進準備会」発足	建築関係団体による支援組織設立(建築士会、建築士事務所協会、建築学会九州支部熊本支所、建設業協会、県、熊本市)
'88.9	補正予算措置	本格的運営費計上
'88.10	アートポリスパンフレット発行	B4変形 12頁
'88.10	日本建築学会大会でパンフ配布	於：千葉県習志野市
'88.10	「くまもとアートポリス」実施要綱制定	制度要綱を制定
'88.10	「くまもとアートポリス」推進連絡会議発足	県庁内関係各課による支援組織設立(土木部各課、各部筆頭課等の課長補佐)
'88.11	第1回くまもとアートポリスシンポジウム開催	潤いのあるまちづくりシンポジウム併催、於：県立劇場(磯崎新、堀内清治、篠原一男、山本理顕、葉祥榮、八束はじめ、石島建築課長)
88年末現在 参加プロジェクト数14件		
'89.3	ポスター、参加募集パンフレット発行	ポスター：B1、 募集パンフ：B53つ折6頁、
'89.3	アートポリスニュース創刊	A4 16頁
'89.9	全国自治体政策研究交流会議で展示	於：ニュースカイホテル
'89.10	帯山A団地公開設計競技発表	応募登録 272
'89.10	第2回くまもとアートポリスシンポジウム開催	日本建築学会大会と併催、於：県立劇場(ハンス・ホライン、坂本一成、上田憲二郎、野島建設省住宅建設課課長補佐、八束はじめ、磯田住宅課長)
89年末現在 参加プロジェクト数21件、竣工3件、構想完了1件		
'90.3	帯山A団地公開設計競技結果発表	応募数 94
'90.3	保田窪第一団地見学会	(山本理顕)
'90.4	熊本北警察署見学会	(篠原一男)
'90.5	民間参加第1号発表	再春館製薬所女子寮、東光石油給油所(後日中止)
'90.5	東京J I A 建築展出展	於：新宿エルタワー
'90.6	第3回くまもとアートポリスシンポジウム開催	八代市立博物館現場視察併催、於：八代市厚生会館(伊東豊雄、桂英昭、越沢明、鶴山八代市都市計画課長、八束はじめ)
'90.8	高知・建築・都市展出版	於：高知市郷土文化会館

	項 目	説 明
	90年末現在 参加プロジェクト数37件(総数39件、内2件途中中止)、竣工6件、構想完了3件	
'91.1	S D「くまもとアートポリス特集号」発刊	鹿島出版会刊 S D91年1月号
'91.3	紹介ビデオ作成	25分
'91.6	九州 測量・設計システム展出版	於：九電記念体育館
'91.10	アーバンデザインフェアストリート ギャラリー出展	於：下通り (早川邦彦)
'91.10	熊本市営新地団地A見学会	於：東京(船上)
'91.10	建築デザイン会議で紹介	全国誌、専門誌を対象 バス2台、(磯崎新、堀内清治、伊東豊雄、青木茂、妹島和世、八東はじめ)
'91.10	報道記者会見・見学会	くまもとアートポリス現地視察(新地A・装飾古墳館：有料)、アートポリス展(於：プラザビル)併催、於：八千代座(安藤忠雄、岩崎敬、木村山鹿市社会教育課文化係長)
'91.11	第4回くまもとアートポリスシンポジウム開催	
'91.12	くまもとアートポリス選定既存建造物決定	
'91.12	くまもとアートポリス'92実行委員会発足	
	91年末現在 参加プロジェクト数43件(総数45件、内2件途中中止)、竣工12件、構想等完了6件	
'92.1	伊東豊雄氏 第33回毎日芸術賞受賞	対象：八代市立博物館 未来の森ミュージアム設計
'92.3	くまもとアートポリス'92実行委員会事務所開設	竹野ビル2F
'92.4	報道記者会見・見学会	全国誌、専門誌を対象バス2台、(堀内清治、安藤忠雄、石井和紘、高崎正治、新納至門、八東はじめ)
'92.4	県立装飾古墳館見学会	(安藤忠雄)
'92.4	くまもとアートポリス'92デザインコンペ発表	都市に浮かぶベンチ、田園に佇むキオスク
'92.6	建築会館 くまもとアートポリス展	東京 田町
'92.6	札幌 くまもとアートポリス展	於：丸井今井デパート
'92.7	銀座熊本館 くまもとアートポリス展	東京 銀座
'92.8	くまもとアートポリス'92イベント始まる	
'92.8	八代まちなみ展開催	
'92.9	建築協会 くまもとアートポリス展	於：大阪駅前第三ビル
'92.10	報道記者見学会	全国誌、一般誌を対象 バス1台
'92.11	妹島和世氏新日本建築家協会新人賞受賞	対象：再春館レディースレジデンス
'92.11	くまもとアートポリス'92開催	
	92年末現在 参加プロジェクト数42件(総数45件、内3件途中中止)、竣工28件、構想等完了6件	

新聞記事ヘッドライン

◆1988年

- 5/21 熊本日日 67年に建築デザイン博 県、芸術漂う施設を増やす
 " 毎日 くまもとアートポリス'92
 " 日本経済 国際建築博'92年に開催 公共施設の設計有名プロに依頼 民間にも呼びかけ
 " 西日本 熊本でアートポリス 67年に建築、環境デザイン博覧会、県全域で建築や橋“競作”
 " 読賣 熊本で建築・環境デザイン博 '92年公共施設に第一人者起用
 " 朝日 県民の建築感覚磨け 熊本県が「アートポリス博」 今後の設計は有名建築家・コンペ方式に県内の公共施設が対象
- 5/27 西日本建設 67年に国際建築博開催 熊本県が著名な建築家の作品揃えて
- 6/7 産経 世界の建築家が競作 熊本県でアートポリス計画が始動
- 11/2 毎日 くまもとまちづくりシンポ 斬新な建物一つずつ増やそう アートポリス 地元対応の重要性提起
 " 読賣 建築家の3氏が講演 くまもとアートポリスシンポ
 " 西日本 文化の薫り漂う個性的な街とは…まちづくりシンポ開く 磯崎氏ら建築家まじえ
 " 朝日 アートポリスで建築家がシンポ
 " 熊本日日 未来の街づくり論議「国際建築展」「潤いある街」活性化にシンポ
- 11/4 熊本日日 くまもとアートポリスシンポ「報告」「新都市構想」で論議、著名建築家が主導「無国籍社会」の指摘も

◆1989年

- 11/28 建設通信 建築はアートである ハンス・ホライン氏が記念講演

◆1990年

- 6/28 熊本日日 都市にデザインを くまもとアートポリスシンポ 八代市
 " 西日本 アートポリスを論議 八代市でシンポ
- 12/3 西日本 アートポリスの矛盾（くまもと春秋：熊本総局長山本巖）
- 12/29 熊本日日 熊本文化界この一年'90 居住性と理念対立 アートポリス構想

◆1991年

- 4/9 建設通信 熊本アートポリス見聞録（建設評論：コラム記事）
- 7/7 日本経済 広がる「くまもとアートポリス」効果 “点から面”へ展開 競うアイデア、11件完成 変身する商店街 地場の活性化にも弾み 都市をつくる（上）「くまもとアートポリス」の試み 世界の一線建築家集め 全県に“文化資産”展開
 (同中)「干渉せず」の発想転換 共同空間持つ集合住宅 (同下)住み方提案する設計者 建築の「通念」ゆさぶる
 建築が地域環境を左右 欠かせぬ住民の熱意 (委細面談：堀内清治)
- 7/16 読賣 県のアートポリス構想「2期以降 見直す」
 ~18 知事、建築家選定で示唆
 「再検討したい」と知事 賛否のアートポリス構想
- 7/28 熊本日日 アートポリス二次計画協議 建築家磯崎氏と知事
 知事と磯崎氏が初顔合わせ くまもとアートポリス事業
 「機能も大事」で一致 知事と磯崎新氏がアートポリス対談
- 10/26 熊本日日 九州は最先端の“見本市会場”美術館から住宅まで大胆な作品が続々誕生
 21世紀への郷土づくりを 八千代座でアートポリスシンポ
 " 朝日 アートポリスシンポに700人 安藤さんが特別講演
 " 読賣 環境を刺激する建築を アートポリス・シンポ 安藤忠雄氏が講演 山鹿市
 " 毎日 進む「くまもとアートポリス」デザイン、アイデア豊かに 魅力的な都市や建物で
 " 西日本 公共建築の冒険 姿現す「くまもとアートポリス」 集合住宅に大胆 な提案 転機のアトリエ派に刺激
- 10/31 産経 着々進む熊本アートポリス 競い合う第一線建築家
- 11/2 熊本日日 くまもとアートポリス構想 公共施設を文化的資産に 民間巻き込み町づくり（共同通信／この他全国各紙で）
- 11/6 長崎 日本のアートポリス 街造り 文化に「異質」は重要 気になる外観の優先
- 11/11 日本経済 くまもとアートポリス'92 来年11月、1ヵ月間 きょう実行委員会設立
- 11/15 毎日
- 11/22 四国
- 12/8 朝日
- 12/19 西日本

12/19 毎日	来年11月 くまもとアートポリス'92 県内一円作品見学会やシンポ		ス計画 強烈な外からの刺激 地元建築界も発想の転換
12/20 熊本日日	来年秋のくまもとアートポリス'92 建築の文化幅広く討議 1ヵ月間…見学会やシンポなど 官民含め多彩な行事 実行委 設立会	10/20 熊本日日	くまもと国際建築展アートポリス'92 来月5日から開催“造り手”と“住み手”の視点ーシンポと討論会で検証 住まい方の創造を提案 工期の制約には批判も
” 西日本建設	くまもとアートポリス'92 実行委員会を設立 来年11月に第一回国際建築展	10/25 読賣	アートポリス事業4年 成果と今後占う「国際建築展」来月、熊本市を中心に開催 サミット、見学会も
” 読賣	くまもとアートポリス展 県が来年11月に開催	10/26 日本経済	公共建築の“冒険”街に刺激 議論生む 検証 くまもとアートポリス 団地・博物館など20数件 地元商店街も除々に変身 常識破る提案続々 岡山など他県にも広がる 10%増の予算・短い工期 地元から不満の声も
” 朝日	成果の発表に建築展を開催 アートポリス事業	” 西日本	姿が見えてきた熊本の建築文化 くまもとアートポリス'92 11月開催 地域に歴史を刻みはじめた建築物群
” 日本経済	アートポリス実行委を設立 熊本県		「アートポリス'92」来月1日に幕開け 斬新なデザイン 機能面に批判 話題が満載の建築展 新しい景観、苦情が続出見直し論議
” 西日本	アートポリス実行委員会設立総会開く		くまもとアートポリス'92 いよいよ開幕「都市にデザインを 田園にアイデアを」4年間の成果をみなさまにご覧いただくときがきました
12/26 熊本日日	アートポリス疑問と期待 足りない瀬計理念説明 「用と美」の調和 求めよ		国際建築展 アートポリス92開幕 「熊本まちなみ展」皮切りに 建築展“アートポリス'92”開幕
◆1992年			
1/7 朝日	有名建築家が“客演” 東京にない強みを發揮（九州経済 自立できるか）	10/27 朝日	「アートポリス展覧会」開幕 プロジェクトの全容紹介
1/9 産経	これが未来の住空間 生活形態の変化に対応する（建築）	10/31 熊本日日	都市づくり一堂に「アートポリス展」始まる 熊本市
4/10 読賣	主行事11月5～30日 アートポリス'92 40万～50万人 人出を期待		アートポリス'92展開催 県内重要建造物も一日で 県立美術館分館
” 朝日	建築展開催概要決まる 11月5日から開催	11/2 朝日	アートポリス'92都市デザインサミット開幕 「公共的なものこそ推進を」磯崎氏
” 毎日	くまもとアートポリス'92 期間は11月5日～30日 実行委理事会	” 毎日	アートポリス'92都市デザインサミット開幕 建築家磯崎氏 構想の継続を望む
7/4 建設通信	くまもとアートポリス展 パネルなどを展示 きょう開幕（東京展）	11/5 西日本	アートポリスの全容紹介 模型、設計図など展示 県立美術館分館で30日まで
8/3 西日本	イベント、祭り大にぎわい 創作活動楽しむ 熊本市の工作広場	” 熊本日日	都市デザインサミット開幕 県立劇場で国際建築展 国内外から代表が参加 磯崎コミッショナー「アートポリス、民間にも」
8/6 熊本日日	若者の街 デザイン 楽しく学ぼう…夏休み八代工高 絵画パネル制作に挑戦（八代まちなみ展）	” 毎日	アートポリスを探る 都市デザインサミット開幕 熊本市
8/16 熊本日日	あすから八代まちなみ展 市民の手作りで	11/6 毎日	アートポリスのつくり手大集合、施工者シンポジウム 肥後の匠 本音を語る 建築はドラマチック、設備シンポジウム、デザインより機能優先、構造シンポジウム「見せる構造」への挑戦
8/18 西日本	八代まちなみ展始まる	” 朝日	
9/10 産経	くまもとアートポリス大阪展	” 読賣	
10/2 熊本日日	県営保田窪第一団地 4日、住民の祭り アートポリス 設計者交え討論も	” ”	
10/4 熊本日日	アートポリス'92 施工責任者ら“本音”で討論	” 熊本日日	
10/5 熊本日日	アートポリス団地祭り	” 西日本建設	
” 西日本	「住民で快適空間つくろう」「県営保田窪第一団地で住民祭」アートポリスの住みよき探る 夕方までお祭り一色		
10/11 熊本日日	くまもとアートポリス「発見」クイズ 行って、見て、応募しよう		
10/14 信濃毎日	くまもとアートポリスの試み 磯崎新 公共住宅に独自の型 持続的につくる都市文化		
10/19 西日本	着々…新しい環境創造 再検証・アートポリ		

11/7	西日本	点から面に広げる努力を 建築家の磯崎新氏 アートポリス構想で強調 都市デザインサ ミット	12/1	熊本日日	が期待される アートポリス継続に意欲 知事、事業成果を 評価「新たな出発点に」締めくくりでフォー ラム
11/8	熊本日日	都市デザインサミット 総括講演で閉幕			
11/10	熊本日日	「小国まちなみ展」始まる		読賣	アートポリス'92 13万人動員し閉幕 知事、 第2期へ意欲示す
	西日本	「小国まちなみ展」始まる 建築物の写真な ど展示		毎日	国際建築展「くまもとアートポリス'92」 フォーラム最後に閉幕 街づくりへの貢献大 きく
	読賣	小国まちなみ展開幕 デザインコンペ優秀作 も展示	12/4	西日本建設	アートポリス'92閉幕 各種催しに13万人が 参加・見学 知事が第2期 計画推進に意欲
	日本経済	都市デザインサミットを終えて 首長指導、 街並み変革 建築家に任せ个性的に	12/8	南日本	アートポリス 建築家の主観鮮明 賛否両論 で新しい文化（街を改造する6）
11/11	熊本日日	九州インテリアデザイン・イン・くまもと アートポリス	12/10	読賣	くまもとアートポリス 第一期の総括と展望 公共住宅に新方向性 行政と市民 共同作業 の位置づけを（文化：桂英昭）
	建設通信	磯崎氏 あと8年は継続必要 くまもとアー トポリス博で会見	12/12	毎日	アートポリス 賛否の中、二期へつなぐ（'92 ワイドせんばやま）
11/12	毎日	アートポリスへ変身中（旅 熊本）	12/15	熊本日日	アートポリスを採点すると 磯崎新 集合住 宅の新デザインに成果 第1期は合格点すれ すれ
11/13	毎日	トウキョウ・アーバナート・コンペティショ ン優秀作家展 熊本市で15日まで	12/20	熊本日日	アートポリス 壮大な実験まずは合格 機能 性の面では課題も（くまもと・この1年）
11/14	朝日	くまもとアートポリスが第一期終了 都市デ ザインに一石 シンポ参加者 事業継続を 提言	12/23	西日本	今年を振り返る アートポリス 第2期を続 行へ 建築物へ新しい価値観
	電通報	熊本県で「アートポリス'92」都市デザイン サミット開く 感動呼ぶ「まちづくり」運 動	12/24	産経	個性と自然がとけあう空間 水、光、風…ざ ん新さに地球へのやさしさも （建築'92回顧：淡沢和彦）
11/17	熊本日日	建築と生活、地域を語る “世界一のこたつ” の中で小国町	◆1993年		
	読賣	くまもとアートポリス'92見学会に参加して 環境に優しく新鮮スペース「点」から「面」 への広がり期待	1/1	読賣	アートポリスさあ仕上げ 28事業すでに完成
	建設通信	新しい公共建築のメッセージ くまもとアー トポリスの建築群 壮大な実験 刺激と楽し さ 画一でなく	1/15	毎日	トラブル再発防止のため「調整システム」提 案 くまもとアートポリス懇談会
11/21	熊本日日	景観フォーラム in 人吉	1/23	読賣	アートポリス 一期事業に高い評価 懇談会 が意見交換「工期急ぐな」注文も
11/22	日本経済	地域に建築論争の輪（個性：建築家 桂英昭）	2/14	日本経済	公共建築、夢こそ土台 失敗恐れず実験続け よう（視点／熊本支局長松本克夫）
	朝日	湯前まんが美術館 きょう開館、フェスタも			
11/23	西日本	国際漫画・食フェスタ開幕 故那須氏記念の 美術館オープン 湯前 家族連れでにぎわう			
	熊本日日	「まんが美術館」落成 那須作品展示室も開 放 湯前町			
11/24	西日本	くまもとアートポリスの挑戦（社説）			
11/28	熊本日日	アートポリス・フォーラム			
	朝日	アートポリス・フォーラム			
	毎日	「地方」というパトロン 熊本アートポリス とは何か（土井義岳）			
	西日本	文化にシフトする町づくりに軸 くまもと アートポリス'92の問いかけ 文化創造に 役立つ建築 課題は“点から線、面への広が り”			
	リビング福岡	熊本県アートポリス構想に“住文化”の将来			

雑誌掲載リスト

掲載年月日	掲載誌	記事の内容・紹介された建造物
1988 7 1	新建築	アートボリス事業
1988 8 31	建築士くまもと	くまもとアートボリス92
1988 10 1	建築文化	熊本北警察署
1988 12 1	九州技報	アートボリス事業 熊本北警察署 県営保田窪第一団地 三角港フェリーターミナル
1989 1 1	ハウジング情報	熊本北警察署 県営保田窪第一団地
1989 1 1	J I A NEWS	アートボリス事業
1989 3 1	建築知識	アートボリス事業 熊本市営新地団地
1989 4 17	日経アーキテクチュア	アートボリス事業
1989 7 1	財界九州	アートボリス事業
1989 8 1	都・市・み・ら・い	アートボリス事業 熊本北警察署
1989 8 4	ぴあ	熊本北警察署 熊本市上江津湖畔パークトイル
1989 10 1	建築文化	熊本市営新地団地
1989 11 1	新建築	八代市立博物館・未来の森ミュージアム
1990 1 1	自民党熊本県連だより	アートボリス事業
1990 2 4	日経アーキテクチュア増刊号	八代市立博物館・未来の森ミュージアム 県立球磨工業高校伝統建築実習棟 再春館レディースレジデンス
1990 2 5	日経アーキテクチュア	アートボリス事業
1990 2 14	ACTIVE	アートボリス事業
1990 2 19	日経アーキテクチュア	熊本北警察署 県営保田窪第一団地 加久藤トンネル換気所 三角港フェリーターミナル 八代市立博物館・未来の森ミュージアム 熊本市花畑パークトイル 熊本市上江津湖畔トイル 熊本市営新地団地
1990 3 1	くまもと新報	湯前まんが美術館・公民館
1990 4 1	電通報	三角港フェリーターミナル
1990 4 1	L A インターナショナル	熊本北警察署 熊本市上江津湖畔トイル
1990 4 1	月刊現代	熊本北警察署 三角港フェリーターミナル 熊本市上江津湖畔トイル
1990 4 5	週刊新潮	三角港フェリーターミナル
1990 4 23	日経ビジネス	三角港フェリーターミナル
1990 5 1	新建築	熊本北警察署 熊本市営新地団地
1990 5 1	建築文化	県営保田窪第一団地
1990 5 1	日経トレンディ	アートボリス事業 熊本北警察署 県営保田窪第一団地 三角港フェリーターミナル 八代市立博物館・未来の森ミュージアム 熊本市花畑パークトイル 熊本市上江津湖畔トイル
1990 5 1	ハウジング情報	アートボリス事業 熊本北警察署 県営保田窪第一団地 三角港フェリーターミナル
1990 6 1	ハウジング情報	熊本北警察署
1990 6 1	新建築	三角港フェリーターミナル
1990 6 1	建築文化	三角港フェリーターミナル
1990 6 15	FOCUS	県営保田窪第一団地
1990 7 1	ハウジング情報	八代市立博物館・未来の森ミュージアム
1990 7 9	日経アーキテクチュア	三角港フェリーターミナル
1990 7 10	AERA	アートボリス事業
1990 8 1	ハウジング情報	石打ダム管理所
1990 8 1	建築文化	アートボリスシンポジウム(90) 八代市立博物館・未来の森ミュージアム
1990 8 1	タウンくまもと	熊本北警察署 県営保田窪第一団地 熊本市花畑パークトイル 熊本市上江津湖畔トイル
1990 8 20	日経アーキテクチュア	県営保田窪第一団地
1990 8 31	朝日ジャーナル	県営保田窪第一団地
1990 9 1	ハウジング情報	三角港フェリーターミナル
1990 9 1	くまもと経済	アートボリス事業 熊本北警察署 熊本市花畑パークトイル
1990 10 1	ハウジング情報	県立芸術古墳館
1990 10 1	日経イメージ気象観測	アートボリス事業 県営保田窪第一団地
1990 10 1	国つくりと研修	県営保田窪第一団地 三角港フェリーターミナル 熊本市花畑パークトイル 熊本市上江津湖畔トイル 熊本市営新地団地
1990 10 1	TELESCOPE 5号(秋)	アートボリス事業 三角港フェリーターミナル
1990 10 1	S D	熊本市営新地団地C
1990 11 1	室内	熊本市営新地団地 熊本市営託麻団地
1990 11 1	建築文化	熊本北警察署 八代市立博物館・未来の森ミュージアム 牛深漁港連絡橋

1990 11 11	くまもと文化	アートボリス事業
1990 11 23	日経コンストラクション	加久藤トンネル換気所 牛深漁港連絡橋
1990 12 1	九州技報	アートボリス事業 牛深漁港連絡橋
1990 12 1	月刊測量	熊本北警察署 県営保田窪第一団地 加久藤トンネル換気所 三角港フェリーターミナル 熊本市花畑パークトイル 熊本市上江津湖畔トイル
1990 12 1	The Card	三角港フェリーターミナル 八代市立博物館・未来の森ミュージアム 熊本市営新地団地
1990 12 1	土木学会誌	アートボリス事業 三角港フェリーターミナル
1990 12 24	日経アーキテクチュア	熊本北警察署
1991 1 1	新建築	熊本北警察署
1991 1 1	建築雑誌	熊本北警察署
1991 1 1	L'ARCA	三角港フェリーターミナル
1991 1 1	ジャパングラフィック	熊本北警察署 三角港フェリーターミナル
1991 1 1	S D	熊本北警察署 県営保田窪第一団地 加久藤トンネル換気所 三角港フェリーターミナル 八代市立博物館・未来の森ミュージアム 熊本市花畑パークトイル 熊本市上江津湖畔トイル 熊本市営新地団地 県道橋景観整備 熊本市営託麻団地 光のまちづくり 牛深漁港連絡橋 県営常山A団地 湯の香橋 清和文楽館 県立芸術古墳館 県立球磨工業高校伝統建築実習棟 鮎の瀬大橋 松島町合津終末処理場管理棟 石打ダム管理所 県営新渡鹿団地 大津町第二庁舎・市民交流施設 五名天聖館 大甲橋景観整備 草地畜産研究所畜舎 再春館レディースレジデンス 県立美術館分館 湯前まんが美術館・公民館
1991 1 1	建築文化	熊本北警察署
1991 1 1	コンクリート工学	アートボリス事業 くまもとアートボリス92 熊本北警察署 県営保田窪第一団地 三角港フェリーターミナル 八代市立博物館・未来の森ミュージアム
1991 1 1	TOYO ITO	八代市立博物館・未来の森ミュージアム
1991 1 18	FOCUS	熊本北警察署
1991 2 1	C I マンスリー	熊本北警察署 県営保田窪第一団地 三角港フェリーターミナル 熊本市上江津湖畔トイル
1991 2 1	建築文化	県営保田窪第一団地
1991 2 1	新建築	熊本北警察署
1991 2 5	伊東豊雄 流れの中の建築	八代市立博物館・未来の森ミュージアム
1991 2 5	ジャパントナイズ	熊本北警察署 県営保田窪第一団地 三角港フェリーターミナル 八代市立博物館・未来の森ミュージアム 熊本市花畑パークトイル
1991 3 1	建築雑誌	県営保田窪第一団地
1991 4 1	新建築	県立芸術古墳館
1991 4 1	日経イメージ気象観測	アートボリス事業 熊本北警察署 県営保田窪第一団地 加久藤トンネル換気所 三角港フェリーターミナル 八代市立博物館・未来の森ミュージアム 熊本市花畑パークトイル 熊本市上江津湖畔トイル 石打ダム管理所
1991 5 1	ジョイフルライフ	熊本北警察署 県営保田窪第一団地 三角港フェリーターミナル 熊本市上江津湖畔トイル 再春館レディースレジデンス 三角港フェリーターミナル 三角港フェリーターミナル
1991 5 1	建築文化	アートボリス事業 県営保田窪第一団地 三角港フェリーターミナル
1991 5 1	建築雑誌	三角港フェリーターミナル
1991 5 2	B e i n g	アートボリス事業 県営保田窪第一団地 三角港フェリーターミナル 熊本市花畑パークトイル
1991 5 16	週刊文春	熊本北警察署
1991 6 1	日経トレンディ	アートボリス事業 県営保田窪第一団地 熊本市営新地団地
1991 6 1	建設人	アートボリス事業 熊本北警察署 県営保田窪第一団地 三角港フェリーターミナル 八代市立博物館・未来の森ミュージアム 熊本市花畑パークトイル 熊本市上江津湖畔トイル 熊本市営新地団地A 石打ダム管理所
1991 7 1	室内	熊本北警察署 県営保田窪第一団地 加久藤トンネル換気所 三角港フェリーターミナル 八代市立博物館・未来の森ミュージアム 熊本市花畑パークトイル 熊本市上江津湖畔トイル 熊本市営新地団地A 石打ダム管理所

掲載 年月日	掲載誌	記事の内容・紹介された建造物
1991 7 1	PROGRESSIVE ARCHITECTURE	アートボリス事業 八代市立博物館・未来の森ミュージアム
1991 7 25	週刊新潮	県営保田第1団地
1991 8 1	住宅情報	アートボリス事業 三角港フェリーターミナル
1991 8 1	AXIS 夏号	アートボリス事業 熊本北警察署 県営保田第1団地 加久藤トンネル換気所 三角港フェリーターミナル 八代市立博物館・未来の森ミュージアム 湯の香橋 再春館レディースレジデンス 化の温泉館
1991 8 1	室内	県営保田第1団地
1991 8 1	WINDS	八代市立博物館・未来の森ミュージアム
1991 8 1	せきさん	アートボリス事業
1991 8 5	日経アーキテクチュア	県立球磨工業高校伝統建築実習棟
1991 8 19	日経アーキテクチュア	熊本市営新地団地
1991 9 1	主婦の友	県営保田第1団地 熊本市営新地団地A
1991 9 1	建築文化	アートボリスシンポジウム(91) 熊本市営新地団地A
1991 9 1	室内	アートボリスシンポジウム(91)
1991 9 1	新建築	アートボリスシンポジウム(91) 熊本市営新地団地A
1991 9 1	住宅情報	県営保田第1団地 熊本市営新地団地 熊本市営託産団地
1991 9 1	Higo Bank Annual Report	熊本北警察署
1991 9 16	日経アーキテクチュア	牛深漁港連絡橋 草地畜産研究所畜舎
1991 9 25	DKMマナメント	アートボリス事業 熊本北警察署 県営保田第1団地 三角港フェリーターミナル
1991 9 30	日経アーキテクチュア	再春館レディースレジデンス
1991 10	JA 01 (秋号)	県営保田第1団地 熊本市営新地団地 熊本市営新地団地A 熊本市営託産団地 再春館レディースレジデンス
1991 10 1	建築文化	アートボリス事業
1991 10 1	Glass and Architecture	県営保田第1団地 再春館レディースレジデンス
1991 10 1	リビングナウ	県営保田第1団地
1991 10 1	新建築	八代市立博物館・未来の森ミュージアム 再春館レディースレジデンス 湯の香橋
1991 10 1	財界九州	アートボリスシンポジウム(91) 再春館レディースレジデンス
1991 10 1	建築と社会	熊本北警察署 県営保田第1団地 八代市立博物館・未来の森ミュージアム 熊本市営新地団地A
1991 10 1	建築年報	アートボリス事業
1991 10 11	日経アーキテクチュア	清和文楽館
1991 10 28	日経アーキテクチュア	八代市立博物館・未来の森ミュージアム
1991 11 1	新建築	八代市立博物館・未来の森ミュージアム
1991 11 1	建築文化	再春館レディースレジデンス
1991 11 1	フレジデント	アートボリス事業 熊本北警察署 湯の香橋 再春館レディースレジデンス
1991 11 1	MARCO POLO	熊本北警察署
1991 11 1	建設月報	アートボリス事業 八代市立博物館・未来の森ミュージアム
1991 11 12	文化ジャーナル鹿児島	玉名天望館
1991 12 1	くまもと経済	アートボリス報道関係者見学会 熊本北警察署 県営保田第1団地 三角港フェリーターミナル 八代市立博物館・未来の森ミュージアム 熊本市花畑パークトレ 熊本市営新地団地A 湯の香橋 石打ダム管理所 再春館レディースレジデンス 八代市立博物館・未来の森ミュージアム 県営保田第1団地
1991 12 1	建築文化	アートボリス事業 熊本北警察署 県営保田第1団地 加久藤トンネル換気所 三角港フェリーターミナル 八代市立博物館・未来の森ミュージアム 熊本市営新地団地A 湯の香橋
1991 12 1	MARCO POLO	県営保田第1団地
1991 12 1	F P	アートボリス事業 熊本北警察署 県営保田第1団地 加久藤トンネル換気所 三角港フェリーターミナル 八代市立博物館・未来の森ミュージアム 熊本市営新地団地A 湯の香橋
1991 12 1	建築士	八代市立博物館・未来の森ミュージアム
1991 12 15	BRUTUS	熊本北警察署 県営保田第1団地 三角港フェリーターミナル 八代市立博物館・未来の森ミュージアム 熊本市営新地団地A 湯の香橋 再春館レディースレジデンス
1991 12 19	デュエダ 九州版	アートボリス事業 熊本市上江津湖畔トイレ 再春館レディースレジデンス
1991 12 20	商業施設	湯の香橋
1991 12 21	週刊時事	アートボリスシンポジウム(91) 熊本北警察署 県営保田第1団地 三角港フェリーターミナル 八代市立博物館・未来の森ミュージアム 熊本市営新地団地A 湯の香橋 県立球磨工業高校伝統建築実習棟 再春館レディースレジデンス
1992 1	JA 05 (冬号)	熊本北警察署 八代市立博物館・未来の森ミュージアム 再春館レディースレジデンス
1992 1 1	ベストナウ	アートボリス事業 熊本北警察署 県営保田第1

掲載 年月日	掲載誌	記事の内容・紹介された建造物
1992 1 1	AXIS 冬号	一団地 三角港フェリーターミナル 八代市立博物館・未来の森ミュージアム 熊本市上江津湖畔トイレ 再春館レディースレジデンス
1992 1 1	住宅情報・九州版	アートボリス事業 アートボリスシンポジウム(91) 熊本北警察署 熊本市営新地団地A 県立芸術古墳館 再春館レディースレジデンス
1992 1 1	ハティオ	くまもとアートボリス92 県営保田第1団地 八代市立博物館・未来の森ミュージアム アートボリス事業 熊本北警察署 県営保田第1団地 三角港フェリーターミナル 八代市立博物館・未来の森ミュージアム 熊本市営新地団地A 県立芸術古墳館 石打ダム管理所 再春館レディースレジデンス
1992 1 1	TOSTEM VIEW	熊本市営新地団地A
1992 2 1	ふたりの部屋プラスワン	再春館レディースレジデンス
1992 2 1	デザインの現場	八代市立博物館・未来の森ミュージアム
1992 2 1	Glass and Architecture	草地畜産研究所畜舎
1992 2 1	建築と社会	八代市立博物館・未来の森ミュージアム
1992 2 1	建築文化	八代市立博物館・未来の森ミュージアム
1992 2 3	日経アーキテクチュア	八代市立博物館・未来の森ミュージアム
1992 2 19	住宅情報	県営保田第1団地
1992 2 28	日経コンストラクション	湯の香橋
1992 3 1	土木学会誌	アートボリス事業 くまもとアートボリス92 加久藤トンネル換気所 県道橋景観整備(基礎調査) 牛深漁港連絡橋 湯の香橋 鮎の瀬大橋 公園ファニチャーデザイン・同整備マニュアル(策定) 石打ダム管理所 大甲橋景観整備 教会の見えるチャペルの錦展望公園 旧川崎景観整備 柱立橋
1992 3 1	地方共済 152号	三角港フェリーターミナル
1992 3 1	GAINER	熊本北警察署 三角港フェリーターミナル
1992 3 1	建築文化	八代市立博物館・未来の森ミュージアム
1992 3 1	少年キャプテン	県営保田第1団地
1992 3 11	週刊賃貸住宅ニュース 福岡版	アートボリス事業 熊本北警察署 県営保田第1団地 加久藤トンネル換気所 三角港フェリーターミナル 八代市立博物館・未来の森ミュージアム 熊本市上江津湖畔トイレ 熊本市営新地団地A 石打ダム管理所 再春館レディースレジデンス
1992 3 15	構造デザイン	アートボリス事業 八代市立博物館・未来の森ミュージアム 牛深漁港連絡橋
1992 3 19	サライ	石打ダム管理所
1992 4 1	財界九州	くまもとアートボリス92 清和文楽館
1992 4 1	太陽	アートボリス事業 熊本北警察署 県営保田第1団地 三角港フェリーターミナル 熊本市営新地団地A 清和文楽館 県立球磨工業高校伝統建築実習棟
1992 4 1	会社研究	アートボリス事業 熊本北警察署 県営保田第1団地 三角港フェリーターミナル 八代市立博物館・未来の森ミュージアム
1992 4 15	INAX REPORT	牛深漁港連絡橋 鮎の瀬大橋
1992 4 20	FUKUOKA STYLE	県営保田第1団地 熊本市営新地団地A
1992 4 27	日経アーキテクチュア	再春館レディースレジデンス
1992 5 1	ハウジング情報	県立芸術古墳館 玉名天望館
1992 5 1	室内	アートボリスデザインコンペティション
1992 5 1	建築文化	アートボリスデザインコンペティション募集 熊本市営新地団地A 再春館レディースレジデンス
1992 5 1	性能保証だより	アートボリス事業 熊本北警察署 県営保田第1団地 三角港フェリーターミナル 八代市立博物館・未来の森ミュージアム
1992 5 1	宮路ニュース	松島町合津終末処理場管理棟
1992 5 15	コンペ&コンテスト	くまもとアートボリス92デザインコンペティション
1992 5 16	週刊文春	熊本北警察署
1992 5 25	日経アーキテクチュア	アートボリス事業
1992 6 1	建築文化	県営保田第1団地 熊本市営新地団地A 熊本市営新地団地B 県営常山A団地 清和文楽館
1992 6 1	ハウジング情報	清和文楽館
1992 6 1	室内	アートボリス報道関係者見学会(第2回) 熊本市営新地団地B 県営常山A団地 清和文楽館 県立芸術古墳館 TOTO AQUAPITASO
1992 6 1	新建築	アートボリスデザインコンペティション 県営保田第1団地 熊本市営新地団地B 県営常山A団地 清和文楽館
1992 6 1	DANCE MAGAZINE	八代市立博物館・未来の森ミュージアム
1992 6 8	日経アーキテクチュア	清和文楽館

掲 載 年 月 日	掲 載 誌	記事の内容・紹介された建造物
1992 6 15	日経アーキテクチャ 増刊号	熊本市営新地団地
1992 6 22	日経アーキテクチャ	アートボリスパネル展(東京)
1992 7 1	建築文化	アートボリスパネル展(東京) 熊本市営新地団地A 熊本市営託麻団地
1992 7 1	新建築	県営保田窪第一団地 熊本市営新地団地B 県営常山A団地 清和文楽館 再春館レディースレジデンス
1992 7 1	S D	くまもとアートボリス92デザインコンペティション
1992 7 1	室内	アートボリス92八代まちなみ展 アートボリスパネル展(東京)
1992 7 1	F N S九州	アートボリス事業 熊本市警察署 県営保田窪第一団地 三角港フェリーターミナル 八代市立博物館・未来の森ミュージアム 熊本市上江津湖畔トイレ 熊本市営新地団地A 熊本市営新地団地B 県営常山A団地 湯の香橋 清和文楽館 県立球磨工業高校伝統建築実習棟 玉名天望館
1992 7 1	a t	アートボリスデザインコンペティション
1992 7 1	T I L I N G	T O T O A Q U A P I T A S O
1992 7 6	日経アーキテクチャ	アートボリス事業
1992 7 20	日経アーキテクチャ	アートボリス事業
1992 8 1	建築文化	アートボリス夏休みツアー
1992 8 1	ハウジング情報	八代市立博物館・未来の森ミュージアム
1992 8 1	TELESCOPE	アートボリス事業 熊本市警察署 県営保田窪第一団地 八代市立博物館・未来の森ミュージアム 熊本市営新地団地B 熊本市営託麻団地 牛深漁港連絡橋 湯の香橋 清和文楽館 県立球磨工業高校伝統建築実習棟 石打ダム管理所 湯前まんが美術館・公民館
1992 8 1	A & I Report	再春館レディースレジデンス
1992 8 1	地域情報	アートボリス事業 熊本市警察署 県営保田窪第一団地
1992 8 1	歌誌「惟の木」	県立美術館分館
1992 8 1	新しい都市活動と文化施設	アートボリス事業 熊本市警察署 県営保田窪第一団地 三角港フェリーターミナル 八代市立博物館・未来の森ミュージアム
1992 8 1	EXHIBITION&EVENTS IN JAPAN	くまもとアートボリス92
1992 8 1	建築と社会	くまもとアートボリス92大阪展 熊本市警察署 県営保田窪第一団地 三角港フェリーターミナル 再春館レディースレジデンス
1992 8 1	YELLOW PAGE	アートボリス事業 熊本市警察署 三角港フェリーターミナル 清和文楽館 T O T O A Q U A P I T A S O
1992 8 3	日経アーキテクチャ	アートボリス事業
1992 8 14	ザ・テレビジョン	三角港フェリーターミナル
1992 8 17	日経アーキテクチャ	アートボリス事業
1992 8 31	日経アーキテクチャ	アートボリスシンポジウム アートボリス見学会
1992 9 1	新建築	アートボリスシンポジウム(92) アートボリスパネル展(大阪)
1992 9 1	T i e r r a	アートボリス事業 熊本市警察署 県営保田窪第一団地 三角港フェリーターミナル 八代市立博物館・未来の森ミュージアム 熊本市花畑パークトイレ 熊本市上江津湖畔トイレ 熊本市営新地団地B 熊本市営新地団地C 熊本市営託麻団地 県営常山A団地 清和文楽館 県立芸術古墳館 玉名天望館 再春館レディースレジデンス T O T O A Q U A P I T A S O
1992 9 1	a t	アートボリスシンポジウム(92) アートボリス見学会
1992 9 1	ハウジング情報	熊本市営新地団地B
1992 9 1	建築文化	アートボリスシンポジウム(92) アートボリスパネル展(大阪)
1992 9 1	G r a c i a	アートボリス事業 くまもとアートボリス92 八代市立博物館・未来の森ミュージアム 湯の香橋
1992 9 1	さっぽろタウン情報	アートボリス事業 熊本市警察署 三角港フェリーターミナル 清和文楽館 T O T O A Q U A P I T A S O
1992 9 1	建築雑誌	T O T O A Q U A P I T A S O
1992 9 14	日経アーキテクチャ	アートボリスパネル展(大阪)
1992 9 28	日経アーキテクチャ	県立芸術古墳館
1992 10 1	G A 01 (秋号)	アートボリスシンポジウム(92) 県営保田窪第一団地 三角港フェリーターミナル 県立芸術古墳館 玉名天望館
1992 10 1	C I T Y & L I F E 25号	アートボリス事業 熊本市警察署 県営保田窪第一団地 八代市立博物館・未来の森ミュージアム 清和文楽館 県立芸術古墳館 県立美術館分館
1992 10 1	C O -	くまもとアートボリス92 熊本市警察署

掲 載 年 月 日	掲 載 誌	記事の内容・紹介された建造物
1992 10 1	建築知識	アートボリスシンポジウム(92)
1992 10 1	ハウジング情報	くまもとアートボリス92 県営常山A団地
1992 10 1	月刊かごしま・タウン情報	くまもとアートボリス92 三角港フェリーターミナル 熊本市上江津湖畔トイレ
1992 10 1	approach	T O T O A Q U A P I T A S O
1992 10 1	建築文化	アートボリス八代まちなみ展 県立芸術古墳館
1992 10 1	新建築	八代市立博物館・未来の森ミュージアム 県立芸術古墳館 石打ダム管理所
1992 10 1	日経トレンド	アートボリス事業 熊本市警察署 県営保田窪第一団地 三角港フェリーターミナル 八代市立博物館・未来の森ミュージアム 熊本市営新地団地A 熊本市営託麻団地 県営常山A団地 県立芸術古墳館 県立球磨工業高校伝統建築実習棟 玉名天望館 T O T O A Q U A P I T A S O
1992 10 1	タウンマモト	くまもとアートボリス92 熊本市営新地団地A 熊本市営新地団地B 県営常山A団地 県立球磨工業高校伝統建築実習棟 石打ダム管理所
1992 10 1	S D	大津町第二庁舎・町民交流施設
1992 10 1	PROGRESSIVE ARCHITECTURE	八代市立博物館・未来の森ミュージアム
1992 10 1	K A J I M A	石打ダム管理所
1992 10 1	FUTURE DESIGNING	くまもとアートボリス92 清和文楽館
1992 10 11	週刊読売	アートボリス事業 熊本市警察署 県営保田窪第一団地 三角港フェリーターミナル 八代市立博物館・未来の森ミュージアム 熊本市上江津湖畔トイレ 湯前まんが美術館・公民館 つなぎ物産ギャラリー T O T O A Q U A P I T A S O
1992 10 12	日経アーキテクチャ	再春館レディースレジデンス 湯前まんが美術館・公民館
1992 10 20	A E R A	熊本市警察署
1992 10 23	ザ・テレビジョン	アートボリス事業 くまもとアートボリス92 熊本市警察署 県営保田窪第一団地 三角港フェリーターミナル 熊本市上江津湖畔トイレ 県立球磨工業高校伝統建築実習棟 玉名天望館 T O T O A Q U A P I T A S O
1992 10 26	日経アーキテクチャ	玉名天望館
1992 11 1	室内	くまもとアートボリス92 熊本市警察署 県営保田窪第一団地 加久藤トンネル換気所 三角港フェリーターミナル 熊本市花畑パークトイレ 熊本市上江津湖畔トイレ 熊本市営新地団地A 熊本市営新地団地B 熊本市営託麻団地 県営常山A団地 湯の香橋 清和文楽館 県立芸術古墳館 県立球磨工業高校伝統建築実習棟 松島合津峠末処理場管理棟 石打ダム管理所 玉名天望館 草地産産研究所畜舎 再春館レディースレジデンス 県立美術館分館 湯前まんが美術館・公民館 県営電鉄平団地 つなぎ物産ギャラリー 教会の見えるチャペルの鐘楼展望公園 花の温泉館 T O T O A Q U A P I T A S O
1992 11 1	新建築	くまもとアートボリス92デザインコンペティション 再春館レディースレジデンス
1992 11 1	営繕ニュース	県立芸術古墳館
1992 11 1	ハウジング情報	県立美術館分館
1992 11 1	タウンくまもと	三角港フェリーターミナル 八代市立博物館・未来の森ミュージアム 清和文楽館 県立芸術古墳館 玉名天望館 県立美術館分館 湯前まんが美術館・公民館 つなぎ物産ギャラリー 教会の見えるチャペルの鐘楼展望公園
1992 11 1	文化ジャーナル鹿児島	くまもとアートボリス92 熊本市警察署 県営保田窪第一団地 三角港フェリーターミナル 八代市立博物館・未来の森ミュージアム 清和文楽館 県立芸術古墳館 県立球磨工業高校伝統建築実習棟 玉名天望館 湯前まんが美術館・公民館 教会の見えるチャペルの鐘楼展望公園 T O T O A Q U A P I T A S O
1992 11 1	農	くまもとアートボリス92
1992 11 1	全建ジャーナル	くまもとアートボリス92
1992 11 1	J A F M A T E	アートボリス事業 くまもとアートボリス92 八代市立博物館・未来の森ミュージアム 清和文楽館 湯前まんが美術館・公民館
1992 11 1	日経トレンド	アートボリス事業
1992 11 6	シティ情報ふくおか	アートボリス事業 くまもとアートボリス92 熊本市警察署 加久藤トンネル換気所 三角港フェリーターミナル 八代市立博物館・未来の森ミュージアム

掲載 年月日	掲載誌	記事の内容・紹介された建造物
		アム 県営帯山A団地 湯の香橋 清和文楽館 県立装飾古墳館 県立球磨工業高校伝統建築実習棟 石打ダム管理所 五名天望館 草地畜産研究 所畜舎 湯前まんが美術館・公民館 TOTO AQUAPITASO アートボリス事業 三角港フェリーターミナル 清 和文楽館 アートボリス事業 くまもとアートボリス92 八代市 立博物館・未来の森ミュージアム 県立美術館分館 アートボリス事業 熊本北警察署 三角港フェリー ターミナル 八代市立博物館・未来の森ミュージ アム 清和文楽館 県立装飾古墳館 TOTO AQUAPITASO アートボリス事業 熊本北警察署 県営保田窪第 一団地 八代市立博物館・未来の森ミュージアム 熊本市営新地団地A 熊本市営託麻団地 清和文 楽館 県立装飾古墳館 石打ダム管理所 TOT O AQUAPITASO アートボリス事業 清和文楽館 石打ダム管理所 TOTO AQUAPITASO 熊本市営新地団地B 草地畜産研究畜舎 県立美 術館分館 県立球磨工業高校伝統建築実習棟 清和文楽館 湯前まんが美術館・公民館 アートボリス事業 扶立橋 くまもとアートボリス92デザインコンベンション 牛深漁港連絡橋 くまもとアートボリス92 アートボリス事業 八代市立博物館・未来の森ミュージアム 草地畜 産研究畜舎 五名天望館 熊本北警察署 県営保田窪第一団地 熊本市営新地団 地A 熊本市営託麻団地B 草地畜産研究畜舎 都市デザインサミット 12のアーバンデザイン 県営保田窪第一団地 草地畜産研究畜舎 県立美術館分館 県営保田窪第一団地 くまもとアートボリス92デザインコンベンション入 賞作品 白川橋景観整備 八代市立博物館・未来の森ミュージアム アートボリス事業 県営保田窪第一団地 八代市立博物館・未来の 森ミュージアム 県営保田窪第一団地 熊本市営新地団地A 八代市立博物館・未来の森ミュージアム 県立装 飾古墳館 県営保田窪第一団地 県立装飾古墳館 石打ダム 管理所 草地畜産研究畜舎 県立美術館分館 アートボリス事業 県営保田窪第一団地 清和文楽館 くまもとアートボリス92小国まちなみ展 湯前ま んが美術館・公民館 熊本市花畑パークトイレ 熊本市上江津湖畔トイ レ TOTO AQUAPITASO アートボリス事業 県営保田窪第一団地 熊本市営新地 団地A 熊本市営託麻団地 県営帯山A団地 八代市立博物館・未来の森ミュージアム 草地畜産研究畜舎 くまもとアートボリス事業 くまもとアートボリス92 く まもとアートボリス92デザインコンベンション 県営保田窪第一団地 八代市立博物館・未来の森 ミュージアム 清和文楽館 県立装飾古墳館 草 地畜産研究畜舎 再春館レディースレジデンス 県立美術館分館 湯前まんが美術館・公民館 再春館レディースレジデンス アートボリス事業 熊本北警察署 県営保田窪第 一団地 八代市立博物館・未来の森ミュージアム 熊本市花畑パークトイレ 熊本市営託麻団地 清 和文楽館 県立装飾古墳館 県立美術館分館 八代市立博物館・未来の森ミュージアム TOT O AQUAPITASO アートボリス事業 熊本北警察署 県営保田窪第 一団地 三角港フェリーターミナル 八代市立博
1992 11 14	週刊時事	
1992 11 15	建設月報	
1992 11 23	日経アーキテクチュア	
1992 12 1	ARCAS	
1992 12 1	ポートフォリオ	
1992 12 1	営繕ニュース	
1992 12 1	新建築	
1992 12	新建築 増刊 木の空間	
1992 12 1	SD	
1992 12 1	建築文化	
1992 12 1	熊本新評	
1992 12 20	JUDI NEWS	
1992 12 21	日経アーキテクチュア	
1993 1 1	MANBOW	
1993 1 1	at	
1993 1 1	建築文化	
1993 1 1	新建築	
1993 1 1	住宅特集	
1993 1 1	室内	
1993 1 1	建築士事務所	
1993 1 1	建築ジャーナル	
1993 1 18	日経アーキテクチュア	
1993 1 25	再開発コーディネーター	
1993 1 25	structure	
1993 2 1	新建築	
1993 2 1	日経アーキテクチュア	
1993 2 1	農	
1993 2 1	地域づくり 41号	
1993 2 1	MANBOW	
1993 2 15	日経アーキテクチュア	
1993 2 15	BRUTUS	
1993 2 22	日経アーキテクチュア 増 刊号	
1993 3 1	建築文化	
1993 3 1	受験ジャーナル	
1993 3 1	at	
1993 3 1	CoBuil	

掲載 年月日	掲載誌	記事の内容・紹介された建造物
		物館・未来の森ミュージアム 熊本市上江津湖畔 トイレ 熊本市営新地団地A 熊本市営新地団地 B 県営帯山A団地 湯の香橋 清和文楽館 県 立装飾古墳館 県立球磨工業高校伝統建築実習棟 松島合津終末処理場管理棟 石打ダム管理所 五 名天望館 草地畜産研究畜舎 再春館レディース レジデンス 湯前まんが美術館・公民館 つなぎ 物産ギャラリー TOTO AQUAPITASO

● 編集後記 ●

「壮大な建築の実験」、「総論賛成、各論反対」、「デザイン優先、機能性・居住性無視」等々……。事業構想が発表され、次々にプロジェクトがその姿を現すにつれ、各方面で賛否両論のさまざまな議論が出された「くまもとアートポリス」。

その4年間の成果を国の内外に広く問うとともに、日本の「くまもと」をPRするために多彩なイベントを企画した「くまもとアートポリス'92」—建築分野においては本県初の超大型イベント。建築、まちづくり、都市計画、再開発等は、これまで専門家や一部の関係者のみが係わって、一般住民は傍観者でしかなかった。今回のイベントでは、そうした点も十分配慮した企画が準備されるとともに、地域性を考慮して近年積極的なまちづくりで注目されている「八代」や「小国」では、まさに住民参加の活発なプログラムが展開された。

とはいえ、あまりに多いイベントや、県内各地に点在する対象プロジェクトや既存選定建造物が多いため、期間中に全ての行事に参加することや建物を見て廻ることは不可能であった。広報記録部の私達でさえ、各種広報関係印刷物(ポスター、パンフレット、リーフレット、チラシ、ガイドマップ、ガイドブック)等々の資料収集、企画、編集作業に忙殺され、ついに足を運べなかった行事が多かった。

そうした諸状況や、各種イベントを正確に把握・記録するためにこの記録誌が企画された。また、多岐に渡ったイベントはセクションごとまとめ、分冊として別途発行することとした。「くまもとアートポリス」の精神を後世に正しく伝えるとともに、多くの方々にその全貌を感じとっていただければ幸いである。

この期間に個人的なネットワークで県外からのいくつかのグループを案内したが、そのたびに耳にしたのは、こうしたイベントを運営できる「くまもと」への高い評価であった。他県の関係者から見ると、官・学・産・民が互いに協力しあっている日頃からの体制やコミュニケーションが確立している状況がうらやましい……ということであった。

ともあれ、全国の自治体や建築関係者が注目した一大イベントは一区切りついた。各地で直接、間接に企画・準備・運営等に携わった多くの方々の労をねぎらいたい。計7冊からなる記録誌は、デザイン、形態等を統一し、「くまもとアートポリス'92全集」とでもいうべき体裁とした。限られた極めて短期間でまとめるために御尽力、御協力いただいた方々に心より感謝申し上げます。御高覧のうえ、御意見・御感想等をお寄せいただければ望外の喜びです。

中川誠之(くまもとアートポリス'92実行委員会広報記録部会長)

くまもとアートポリス'92 総合記録

KUMAMOTO ARTPOLIS'92 COLLECTION

1993年3月発行

編集・発行 くまもとアートポリス'92実行委員会

事務局：熊本県土木部建築課内 〒862 熊本市水前寺6丁目18-1 TEL096・383・1111

デザイン 友枝雄策デザイン事務所

印刷 印刷協業組合 サンカラー

- 総合記録
- 都市デザインサミット
- アートポリスフォーラム
- デザイン・コンペティション
- 熊本まちなみ展
- 八代まちなみ展
- 小国まちなみ展

**KUMAMOTO
ARTPOLIS '92**

